

令和 5 年度

15 期生

講 義 概 要

シラバス : Syllabus

学校法人 美専学園

北海道医薬専門学校

看 護 学 科

まえがき

この講義概要（シラバス）は、卒業までの講義の単位数、実施学年、学期、各科目のねらい、単元目標、講義内容・方法、使用教科書の予定を収録したものです。3年間の学習内容の把握、授業準備等に役立てていただきたいと思います。講義概要の記載内容は下記のとおりです。

1. 各科目のねらいとは、学習者が教科を修了したときにどこに到達できるのかを総括的に記述したものです。
2. 単元目標とは、各科目のねらいを達成するために、各単元の到達点を具体的な言葉で書き表したものです。
3. 講義内容は、単元ごとにその内容を示しています。
4. 教科書は、科目ごとに使用するテキスト名を記載しています。しかし、テキストは改訂時に変更される場合があります。
5. 複数講師で構成される科目については、時間数に相当する配点一覧表を記載しておりますので参考にしてください。変更がある場合は、その都度ご報告します。
6. 臨地実習については別途、実習要綱を配布します。

本校では学則で定められた教科目の全てを履修し、認定されることで、卒業が認められます。看護師として社会に貢献できる有能な人材となることを目標に、学習に励みましょう。

学科長 安田格司

北海道医薬専門学校教育理念

本校は医療の根底にある奉仕と慈愛の精神を尊重し、「真の医療人」を育成して医療界に貢献する。

看護学科教育理念

本学科は、人間の生命と多様な価値観を尊重する精神を基盤にし、「自主創造」を核にした心豊かな幅広い人間性を培い、看護の知識・技術を統合し、社会の変化や地域のニーズに対応した看護を提供でき、国際的視野をもった専門職業人を育成する。

教育目的・教育目標

教育目的

生命および個人を尊重できる豊かな人間性をもち、看護を実践するために必要な専門的知識・技術・態度を修得し、地域社会に貢献できる有能な人材を育成する。

教育目標

1. 人間尊重を基盤としたコミュニケーション能力を育むことができる。
2. 科学的思考に基づき健康状態に応じた看護を実践することができる。
3. 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働することができる。
4. 看護師としての責務を自覚し、倫理的な判断を基に看護を実践することができる。
5. 主体的・創造的に学び続ける姿勢がもてる

年次目標

教育目標	1年次目標	2年次目標	3年次目標
人間尊重を基盤としたコミュニケーション能力を育むことができる。	1)人間とは何かを考え、関心を持つことができる。 2)人間には身体的・精神的・社会的側面があることを知る。 3)自己を理解し、他者を尊重することができる。	1)人間は個人として尊重された生き方をしていることがわかる。 2)人間には身体的・精神的・社会的側面があることを理解する。 3)人々の多様な価値観を認識し、共感的態度で接することができる。	1)人間は身体的・精神的・社会的に統合された存在であることがわかる。 2)人間の尊厳と人格を尊重して接することができる。 3)互いの立場を理解した人間関係を築くことができる。
科学的思考に基づき健康状態に応じた看護を実践することができる。	1)看護の主要概念、目的、役割が分かる。 2)根拠をもって、原理・原則に基づいた基本的看護技術ができる。 3)看護は、論理的・科学的思考を用いて展開していることがわかる。 4)健康とは何かを考えることができる。 5)自己の健康や生活に関心が持てる。	1)根拠を明確にし、対象の状況に応じた基本的看護技術を実施できる。 2)実施した看護を振り返り、評価できる。 3)健康の状況を理解し人間はそれぞれの状況で生活していることがわかる。 4)健康の捉え方には個人の考えや環境が影響していることがわかる。 5)自己の健康を保持するために生活を整えることができる。	1)対象の生活の場と健康課題に応じた看護を、科学的根拠に基づいた看護実践から理解できる。 2)自己の健康管理ができる。
看護の役割を理解し、多職種と連携・協働することができる。	1)保健・医療・福祉制度の概要を理解する。 2)対象の生活を支えるためにチーム医療にかかわる職種とその役割を理解する。	1)対象の生活を支えるために社会資源を活用することの必要性がわかる。 2)チーム医療の一員として連携・調整の重要性を認識し、メンバーシップがとれる基礎的能力を養う。	1)対象の生活を支えるために適した社会資源の活用の実際がわかる。 2)チーム医療における看護職の役割をふまえ、対象の健康課題に応じた連携・調整の実際がわかる。 3)看護チームにおけるリーダーの役割を理解する。
看護師としての責務を自覚し、倫理的な判断を基に看護を実践することができる。	1)看護倫理とは何かを理解する。 2)個人のプライバシーや情報の保護ができる。 3)学校の行動規範を守ることができる。	1)看護倫理に基づいて考えることができる。 2)人々の多様な価値観を尊重した行動をとることができる。	1)看護倫理に基づいた行動が看護実践を通して理解できる。
主体的・創造的に学び続ける姿勢がもてる	1)自ら学習環境を整えることができ、主体的に学習することができる。 2)社会への関心を持つことができる。	1)計画的・主体的に学習することができる。 2)保健・医療・福祉の動向と課題を知る。	1)主体的・創造的に学び続けることができる。 2)保健・医療・福祉の動向と課題がわかる。

進度表

教育内容		科 目	単位数	時間数	1 学年		2 学年		3 学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考 の基盤	倫理学Ⅰ	1	15	←→					
		倫理学Ⅱ	1	15			←→			
		情報リテラシー	1	15	←→					
		情報科学	1	30	←→					
		文章表現法	1	15	←→					
	人間と 生活、社会 の理解	生活科学	1	30	←→					
		心理学	1	30	←→					
		教育学	1	30	←→					
		社会学	1	30	←→					
		健康とスポーツ	1	30	←→	→				
		英語Ⅰ	1	15			←→			
		英語Ⅱ	1	30					←→	→
		芸術	1	15	←→					
		プロフェッショナルスキル	1	15				←→		
	小 計		14	315	10	240	3	45	1	30
専門基礎分野	人体の構造 と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	←→					
		解剖生理学Ⅱ	1	30	←→	→				
		解剖生理学Ⅲ	1	30		←→				
		解剖生理学Ⅳ	1	15		←→				
		解剖生理学Ⅴ	1	30	←→	→				
		生化学	1	30		←→				
	疾病の成り 立ちと回復 の促進	病理学	2	30	←→	→				
		病態学Ⅰ	1	30	←→	→				
		病態学Ⅱ	1	30	←→	→				
		病態学Ⅲ	1	30		←→				
		病態学Ⅳ	1	30		←→				
		微生物学	1	30		←→				
		薬理学の基礎	1	15			←→			
		臨床薬理学	1	15			←→			
		栄養食事療法	1	30	←→	→				
	健康支援と 社会保障 制度	総合医療論	1	15		←→				
		公衆衛生学	1	30			←→			
		関係法規	2	30					←→	→
		社会福祉Ⅰ	1	15			←→			
		社会福祉Ⅱ	1	15					←→	
小 計		22	510	15	390	4	75	3	45	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	←→					
		看護学概論Ⅱ	1	30	←→					
		看護の共通技術Ⅰ	1	30	←→	→				
		看護の共通技術Ⅱ	1	30	←→	→				
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	←→	→				
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	←→	→				
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30			←→			
		看護過程Ⅰ	2	30		←→				
		診療の補助技術Ⅰ	1	30	←→	→				
		診療の補助技術Ⅱ	1	30					←→	→

教育内容		科 目	単位数	時間数	1 学年		2 学年		3 学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野	地域・在宅看護論	地域で生活する人々の理解	1	15		↔					
		地域で生活する人々を支える基盤Ⅰ	1	30			↔				
		地域で生活する人々を支える基盤Ⅱ	1	15			↔	↔			
		地域・在宅看護に必要な技術	1	15				↔	↔		
		地域・在宅での終末期看護	1	15				↔	↔		
		地域・在宅の看護を考える	1	30				↔	↔		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		↔					
		急性期・救急の患者を支える看護	1	15			↔	↔			
		周術期の患者を支える看護	1	30			↔	↔	↔		
		慢性期・回復期の患者を支える看護	1	15			↔	↔	↔		
		終末期の患者を支える看護	1	30				↔	↔		
		がん患者を支える看護	1	15				↔	↔		
		看護過程Ⅱ	1	30			↔	↔	↔		
		成人期の看護の実際	1	30				↔	↔		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		↔					
		老年期の特徴をふまえた看護	1	30			↔	↔			
		老年期の疾患と看護	1	15			↔	↔	↔		
		認知症患者の看護	1	30				↔	↔		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			↔	↔			
		子どもの病気・障がいと生活支援	1	30			↔	↔			
		病気をもつ子どもの療養と看護	1	30				↔	↔		
		子どもに必要な看護技術	1	15				↔	↔		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			↔	↔			
		マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	1	30			↔	↔			
		マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	1	30				↔	↔		
		ウイメンズヘルスと看護	1	15				↔	↔		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30			↔	↔			
		精神疾患をもつ人の理解	1	30			↔	↔	↔		
		精神看護に必要な技術	1	30				↔	↔		
		精神疾患をもつ人の生活と看護	1	15					↔	↔	
	看護の統合と実践	ケーススタディ	1	30			↔	↔			
		医療安全と看護管理	1	30					↔	↔	
		チーム医療と看護	1	30					↔	↔	
		災害看護と国際看護	1	30					↔	↔	
	小 計			45	1155	12	315	28	705	5	135
	臨地実習	療養生活を知る実習	1	45		↔					
		療養生活を支える実習Ⅰ	2	90		↔					
		地域・在宅看護論実習	2	90					↔	↔	
		急性期看護実習	2	90				↔	↔		
		慢性期・回復期看護実習	2	90			↔	↔			
		終末期看護実習	2	90					↔	↔	
		健康支援実習	2	90				↔	↔		
		療養生活を支える実習Ⅱ	2	90					↔	↔	
		小児看護学実習	2	90					↔	↔	
		母性看護学実習	2	90					↔	↔	
		精神看護学実習	2	90					↔	↔	
		看護の統合と実践	2	90						↔	↔
	小 計			23	1035	3	135	6	270	14	630
合 計			104	3015	40	1080	41	1095	23	840	

単位認定試験 配点表

1年生

分野	教科目名	単位数	時間数	試験時間	講師名	配点	試験方法
基礎分野	倫理学Ⅰ	1	15	45分	中村 今朝良	100	筆記試験
	情報リテラシー	1	15	45分	佐瀬 雄治	100	筆記試験80% レポート20%
	情報科学	1	30	60分	佐瀬 雄治	100	筆記試験80%小テスト・レポート20%
	文章表現法	1	15	45分	山本 貴昭	100	筆記試験
	生活科学	1	30	60分	奥寺 仁子	100	筆記試験80% 課題への取り組み20%
	心理学	1	30	60分	岸 靖亮	100	筆記試験90% レポート等10%
	教育学	1	30	60分	太田 俊一	100	筆記試験
	社会学	1	30	60分	森下 義亜	100	筆記試験(最終試験60%) 平常点40%
	健康とスポーツ	1	30	60分	斗澤 由香子	100	実技50%レポート30%筆記試験20%
	芸術	1	15	総合評価	徳中 康弘	100	演習評価
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	30	60分	賀佐 伸省	100	筆記試験
	解剖生理学Ⅱ	1	30	60分	賀佐 伸省	100	筆記試験
	解剖生理学Ⅲ	1	30	60分	賀佐 伸省	100	筆記試験
	解剖生理学Ⅳ	1	15	45分	賀佐 伸省	100	筆記試験
	解剖生理学Ⅴ	1	30	総合評価	池田 緑 他	100	レポート50% 演習評価30% 確認テスト20%
	生化学	1	30	60分	漆原 範子	100	筆記試験85% 問題演習15%
	病理学	2	12	60分	呼吸器・先天異常・内分泌 鵜飼 渉	40	筆記試験
			4		循環器 佐々木 裕也	15	筆記試験
			4		腫瘍 高畑 むつみ	15	筆記試験
			6		免疫 四十坊 直貴	20	筆記試験
			2		専任教員	10	レポート
	病態学Ⅰ	1	14	60分	呼吸器 三原 将昭	50	筆記試験
			14		循環器 鎌田 武	50	
	病態学Ⅱ	1	16	60分	消化器 西田 靖仙	60	筆記試験
			4		免疫・アレルギー 中村 聡子	10	
			8		血液・造血器 杉田 純一	30	
	病態学Ⅲ	1	4	60分	運動器 寺島 嘉紀	15	筆記試験
			4		運動器 高橋 輝一	15	
			12		脳神経 齋藤 健	40	
			8		腎・泌尿器 岡部 洸 藤野 景子	30	
	病態学Ⅳ	1	2	60分	皮膚 牧野 雄太	5	筆記試験
			4		眼科 水内 一臣	15	
			4		耳鼻咽喉 白崎 英明	15	
			4		歯科口腔系疾患 北川 善政	15	
			4		女性生殖器 倉 ありさ	15	
			10		内分泌・代謝 井川 裕之	35	
	微生物学	1	30	60分	續 佳代	100	筆記試験
	栄養食事療法	1	18	60分	池田 順子	70	
			10		松田 清美	30	
	総合医療論	1	15	45分	森 満	100	筆記試験
専門分野	看護学概論Ⅰ	1	30	60分	澤崎 恵美	100	筆記試験80% レポート20%
	看護学概論Ⅱ	1	30	60分	澤崎 恵美	100	筆記試験60% 課題20% 予習シート20%
	看護の共通技術Ⅰ	1	18	60分	藪田 由美	65	筆記試験
			10		石田 美香	35	
	看護の共通技術Ⅱ	1	14	60分	櫻井 葉子	50	筆記試験60% 演習40%
			14		専任教員	50	
	日常生活援助技術Ⅰ	1	12	60分	櫻井 葉子	40	筆記試験
			12		榎本 真美	40	
			4		澤崎 恵美	20	
	日常生活援助技術Ⅱ	1	12	60分	阿部 綾	40	筆記試験
			8		榎本 真美	30	
			8		石田 美香	30	
	診療の補助技術Ⅰ	1	8	60分	堀川 亜希	30	筆記試験
			14		石田 美香	50	
			6		三上 剛人	20	
	看護過程Ⅰ	2	30	45分 レポート	池田 緑 他	100	筆記試験50% レポート50%
	地域で生活する人々の理解	1	15	60分	榎本 真美	100	筆記試験
	成人看護学概論	1	30	60分	堀川 亜希	100	筆記試験
	老年看護学概論	1	30	60分	藪田 由美	100	筆記試験

実務経験のある教員による授業科目の単位数（時間数）

◆看護学科

	教員名	教科目	時間	実務経験に係る内容	その他
1	池田 緑	解剖生理学 V	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が看護の視点をもって解剖生理学の授業を担当する。	
		看護過程 I	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護過程の技術についての授業を担当する。	
	2 澤崎 恵美	看護学概論 I	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護の概念や看護の対象についての授業を担当する。	
		看護学概論 II	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護の歴史や看護理論についての授業を担当する。	
		日常生活援助技術 I	4	看護師として臨床で実務経験のある教員が、対象の苦痛を緩和する技術についての授業を担当する。	
3	櫻井 葉子	看護の共通技術 II	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、対象の健康状態の観察と評価についての授業を担当する。	
		日常生活援助技術 I	14	看護師として臨床で実務経験のある教員が、快適な療養環境を整える技術についての授業を担当する。	
4	堀川 亜希	診療の補助技術 I	8	看護師として臨床で実務経験のある教員が、感染予防の技術についての授業を担当する。	
		成人看護学概論	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、成人期の対象の特徴や成人看護の基本となる考え方についての授業を担当する。	
5	薮田 由美	看護の共通技術 I	18	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護の基本となるコミュニケーション技術についての授業を担当する。	
		老年看護学概論	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、高齢者に対する看護についての授業を担当する。	
6	柂本 真美	日常生活援助技術 I	12	看護師として臨床で実務経験のある教員が、人間の活動・移動・姿勢への援助方法についての授業を担当する。	
		日常生活援助技術 II	8	看護師として臨床で実務経験のある教員が、食事援助の看護技術についての授業を担当する。	
		地域で生活する人々の理解	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、地域で暮らす人々の暮らしや生活環境についての授業を担当する。	
7	阿部 綾	日常生活援助技術 II	12	看護師として臨床での実務経験のある教員が、清潔保持のための看護技術についての授業を担当する。	

8		解剖生理学Ⅴ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が看護の視点をもって解剖生理学の授業を担当する。	
		看護の共通技術Ⅱ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、対象の健康状態の観察と評価についての授業を担当する。	
		看護過程Ⅰ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護過程の実践についての授業を担当する。	
9	石田 美香	看護の共通技術Ⅰ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護における学習支援や看護記録の実践についての授業を担当する。	
		日常生活援助技術Ⅱ	8	看護師として臨床で実務経験のある教員が、排泄の看護技術についての授業を担当する。	
		診療の補助技術Ⅰ	14	看護師として臨床で実務経験のある教員が、診療の補助技術についての授業を担当する。	
10	三原 将昭	病態学Ⅰ (呼吸器)	15	専門分野において活躍している現役看護師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
11	鎌田 武	病態学Ⅰ (循環器)	15	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
12	西田 靖仙	病態学Ⅱ (消化器)	16	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
13	中村 聡子	病態学Ⅱ (免疫・アレルギー)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
14	杉田 純一	病態学Ⅱ (血液・造血器)	8	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
15	高橋 輝一	病態学Ⅲ (運動器)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
16	寺島 嘉紀	病態学Ⅲ (運動器)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学について授業を担当する。	
17	岡部 洸	病態学Ⅲ (腎・泌尿器)	8	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
18	齋藤 健	病態学Ⅲ (脳神経)	12	専門分野において活躍している現役看護師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
19	井川 裕之	病態学Ⅳ (内分泌・代謝)	10	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学について授業を担当する。	
20	牧野 雄太	病態学Ⅳ (皮膚科)	2	専門分野において活躍している現役看護師が、看護に必要な病態学について授業を担当する。	
21	水内 一臣	病態学Ⅳ (眼科)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学について授業を担当する。	
22	白崎 英明	病態学Ⅳ (耳鼻咽喉)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	

23	北川 善政	病態学Ⅳ (歯科・口腔科)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
24	倉 ありさ	病態学Ⅳ (女性生殖器)	4	専門分野において活躍している現役医師が、看護に必要な病態学についての授業を担当する。	
25	三上 剛人	診療の補助技術Ⅰ	6	実務経験を経て、救命救急士養成に携わっている教員が、救命処置についての授業を担当する。	
	専任教員	療養生活を知る実習	45	学内で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護実践の基礎的能力を養うための指導を行う。	
		療養生活を知る実習Ⅰ	90		
合計 593 時間					

倫理学 I

1単位（15時間）：1学年 前期

担当講師名： 中村 今朝良

ねらい

倫理学の基礎的概念を学び、人間の生活におけるさまざまな倫理のあり方を理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
現代倫理 の議論 (14 時間)	1. 各回の考察を通じて、倫理の基礎的概念とは何かを考える。 2. 各回で個人と社会の倫理および具体的活動における倫理について考える。 3. 自分はどのように生きたらよいのかを考える機会とする。	1-2. 倫理とは何か 3-4. 幸福とは何か 5-6. 義務とは何か 7-8. 徳とは何か 9-10. なぜ道徳的であるべきか 11-12. 正義、自由、平等 13. 医療と倫理 14. まとめ	講義
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：プレップ倫理学（弘文堂） 評価方法：筆記試験（100%）			

情報リテラシー

1単位（15時間）：1学年 前期

担当講師名：佐瀬 雄治

ねらい

1. 医療人、看護師として必要不可欠な情報の取り扱いについて理解をする
2. 看護研究、看護業務を行う上で活用する情報の取捨選択を行えるようになるための基礎的能力を養う。

単元(時間数)	目 標		方 法
ネットを利用したコミュニケーション基礎 (2 時間)	1 看護師、看護学生としてのSNS利用の基礎を理解する。	1. 医療人としてのSNS利用の基礎 2. 情報発信者の責務・訴訟リスク 3. ネット社会におけるトラブルと犯罪	講義・演習 小テストにより理解度を確認する。
モバイル機器の活用と管理 (2 時間)	1 様々な場面で活用するモバイル機器の使用についての基礎を理解する。	1. モバイル機器の使用ルール 2. アプリケーションツールの活用 3. 紛失の危険性と注意点	講義 小テストにより理解度を確認する。
著作権 (2 時間)	1 講義課題、資料作成における著作権のあり方について理解する。	1. 著作権とは 2. 著作権違反に対する罰則 3. コピペとは 4. 正しいレポート作成方法	講義 小テストにより理解度を確認する。
セキュリティ (2 時間)	1 インターネットを活用する際のセキュリティの重要性を理解する	1 コンピュータウイルス 2 ランサムウェアとは 3 医療機関での感染事例 4 感染対策	講義 小テストにより理解度を確認する。
個人情報の適切な取り扱い (2 時間)	1 医療現場で生み出される個人情報の取り扱い方法について理解する。	1. 医療人としての個人情報の保護 2. 個人情報流出事例とリスク 3. 医療人としての個人情報の活用	講義 小テストにより理解度を確認する。
電子メールの扱い方 (2 時間)	1. 電子メールの作成方法やマナーについて理解する。	1. 電子メールの基本 2. 電子メールの送信マナー 3. メーリングリストの活用方法 4. 悪意のあるメールへの対処方法	講義・演習 小テストにより理解度を確認する。
情報検索 (2 時間)	1. 情報検索方法について理解する。	1. インターネットを利用した情報検索 2. 学術情報のデータベースと利用方法 3. 学術論文	演習 検索方法を習得する。
	2. 学術情報の検索と情報源について理解する。	4. 情報の信憑性 5. 学術情報の検索 (CiNii、Google Scholar)	
単位認定試験 (1 時間)	1. 学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：なし 評価方法：筆記試験（80%）、小テスト・レポート（20%）			

情報科学

1単位（30時間）：1学年 前期

担当講師名：佐瀬 雄冶

ねらい

1. 医療人として最低限必要な情報技術に関する基礎的な知識を理解する。
2. コンピューターの基本的操作方法・情報処理の方法を習得し、看護研究などに応用できる基礎的能力を養う。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
コンピュータの基礎（ハードウェアとソフトウェア） （8時間）	1. コンピューターの構成と動作原理を理解する。 2. データの表現方法を理解する。 3. ソフトウェアの種類と役割について理解する。	1. コンピュータの各部の名称と役割 2. コンピュータの仕組み（CPU、メインメモリ、補助記憶装置） 3. コンピュータの種類と特徴 4. 入出力装置の種類と特徴 5. 記録媒体の種類と特徴 6. 2進数、16進数の特徴や演算 7. ビット、バイトなど、情報量の表し方 8. OSの必要性、機能、種類、特徴 9. ファイル管理 10. ソフトウェアパッケージの特徴 11. オープンソースソフトウェアの特徴	講義 小テストにより理解度を確認する。
情報セキュリティ （2時間）	1. 脅威とぜい弱性について理解する。 2. 情報セキュリティの管理と対策について理解する。	1. 脅威の種類と特徴 2. 情報セキュリティマネジメントシステム 3. 人的・技術的・物理的対策	講義 小テストにより理解度を確認する。
病院情報システム （2時間）	1. 医療情報の種類と特徴、病院情報システムの概要を理解する。	1. 医療情報の種類と特徴 2. 病院情報システムと電子カルテ 3. 情報倫理と個人情報保護	講義 小テストにより理解度を確認する。
PC、ソフトウェアの基本操作・処理 （16時間）	1. PCの各部の名称と役割を理解し、周辺装置と接続できる。	1. モニタ、プリンタ、マウス、キーボード、プロジェクタとの接続 2. Windowsの基本的な操作	演習 PCの基本操作 周辺装置との接続
	2. 各ソフトウェアの使用方法を学び、使用することができる。	3. MS-Wordの使い方 4. MS-Excelの使い方 5. MS-PowerPointの使い方 6. MS-Wordを用いたアンケート	文章作成、表計算、統計（レポート提出）
	3. 各使用目的によってソフトウェアを選択し、活用できる。	7. プレゼンテーション資料の作成 8. プレゼンテーション方法の修得	プレゼンテーション（レポート提出）
単位認定試験 （2時間）	1. 学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：なし 評価方法：筆記試験（80%）、小テスト・レポート（20%）			

文章表現法

1単位（15時間）：1学年 前期

担当講師名：山本 貴昭

ねらい

文章表現の基本を理解し、わかり易く簡潔な表現方法を身につける。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
文章の役割 と活用の仕方 (2 時間)	1. 文章の種類を理解し、論理的な文章の特徴について理解する。 2. 論理的な文章に必要な要素を理解する。	1. 文章の種類 ・論理的な文章と呼べないもの 2. 論理的文章の必要要素 ・根拠、理由 ・わかりやすさ	講義
文章を書く 基本 (10 時間)	1. 文章を書く時の基本的なルールを理解する。 2. 論理的な文章にふさわしい語を理解する。 3. 簡潔でわかりやすい文の書き方を理解する。 4. 文と文とを論理的に結ぶ方法を理解する。 5. 段落の作り方と文章全体の展開方法を理解する。	1. 用紙の使い方 ・数字、アルファベットの示し方 ・符号の使い方 ・図、表、写真の示し方 2. 語の選び方 ・くだけた言葉、口語表現を避ける ・難解な言葉を避ける ・指示語の使い方 3. 文のよじれを防ぐ ・主語と述語 ・語の省略 4. 簡潔でわかりやすい文 (文の長さ・数え上げる表現・文末表現・文体など) 5. 文と文の接続 ・接続詞、接続表現 ・順接と逆接 6. 段落と文章全体の展開 (段落の構成、序論・本論・結論の展開とその文例)	講義
演習 (2 時間)	1. 論理的に考え、受け手にわかり易い表現で伝える事ができる。	1. 練習問題 ・具体例を挙げて文章を書く ・課題文を読んで、自分の考えを述べる	演習
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：ナースのための実践論文講座（人文書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

生活科学

1単位（30時間）：1学年 前期

担当講師名：奥寺仁子

ねらい

生活は、「ほかの人とかかわりを持ちながら生きる」ことである。生活の基本である食生活、衣

	目 標	内 容	方 法
日本の 環境と生活 （ 4 時間 ）	1 自然を理解し、また自然への働きかけや対応の上手な方法を理解する。 2 地球にやさしい、心豊かな生活をする姿勢を実践できる。	1 日本の気候 四季の気候の特色 2 災害と日本の自然環境 台風、地震 3 生活と環境破壊 温暖化、大気・水質汚染	講義 演習
食生活 （ 8 時間 ）	1 栄養のバランスに重点をおいた食生活を考えることができる。 2 わが国の食料自給率の低い水準と食品ロスについて考える。	1 食物成分と栄養バランス 2 食品の保存と管理 3 食生活の安全性と問題点 4 日本および世界の食料事情	講義 演習
衣生活 （ 6 時間 ）	1 被服の機能と特性を学び、目的に応じた被服を選択することができる。 2 衣服に対する科学的理解を深め、資源や環境との関連を理解する。	1 被服の機能 (1) 保健的機能 (2) 装飾的機能 2 被服の原材料および品質表示 3 目的に応じた被服とその安全性 4 被服の管理	講義 演習

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
住生活 （ 4 時間 ）	1 住居は、人間性を回復する場であり、健康な環境の創造を目指すことを理解する。 2 今日の居住環境を取り巻く状況や問題点、課題を理解する。	1 住まいとは 2 住まいに求められる機能とそれへの対応 ・不慮の事故 ・防犯 ・防災 ・照明 ・高齢者と障がい者の住まい	講義 演習
エネルギーの利用 （ 2 時間 ）	1 生活に利用されるエネルギーについて学び、わが国における現状を把握する。 2 わが国のエネルギー資源の現状を学び今後の課題を考える。	1 生活に利用されるエネルギー ・石油、ガス ・電気と家庭電化製品 2 わが国におけるエネルギー資源の現状と対策	講義 演習
消費生活の諸問題 （ 4 時間 ）	1 大量消費時代における消費者としての在り方を考える。 2 むだな消費を省き実質を重んじた生活を営むよう努める姿勢を身につける。	1 消費者基本法 2 消費問題 ・食品 ・衣料品 ・家庭用品 ・契約販売 3 SDG s について	講義 演習
単位認定試験（ 2時間）	既習の学習内容の 再確認		試験
教科書：生活科学（オーム社）			
評価方法：筆記試験(80%)、課題への取組(20%)			

心理学

1 単位 (30時間) : 1学年 前期

担当講師名: 岸 靖亮

ねらい

人間の「心の働き」によって生じる現象が心理学的立場からはどのように説明されるのか、基礎的理解を深め、医療人として対人支援を行う際の礎とする。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
イントロダクション (2 時間)	1. 心理学とはどのような事象を対象とする学問か理解し、これを学ぶ意義を知る。	1. オリエンテーション、評価方法 等 2. 心理学とはどんな学問か？ 3. 心理学の定義、ルール、背景 4. 医療と心理学	講義
知覚・認知・記憶の心理学 (4 時間)	1. 知覚の成立条件と認知の仕組みを理解する。 2. 人間の注意と情報処理の関係について学び、医療事故の予防に繋げる。	1. 知覚の成立 ・感覚、知覚、認知の成立条件 2. 知覚の種類 ・空間、運動、時間感覚、錯覚、錯視 3. 注意機能 ・注意とは何か、情報の取捨選択 ・能動的注意、受動的注意	講義・演習
記憶・学習の心理学 (4 時間)	1. 記憶の仕組みと情報の結びつきについて学ぶ。 2. 学習理論を学び、行動変化の仕組みを理解する。	1. 記憶のしくみ ・感覚記憶、短期記憶、長期記憶 ・記憶方略、忘却 2. 学習理論 ・連合説と認知説 ・学習効果	講義
思考・知能の心理学 (2 時間)	1. 人間の思考のプロセスを学ぶ。 2. 知能の定義を学び、検査方法と留意点を把握する。	1. 思考と意思決定 ・ヒューリスティクスとアルゴリズム ・認知バイアス 2. 知能と知能の発達 ・知能検査、知的発達障害	講義
動機づけの心理学 (2 時間)	1. モチベーションについて学び、患者へのアプローチのヒントとする。 2. 覚醒水準と仕事の効率の関連性について学び、理解する。	1. 動機づけとは何か？ ・マズローの欲求段階説、達成動機 ・自己効力感、学習性無力感 2. 内発的動機づけと外発的動機づけ ・認知的評価理論、報酬 3. 覚醒水準と動機づけ ・ヤーキス・ドットソンの法則	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
ストレスの心理学 (6 時間)	1. ストレスの性質を理解する。 2. ストレスに作用する認知・人格・社会的要因を学び、アセスメントへの活用を目指す。 3. ストレスマネジメントの知識と方法を学習する。	1. ストレスとは何か？ ・ ストレスとストレッサー ・ 外傷体験、ライフイベント 日常苛立ちごと 2. ストレス反応とストレス理論 ・ 汎適応症候群、急性ストレス障害 3. ストレスとパーソナリティ ・ タイプAとタイプC、バーンアウト 4. 職業ストレスと現代社会の取り組み 5. ストレスマネジメント ・ ソーシャルサポートとストレス ・ ストレスマネジメントの種類と方法	講義・演習
社会心理学 (2 時間)	1. 社会心理学の基本概念を理解する。 2. パーソナリティの分析方法を学ぶ。 3. 個人と集団のあり方、社会構成について理解する。	1. 社会心理学の基本概念 2. パーソナリティの捉え方 ・ TEGⅡを用いた人格検査 ・ 誤った人格の捉え方 3. 集団の心理 ・ 集団の定義、集団の性質 ・ 他者存在のパフォーマンスへの影響	講義
コミュニケーションの心理学 (8 時間)	1. コミュニケーションにより生じる効果について学ぶ。 2. カウンセリングと心理療法について理解する。 3. 自己対処能力を向上し、自立支援力を高める方法を学ぶ。 4. 患者の心理状態に沿った対応と、その効果を理解する。	1. 言語的・非言語的コミュニケーション ・ 言語表現と非言語表現 ・ 非言語表現の種類とその意味 2. 自己理解と他者理解 ・ 対人認知、印象形成 ・ ステレオタイプ、偏見 3. 援助的コミュニケーション ・ カウンセリングの技法 ・ 自己開示、返報性とカタルシス効果 4. 患者の受診時の心理と対応 ・ 患者が知りたい情報とその伝え方 ・ インフォームドコンセント	講義・演習
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：なし 参考書：系統看護学講座 基礎分野 心理学 (医学書院) 評価方法：筆記試験90% レポート等10%			

教育学

1単位（30時間）： 1学年 前期

担当講師名： 太田 俊一

ねらい

教育の理論と方法を学び、学習の自発性と生活する人間にとっての教育の必要性を理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
人間の成長と教育の意義 (6 時間)	1. 教育の意義を理解する。 2. 様々な環境の影響と教育の関連を理解する。 3. 看護の中の教育を考える。 4. 適切な文章表現力を身につけ、学習を表現できる基礎知識を学ぶ。	1. 教育と物の形成との相違 2. 生物・人間の生成過程と特質 3. 人間の学習と成長・発達 4. 人間の生成への環境の影響 (自然環境、文化環境、人間環境) 5. 意図的な人間形成作用としての教育 6. 教育の力を左右する諸条件 7. 自主的な学習と生活との関連 8. 看護と教育	講義
家庭教育 (4 時間)	1. 家庭教育の意義を学び家族の集団特性を理解する。 2. 現代の家庭と教育の問題点を理解する。	1. 家庭教育の意義 2. 子どもの社会化と家庭教育 ・家族という集団/家族における社会化 3. 社会化の諸側面 4. 現代の家庭と教育の問題 (文化的・現代的側面)	講義
生涯学習支援の社会教育 (4 時間)	1. 生涯教育の概念を学び、社会教育の動向を理解する。 2. 社会教育の領域と生涯学習関連事業を理解する。 3. 生涯教育における各期の学習を支援の意義を理解する。	1. 生涯学習社会への移行と社会教育 ・生涯学習社会の考え方 ・生涯学習社会の考え方教育 ・学習システムと社会教育 ・社会教育の動向 2. 社会教育の領域 ・社会教育の諸領域 ・社会教育にかかわる生涯学習関連事 3. 生涯各期の学習を支援する社会教育 ・青少年/成人の学習を支援する社会教育 ・高齢者の学習を支援する社会教育 ・保健衛生知識についての生涯学習支援 4. 社会教育の施設	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
学校教育 の制度 (4 時間)	1. 学校教育の変遷と制度の発達を理解する。 2. 異なる国の学校制度の特性を理解し、わが国との違いを理解する。 3. 各種学校の教育制度の概要を理解する。	1. 学校制度の成立と発展 ・ 社会生活の変遷と教育組織 ・ 学校教育の成立と制度の発達と改革 2. 各国における学校制度 (アメリカ/イギリス/フランス/ ドイツ/ロシア/中国) 3. わが国の学校制度 ・ 戦前/戦後の学校制度 ・ 学校教育制度の普及 4. 現代学校制度の改革の動向 5. 各種学校と専修学校 6. 看護教育制度の課題 7. 現代社会と学校制度	講義
教育目的 と指導 (6 時間)	1. 教育目的の考え方と目標と方法を理解する。 2. 学習指導の意義・目標を学び、原理を理解する。 3. 生活指導の特質を理解する。	1. 教育目的の考え方 2. わが国現行法の教育目的と教育目標 ・ 教育基本法の教育目的 ・ 学校教育法の目的と目標 3. 教育意図・教育実践・教育方法 4. 教育方法の基本原則 5. 学習指導の意義・目標 6. 教育内容と教材 7. 学習指導の原理と指導過程 8. 指導技術 9. 学習指導メディア 10. 生活指導の意義・方法 11. 生活指導の実際	講義
教育評価 (4 時間)	1. 教育評価の意義と機能を学び、評価の目的を理解する。 2. 教育評価の方法と自己評価の意義を理解する。	1. 教育評価の意義と目的 (意義/歴史的発展/機能/目的) 2. 教育評価の方法 (各種テスト/様々な技法による評価) 3. 自己評価とフィードバック ・ 自己評価の意義/方法 ・ フィードバックの意義/方法 4. 到達度評価 5. 絶対評価の重視	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎分野 教育学 第8版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

社 会 学

1単位（30時間） ： 1学年 前期

担当講師名： 森下 義亜

ねらい

1. 人々が無意識に・漠然ともつ社会のイメージを複眼・批判的に再考することの意義を認識する。
2. 人々の間にある多様な社会的関係や、社会の構造・可変性への意識や想像力を喚起する。
3. 人々の考え方や立場に間接・潜在的に関係する事柄の多様性に配慮し、建設的な協調ができる。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
社会・社会学とは (2 時間)	1. 社会学の考え方を 知る。 2 複眼・批判的な視 点を理解する。	1. 社会・学とは何か 2. 社会学の考え方と応用例	講義
社会学的な思 考方法 (2 時間)	1. エビデンス、デー タ収集を学ぶ。 2 現代社会の捉え方	1. データ収集、特徴、検証、活用 2. 現代社会の特徴とその概念的 理解	講義
基礎のふりか えり (2 時間)	1. 既習内容の要点を まとめ、理解を深 める。	1. 既習内容に関連する論点	復習課題
誕生について (2 時間)	1. 社会学的な出生の 捉え方を知る。 2. 社会的存在の意味 を理解する。	1. 生物的営みとしての出生 2. 社会のなかの出生	講義
親子・家族に ついて (2 時間)	1. 最も基礎的な社会 集団である家族を 理解する。 2. 社会の中の親子関 係について理解す る。	1. 基礎的社会集団としての家族 2. 家族のあり方と変化 人間関係としての親子関係	講義
学校と国家に ついて (2 時間)	1. 長期にわたる学校 生活がもたらす影 響を理解する。 2. 学校と国家がどう 関係しているかを 認識する。	1. 学校生活の意義 2. 国家装置としての学校	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
成長過程について (2 時間)	1. 人々の成長過程での社会化について理解する。 2. 社会的存在がどのように形成されるかを認識する。	1. さまざまな社会化・同化 2. 文化の現代性	講義
前半のふりかえり (2 時間)	1. 前半の要点をまとめ、理解を深める。	1. 既習内容に関連する論点	復習課題
逸脱について (2 時間)	1. 社会問題の認識方法を学ぶ。 2. 性愛や犯罪の捉え方と変化について理解する。	1. 社会問題とその認識 2. 性の社会性 3. 犯罪の捉え方	講義
労働について (2 時間)	1. 高度に組織化された現代社会の特徴を認識する。 2. 働くことと生活のバランスについて理解する。	1. 社会の組織化 2. 働くことと生活	講義
事例考察 (2 時間)	1. 既習内容に関連する事例を学ぶ。	1. 社会の多様性 2. 社会学的視点の意義	講義
健康・老いについて (2 時間)	1. 健康を社会的・多面的に捉える方法を知る。 2. 現代社会で老いることについて理解する。	1. 健康の社会的側面 2. 超高齢社会としての日本 3. ライフ・ステージとしての高齢期	講義
死・人間社会について (2 時間)	1. 誰もが経験する死とその多様な捉え方を知る。 2. 人間社会を再考する。	1. 死の多様な捉え方 2. 社会の中の死 3. 今後の社会	講義
後半のまとめ (2 時間)	1. 後半の要点をまとめ、理解を深める。	1. 既習内容に関連する論点	復習課題
単位認定試験 (2 時間)	1. 本科目で学習した内容の理解を総合的に深めて習得する。	左記内容の試験	試験
教科書は指定しない。講義資料を配布する。 評価方法：筆記試験（最終試験60%）、平常点40%			

健康とスポーツ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 斗澤 由香子

ねらい

1. 各種運動やスポーツを通して身体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、生涯にわたるスポーツを楽しむ姿勢を育てる。
2. 健康、体力の維持向上とともに生涯を通じての健康、体力づくりが実践できる能力や態度を養う。
3. 各種スポーツに親しみつつ、体力や技術の向上心を養い、健康への関心を高める。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
健康と体力の 原理・原則 (4 時間)	1. 健康と体力の概念を学び、健康の維持・増進のための知識を理解する。 2. 運動の特性と運動が及ぼす身体への影響を理解する。	1. スポーツと健康・体力 2. スポーツと栄養、休養 3. スポーツが健康に及ぼす効果や影響 ・望ましいダイエット（肥満と痩せすぎ） ・スポーツと水分補給 ・スポーツとケガ ・スポーツと生活習慣病 4. さまざまな対象者の健康と体力	講義
各種運動の理 解と実践 (12 時間)	1. 各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。 2. 各種スポーツのルールを理解し、マナーをもって実践できる。 3. 各種スポーツを通じて、体力や健康への向上心をもつ。	1. 柔軟性向上のためのトレーニングの理解と実践 2. 有酸素性能力向上のためのトレーニングの理解と実践 3. 筋力向上のためのトレーニングの理解と実践 4. 各種体力や身体状況の理解と管理 5. さまざまな対象者の健康、体力に関するトレーニングの理解と実践 6. 準備運動、整理運動の理解と実践	実技 ・各種ストレッチング ・有酸素性トレーニング ・各種レジスタンストレーニング ・体力測定および評価
スポーツ種目 の理解と実践 (球技) (12 時間)	4. 安全に気を配り、他者への理解と配慮ができる。 5. 用具の準備や施設整備に積極的に参加行動する。 6. 個人やチームにおける各種スポーツの技術を高める努力をする。 7. チームで協力し、楽しくスポーツが実践できる。	1. スポーツ種目の理解と実践 ・バレーボール (特徴/ルールの説明/技術/ゲーム) ・バドミントン (特徴/ルールの説明/技術/ゲーム) ・ドッジボール (特徴/ルールの説明/技術/ゲーム)	実技 ・バレーボール ・バドミントン ・ドッジボール

単位認定試験 (2 時間)	1. 学習内容の知識と 技術を確認する。	1. 筆記試験 2. 実技試験	試験
教科書：なし。 必要な資料は都度、配布する。 評価方法：実技試験および運動の実践と授業参加（50%）、毎回授業後に提出レポート（30%）、筆記試験（20%）、 ※体調を整え、実技ができる服装（トレーニングウェアとトレーニングシューズ）で参加すること。また日ごろから体を動かしたり、授業で実施したことを実践したり、各スポーツのルールの確認や技術の向上に積極的に取り組むこと。			

芸 術

1単位（15時間）： 1学年 前期

担当講師名： 徳中 康弘

ねらい

人間社会における視覚伝達の役割を学び、自己表現を通して創造性を養う。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
人間社会における視覚伝達の役割 (15 時間)	1. 視覚伝達の役割と効果を理解する。 2. 色彩の多様性と調和を理解し、表現できる。	1. オリエンテーション、自己紹介 ◎表現[I amレポート制作：自分を文字と色彩で表現する] 2. 芸術・美術は仕事や生活はどう関係するのか？ 3. 見ること、視ること、看ること（目のしくみ・LMS細胞・感じ方） 4. 見えると見るの違い、感じることから伝えること（作ること・発信） 5. メッセージをカタチにする（カタチ・色・コトバ） ◎表現[レポート、メッセージカード制作：誕生日、クリスマスなど] 6. 色彩心理（主な色相とイメージ） 7. 色彩セラピー ◎表現[レポートと、色彩による感情表現] 8. 色覚の多様性（CUD） 9. 色のシミュレータ等で色弱者の見え方を体験する。 ◎表現[レポート] 10. 色が語る ◎表現[トータルカラーによる制作（キャラクター・植物）] 11. チームワーク ◎表現[医薬専門学校のイメージポスターを作ってみよう]※役割分担、ポスターのデザインやコピーを考える 12. 色彩でのメンタルケアについて、現代社会とアートセラピー、デザインとレイアウトの基本 ◎表現[医薬専門学校のイメージポスターを作ってみよう]※グループ制作 13. デザインとレイアウトの基本 ◎表現[医薬専門学校のイメージポスターを作ってみよう]※プレゼンテーション	講義 レポート・演習
教科書：なし 評価方法：演習評価（100%）			

解剖生理学 I

1単位（30時間）：1学年 前期

担当講師名：賀佐 伸省

ねらい

呼吸、循環、血液系についてそのしくみと働きについて系統的に理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
基礎知識 (4 時間)	1. 人体の構造と機能について学び、それらがどのような意義をもつかを理解する。 2. 人体を構成する基本単位である細胞、及び組織の構造と機能を理解する。	1. 人体の構造と機能について ・人体の構造と機能の学び方 ・解剖学と生理学の歴史と現在 2. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 ・人体とはどのようなものか ・人体の素材としての細胞、組織 ・構造と機能からみた人体	講義
呼吸器の構造 (4 時間)	1. 呼吸を行う気道と肺の基本構造を理解する。 2. 各器官の機能と関わりを理解する。	1. 呼吸器の構造 ・呼吸器の構成 ・上気道 ・下気道と肺 ・胸膜/縦隔	講義
呼吸機能 (6 時間)	1. 呼吸運動のしくみを理解する。 2. 呼吸機能における呼吸気量、肺活量、ガス交換について理解する。	1. 呼吸 ・内呼吸と外呼吸 ・呼吸器と呼吸運動 ・呼吸気量 ・ガス交換とガス運搬 ・肺の循環と血流 ・呼吸運動の調整 ・呼吸器系の病態生理	講義
循環のしくみと心臓 (6 時間)	1. 循環器系の基本構造と生理作用を理解する。 2. 心臓の動性機序と働きを理解する。 3. 心臓の興奮と心電図との関連を理解する。	1. 循環器系の構成 2. 心臓の構造 ・心臓の位置と外形 ・心臓の4つの部屋と弁 ・心臓壁 ・心臓の血管と神経 3. 心臓拍出機能 ・心臓の拍動 ・心臓の興奮とその伝播 ・心電図 ・心臓の収縮	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
血液の循環と調整 (4 時間)	1. 血管の構造と肺循環・全身動静脈について理解する。 2. 血液の循環と血圧との関連を理解する。	1. 末梢循環器系の構造 ・血管の構造 ・肺循環の血管 ・全身の動脈 ・全身の静脈 2. 血液の循環とその調整 ・血圧（動脈圧） ・血液の循環 ・血圧/血液量の調整 ・微小循環 ・循環器系の病態生理	講義
リンパ管と血液 (4 時間)	1. リンパ管の構造と循環による作用を理解する。 2. 血液の一般的性質と血液成分、血液型を理解する。	1. リンパ管 ・構造と循環 2. 血液 ・血液の組成と機能 ・赤血球 ・白血球 ・血小板 ・血漿タンパク質と赤血球の沈降 ・血液の凝固と繊維素溶解 ・血液型	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版（医学書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

解剖生理学Ⅱ

1単位（30時間）：1学年 前・後期

担当講師名：賀佐 伸省

ねらい

消化と吸収、腎尿路系、内分泌系のしくみと働きに系統的を理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
栄養の消化と吸収 (6 時間)	1. 消化管各部の構造と消化吸収のメカニズムを理解する。 2. 咀嚼による食物の変化と咀嚼の過程を学ぶ。 3. 大腸と小腸の相違点を理解する。	1. 口・咽頭・食道の構造と機能 ・口の構造と機能 ・咽頭の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 ・構造（胃・小腸・大腸） ・消化（胃・小腸） ・栄養素の消化と吸収 ・大腸の機能	講義
消化管に付属する器官 (4 時間)	1. 消化管に付属する器官の構造と機能を理解する。 2. 腹膜の機能と位置関係を理解する。	1. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ・膵臓の構造と機能 ・膵臓と膵液 ・肝臓の構造と機能 ・胆嚢と胆道 2. 腹膜 ・腹膜と内臓の位置関係 ・胃の周辺の間膜	講義
腎臓の構造・機能と尿の生成 (4 時間)	1. 腎臓の構造と機能を理解する。 2. 腎臓での尿の生成過程と生体内の体液調節の作用を理解する。	1. 腎臓 ・腎臓の構造 ・腎臓の機能 ・尿生成のメカニズム ・クリアランスと糸球体濾過量 ・腎臓から分泌される生理活性物質	講義
排尿路と体液の調節 (6 時間)	1. 尿の排泄について尿路の構造と機能を理解する。 2. 体液の調節が生命活動に重要であることを理解する。 3. 体液平衡の要素となる水、電解質の関係を理解する。	1. 排尿路 ・排尿路の構造（尿管/膀胱/尿道） ・尿の貯蔵と排尿（尿の輸送と貯蔵/排尿の機序/尿の成分と性状） ・尿/排尿の異常 2. 体液の調節 ・水の出納 ・酸塩基平衡 ・脱水 ・電解質の異常	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
自律神経・内分泌系の調節 (4 時間)	1. 自律神経による調整の機能と構造の重要性を理解する。 2. 内分泌による調節の機能と仕組みを学び、調節作用を理解する。	1. 自律神経による調節 ・自律神経の機能と構造 ・自律神経の神経伝達物質と受容体 2. 内分泌系による調節 ・内分泌とホルモン ・ホルモンの化学構造	講義
全身の内分泌腺と内分泌細胞 (4 時間)	1. 内分泌腺である諸器官の構造と機能を理解する。 2. 各ホルモンの作用と体への影響を理解する。	1. 視床下部-下垂体系 ・下垂体の構造 ・神経内分泌 ・視床下部ホルモン ・下垂体前葉、後葉ホルモン 2. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ・視床下部と下垂体系 ・甲状腺と副甲状腺 ・膵臓 ・副腎 ・性腺 3 ホルモン分泌の調節	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 第11版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

解剖生理学Ⅲ

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名：賀佐 伸省

ねらい

骨と筋、神経、脳及び感覚器官の発生・構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
骨格と筋 (4 時間)	1. 骨の発生と成長及び機能について理解する。 2. 骨格は骨が関節によってつながれ身体を支えていることを理解する。	1. 骨格とは ・人体の骨格 ・骨の形態と構造 ・骨の組織と組成 ・骨の発生と成長 ・骨の生理的な機能 2. 骨の連結 ・関節 ・不動性の関節 3. 骨格筋 ・骨格筋の構造 ・骨格筋の作用 ・骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 ・脊柱 ・胸部 ・背部の筋 ・胸部の筋 ・腹部の筋	講義
上肢と下肢の骨格と筋 (4 時間)	1. 上・下肢の骨格とその筋の構造と機能を理解する。 2. 上・下肢の骨格とその筋の関連を理解する。	1. 上肢の骨格と筋 ・上肢帯の骨格 ・自由上肢の骨格 ・上肢帯の筋群 ・上腕の筋群 ・前腕の筋群 ・手の筋群 2. 下肢の骨格と筋 ・下肢帯と骨盤 ・自由下肢の骨格 ・下肢帯の筋群 ・大腿の筋群 ・下腿の筋 ・足の筋	講義
筋の収縮 (4 時間)	1. 骨格筋繊維の構造と筋収縮の機構と種類を理解する。 2. 筋の収縮機構とエネルギー変化を理解する。 3. 運動動作時の骨・筋のメカニズムを理解する。	1. 骨格筋の収縮機構 ・骨格筋の収縮機構 ・骨格筋細胞の興奮から収縮まで ・骨格筋収縮のメカニズム 2. 骨格筋収縮の種類と特性 ・骨格筋収縮の種類 ・力発生の調整 ・等尺性収縮と等張性収縮 3. 不随意筋の収縮の特徴 ・心筋の収縮 ・平滑筋の収縮	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
神経系の構造と機能 (6 時間)	1. 神経系の構造と機能を理解する。 2. 脊髄の構造および脳の機能について理解する。 3. 脊髄と脳の関連性を理解する。	1. 神経系の構造と機能 ・神経細胞と支持細胞 ・興奮の伝導 (ニューロン/シナプス) ・神経系の構造 2. 脊髄と脳 ・脊髄の構造と機能 ・脳の構造と機能 3. 脊髄神経と脳神経 ・脊髄神経の構造と機能 ・脳神経の構造と機能	講義
脳と運動の機能 (4 時間)	1. 脳の様々な高次機能を学び、生活との関連を理解する。 2. 運動ニューロンと伝導路を理解する。	1. 脳の高次機能 ・脳波と睡眠 ・記憶 ・本能行動と情動行動 ・内臓調節機能 ・中枢神経系の障害 2. 運動機能と下行伝導路 ・運動ニューロン ・下行 (遠心) 伝導路	講義
感覚器の構造 (6 時間)	1. 感覚器の基本構造と機能を理解する。 2. 眼球の構造と機能を理解する。 3. 耳の構造と機能を理解する。	1. 感覚機能と上行伝導路 ・感覚の種類、性質 ・体性感覚の受容器の種類 ・皮膚の感覚受容器の分布 ・上行 (求心) 伝導路 2. 眼の構造と視覚 ・眼球の構造 ・眼球付属器 ・視覚 3. 耳の構造と聴覚・平衡覚 ・耳の構造 ・聴覚 ・平衡覚 4. 味覚と嗅覚 ・味覚器と味覚の構造と特徴 ・嗅覚器と嗅覚の構造と特徴	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 第11版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

解剖生理学Ⅳ

1単位（15時間）：1学年 後期

担当講師名：賀佐 伸省

ねらい

皮膚、体温、生殖・発生、老化のしくみ・構成について理解し、形態と機能を系統的に学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
外部環境からの防御 (4 時間)	1. 皮膚の組織と構造を学び、付属器の役割を理解する。 2. 生体防御機構の種類を学びそれぞれの働きを理解する。	1. 皮膚の組織と構造 ・皮膚の組織構造、付属器 ・皮膚の血管と神経、機能 2. 生体防御機構 ・非特異的防御機構 ・特異的防御機構 ・生体防御の関連臓器	講義
体温 (2 時間)	1. 体温の産生と放散を理解する。 2. 体温調節のしくみと異常について理解する。	1. 体温とその調節 ・熱の出納 ・体温分布と測定 ・体温の変動 ・体温調節 ・発熱 ・高体温と低体温	講義
生殖 (4 時間)	1. 男性生殖器の構造と機能を理解する。 2. 女性生殖器の構造と機能を理解する。	1. 男性生殖器 ・精巣 ・精路（生殖路）と付属生殖腺 ・男性の外陰部 ・男性の生殖機能 2. 女性生殖器 ・卵巣 ・卵管 ・子宮 ・膣 ・女性の外陰部と会陰 ・乳腺	講義
発生 (2 時間)	1. 発生の過程を学び、胎児までの発育過程を理解する。	1. 受精と胎児の発生 ・生殖細胞と受精 ・初期発生と着床 ・胎児と胎盤 ・妊娠中の母体の変化	講義
成長と老化 (2 時間)	1. 成長と共に変化する形態と機能を理解する。 2. 老化による各器官の変化のメカニズムと現象を理解する。	1. 小児期の成長 ・成長の影響を与える因子 ・身長と体重の変化 ・思春期における性成熟 2. 老化 ・老化のメカニズム ・各器官系・組織における老化現象	講義
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 第11版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

解剖生理学Ⅴ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 池田 緑 他〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 看護に必要な、人体の構造と機能を系統的に学ぶ。
2. 日常生活動作を人体の構造と機能の面から理解する。
3. 自ら課題に対し、問題意識と目的を持って追求する力を育む。
4. チーム活動を通し、学びを共有する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
看護に必要な 人体の構造と 機能 (28時間)	1. 人体の構造と機能について、看護の視点で説明できる。	1. 看護に必要な人体の構造と機能について学習する。 2. 日常生活動作について、人体の構造と機能の面から考える。 3. 人間にとって日常生活行動が、どのような目的で行われているのかを理解する。 4. 1～3の学びを発表し、クラスで共有し学びを深める。 5. 4. の結果を踏まえて、自己の学びをレポートに表現する。	1～4については、個人ワークとグループワークを取り入れて実施 個人レポート
単位認定試験 (22時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第11版（医学書院） 評価方法：レポート50% 演習評価30% 知識確認テスト20%			

生化学

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名： 漆原 範子

ねらい

生体成分の特徴や代謝を通じ、どのように健康が維持されているかを分子レベルで学習する。健康が損なわれた状態との違いを学び、薬や治療が効果を発揮する仕組みの理解の基礎とする。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
生化学とは (2 時間)	1. 生化学を知る。高校までの学びを応用できる。	1. 生化学を学ぶための基礎知識 2. 生体の化学の確認 3. 細胞の構造と機能の確認	講義
代謝の基礎 酵素・補酵素 (2 時間)	1. 代謝の概要を理解する。 2. 酵素の基礎知識を学び、臨床での応用を知る。 3. ビタミンの種類と働きを理解する。	1. 代謝とは 2. 消化・吸収された栄養素（糖質/脂質/タンパク質）の代謝のあらまし 1. 生命活動と酵素 2. 酵素の特性 3. 補酵素とは 4. 酵素、及び酵素阻害剤の臨床応用 1. ビタミンの化学的性質と分類 2. ビタミンの生理作用 3. 補酵素としての機能	講義
三大栄養素の構造と機能 (4 時間)	1. 糖質の構造と性質を学び、生体内での役割を理解する。 2. 脂質の種類と構造の特徴を学び、性質の違いを理解する。 3. タンパク質の種類や構造の特徴を学び、機能を理解する。	1. 糖質の生体内での役割 2. 糖質の種類と分類 3. 単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質 1. 脂質の生体内での役割 2. 脂質の種類と分類 3. リポタンパク質 1. タンパク質の役割 2. アミノ酸の種類と性質 3. タンパク質の構造の特徴	講義
糖質代謝 (2 時間)	1. 糖質を分解してエネルギーを得る過程を理解できる。 2. 特殊な条件下での糖質代謝について学ぶ。	1. 糖質の消化と吸収 2. ブドウ糖代謝とエネルギー産生 3. グリコーゲン代謝 1. 糖新生 2. 糖尿病 3. 先天性代謝異常	講義
脂質代謝 (2 時間)	1. 脂質からエネルギーを得る過程を理解する。 2. 脂質から合成される分子を学ぶ。	1. 脂質の消化と吸収 2. 脂質の代謝とエネルギー産生 3. ケトン体の生成と利用 1. コレステロールの生合成と利用 2. エイコサノイド	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
タンパク質代謝 (2 時間)	1 アミノ酸の利用法，代謝物の排出について学ぶ。	1. タンパク質の消化と吸収 2. 生体内でのアミノ酸の利用 新たなタンパク質の合成 エネルギー源としての利用 α -ケト酸の生成と代謝 3. 尿素の生成	講義
ポルフィリン代謝と異物代謝 (2 時間)	1. ポルフィリンの構造と特徴を学び，代謝を理解する。	1. ポルフィリンとは 2. ヘムの生合成、ヘムの分解 3. ビリルビンの代謝	講義
	2. 異物を排出するしくみを理解する。	1. 抱合反応 2. 異物代謝酵素	
	3. 活性酸素と，除去反応を学ぶ。	1. 活性酸素の種類と生体への影響 2. 活性酸素除去に関与する分子	
遺伝情報と発現 (6 時間)	1. 高校までの学びを基に，遺伝の基本を確認・理解する。	1. 遺伝情報とは 2. 細胞分裂 3. メンデル遺伝学	講義
	2. 核酸の構造・機能・代謝を学ぶ。	1. DNA と RNA の構造と機能 2. 核酸の代謝	
	3. セントラルドグマを理解する。	1. 遺伝子の複製・転写・翻訳 2. 翻訳後修飾	
	4. 発現調節の意義と仕組みを学ぶ。	1. 転写スイッチ 2. エピジェネティック制御	
細胞のシグナル伝達とがん (6 時間)	1. 細胞間・細胞内シグナル伝達について学ぶ。	1. シグナル伝達とは 2. リガンドと受容体 3. 細胞内情報伝達 4. 内分泌の生化学基盤	講義
	2. がんの成り立ちを学び，薬物療法の機序を理解できる。	1. 多段階発がん 2. 細胞周期 3. がん遺伝子抑制遺伝子 4. がんの薬物療法	
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
テキスト：系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学 第14版 (医学書院) 評価方法：筆記試験85%，問題演習15%			

病理学

2単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 鵜飼 渉・佐々木 裕也・高畑 むつみ・四十坊直貴 他

ねらい

病気の成り立ちを理解し、病気に伴う身体の変化（病態生理）を知って、病態の正しい理解に基づいた看護で患者さんの回復を目指す。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
病理学とは (2 時間)	1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のメカニズムを知る意義がわかる。	1. 病気の学び方 2. 病気ってどんな事なのだろう？ 身体の正常性をゆがめる要因（病院、内因、外因）を学ぶ	講義 鵜飼 渉
呼吸器系 (2 時間)	1. 呼吸器系疾患症状の徴候メカニズムがわかる。	1. 呼吸のしくみとその異常 2. 肺炎が2011年日本人の死因の3位になった 3. 肺炎とはどんな病気か？ 4. 肺炎の成り立ちを知ろう	講義 鵜飼 渉
循環障害と循環器系疾患 (4 時間)	1. 循環障害の概念を理解し、疾患との関連がわかる。 2. 虚血性疾患の原因と発生機序がわかる。	1. 虚血性心疾患は日本人の死因の2位である 2. 循環のしくみとその異常 3. 虚血性心疾患の成り立ちを知ろう 4. 「すべての細胞は動脈血から酸素をもらって生きている」 5. 動脈硬化の成り立ち 6. 脂質代謝のしくみとその異常 7. 脳血管障害と動脈硬化、高血圧、脳底動脈癌	講義 佐々木裕也
免疫 (6 時間)	1. 疾病構造の変化を知る。 2. 血液細胞についてわかる。 3. 免疫のしくみと役割を学び、基本的なメカニズムがわかる。	1. 生活習慣病と「疾病構造の変化」、チーム医療の必要性 2. 組織の損傷と再生 3. 創傷治療、肉芽組織 4. 永続細胞とiPS細胞 5. 炎症と血液細胞 6. 生体防御のしくみを知ろう 7. 免疫による生体防御のしくみとその異常 8. ワクチン 9. リンパ球とマクロファージの働き	講義 四十坊直貴

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
腫瘍 (4 時間)	1. 腫瘍の定義と分類がわかる。 2. 腫瘍の発生機序がわかる。	1. 腫瘍とは 2. 悪性新生物は日本人の2人に1人が罹り、3人に1人の死因になる 3. 細胞増殖のしくみとその異常 4. 「がん」で死なないための知恵	講義 高畑むつみ
先天異常・遺伝子異常 (2 時間)	1. 先天異常、染色体異常、遺伝性疾患を知る。	1. 先天性異常・染色体異常、遺伝性疾患	講義 鵜飼 渉
内分泌・代謝 (6 時間)	1. 内分泌疾患の症状、徴候、メカニズムがわかる。 2. 代謝障害の発生機序を学び、疾患との関連がわかる。	1. 内分泌のしくみとその異常 2. 糖尿病 糖代謝のしくみとその異常 3. 骨代謝のしくみと骨粗しょう症 講義のまとめ	講義 鵜飼 渉
標本館見学 (2 時間)	1. 実物を見ることで人体の構造や機能の理解を深める。 2. 疾患により人体や臓器に起きる変性を理解する。	1. 標本館見学 2. 病理解剖の説明 (DVD)	担当 宮川 直樹
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 第6版 (医学書院) 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学 第3版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 レポート評価 (100%)			

病態学Ⅰ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 三原 将昭・鎌田 武〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

呼吸器系・循環器系の主な疾患の特徴と診断及び治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
＜呼吸器系＞ 呼吸器の構造と機能 (4 時間)	1. 肺の構造を理解し、呼吸機能の仕組みを理解する。 2. 主要な呼吸器疾患の病因、症状との関連を理解する。 3. 主要な呼吸器疾患の検査・治療・処置を理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 喀痰/血痰・喀血/咳嗽/胸痛/呼吸困難 チアノーゼ/ばち指/声の異常/いびき 3. 検査・治療・処置 喀痰検査 画像診断 内視鏡検査 生検 呼吸機能検査 人工呼吸療法 呼吸理学療法 呼吸器外科の手術	講義 担当： 三原 将昭
主な疾病と診療① (10 時間)	1. 代表的な呼吸器疾患の病態を理解する。 2. 各疾患ごとの検査、診断基準と治療を理解する。	＜概要/病因/症状/検査・診断/治療＞ 1. 感染症 ・肺炎 ・インフルエンザ ・結核・非定型抗酸菌症 2. 間質性肺疾患 ・特発性間質性肺炎 ・好酸球性肺疾患 ・塵肺 ・間質性肺炎 3. 気道疾患 ・気管支喘息 ・気管支拡張症 ・慢性閉塞性肺疾患 4. 肺血栓塞栓症 5. 呼吸不全 ・呼吸不全の病態生理 ・急性呼吸速迫症候群 ・肺性心 6. 呼吸調節に関する疾患 ・過換気症候群 ・睡眠時無呼吸症候群 7. 肺腫瘍 ・悪性腫瘍 8. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ・胸膜炎 ・膿胸 ・自然気胸 ・縦隔腫瘍 ・吃逆 ・横隔膜ヘルニア 9. 胸部外傷	講義 担当： 三原 将昭

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
＜循環器系＞ 循環器の構造と機能 (4 時間)	1. 心臓・血管の構造と機能を学び血行動態の基礎を理解する。 2. 循環器疾患の検査と治療処置を理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 (胸痛/呼吸困難/動悸/浮腫/その他) 3. 診断と検査 ・医療面接(問診) ・身体診察 ・検査の方法(心電図/心エコー/ 心臓カテーテル)	講義 担当: 鎌田 武
主な疾病と診療② (10 時間)	1. 症状や病態の機序を学び、疾患の予防法・診断法・治療法・予後について理解する。	＜概要/病因/症状/検査・診断/治療＞ 1. ・虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞・冠状動脈硬化) CAVG ・心不全 ・血圧異常(高血圧・低血圧) ・不整脈 ・弁膜症 (弁置換術) ・心膜炎 ・心筋疾患 ・肺性心 ・動脈系疾患 ・静脈系疾患 ・リンパ系疾患	講義 担当: 鎌田 武
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器 第15版 (医学書院) 評価方法： 筆記試験 (100%)			

病態学Ⅱ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 西田 靖仙 ・ 中村 聡子 ・ 杉田 純一
 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

消化器系、免疫・アレルギー、血液・造血器の主な疾患の特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
＜消化器系＞ 消化管の構造と機能 (4 時間)	1. 消化管の構造と機能を理解する。 2. 消化器疾患の症状と病態生理の繋がりを理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 嚥下困難/胸やけ/吐きけ・嘔吐/腹痛 吐血・下血/下痢/便秘/腹部膨満 食欲不振と体重減少/腹水/黄疸 意識障害/肝性脳症 3. 検査と治療・処置 ・内視鏡検査 ・放射線検査 ・薬物療法 ・手術療法 ・放射線療法	講義 担当： 西田 靖仙
主な疾病と診療① (6 時間)	1. 主要な消化器疾患の病因、症状との関連を理解する。 2. 代表的な消化器疾患の病態を理解する。 3. 各疾患ごとの検査、診断基準と治療を理解する。	＜概要/病因/症状/検査・診断/治療＞ 1. 食道の疾患 食道がん 食道アカラシア 胃食道逆流症 2. 胃・十二指腸疾患 胃炎 胃・十二指腸潰瘍 胃がん 3. 腸および腹膜疾患 過敏性腸症候群 潰瘍性大腸炎 クローン病 虚血性大腸炎 イレウス 虫垂炎 急性腹膜炎 腸内寄生虫疾患 消化管憩室 腸管ポリープ 結腸がん 直腸がん 肛門疾患 4. 急性腹症	講義 担当： 西田 靖仙
主な疾病と診療② (6 時間)	1. 肝臓・胆道・膵臓の構造と機能の概要学び、病状と病態生理を理解する。 2. 肝臓・胆道・膵臓疾患の主な疾病ごとの特徴的な症状、診断基準と検査・治療を理解する。	＜概要/病因/症状/検査・診断/治療＞ 1. 肝疾患 肝炎の概念 肝炎ウィルス 急性肝炎 劇症肝炎 慢性肝炎 薬物性肝障害 アルコール性肝障害 脂肪肝 自己免疫性肝炎 肝炎 肝硬変症 門脈圧亢進症 肝不全 肝がん 2. 胆道疾患 胆石症 急性胆嚢炎・胆管炎 胆管がん 胆嚢がん 肝寄生虫疾患 3. 膵疾患 急性膵炎 慢性膵炎 膵臓がん	講義 担当： 西田 靖仙

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
<免疫・アレルギー疾患> 免疫・アレルギー (4 時間)	1. 免疫システムの基本事項を学び主たる疾患の病態生理を理解する。	1. 免疫の仕組みとアレルギー 2. 検査と治療 3. 症状と疾患の理解 4. アレルギー疾患 ・アナフィラキシー ・食物・薬物アレルギー ・アレルギー性鼻炎 など 5. 膠原病 - 自己免疫疾患とその機序 ・関節リウマチ ・全身性強皮症 ・多発性筋炎/皮膚筋炎 ・ベーチェット病 ・シェーグレン症候群 ・全身性エリテマトーデス など 6. 免疫不全症 ・原発性免疫不全症 ・続発性免疫不全症(HIV/AIDS)	講義 担当： 中村 聡子
<血液・造血器系> 血液の生理と造血のしくみ (2 時間)	1. 血液の生理と造血のしくみを理解する。	1. 血液の成分と機能 ・赤血球 ・白血球 ・血小板 2. 止血機能と線溶 ・止血機能 ・血液凝固 ・線溶 3. 造血の3要素 ・造血幹細胞 ・造血微小環境 ・造血因子 4. 血液細胞の分化 ・赤血球系細胞の分化 ・顆粒球系細胞の分化 ・血小板の産生と分化 ・リンパ球の分化とリンパ節	講義 担当： 杉田 純一
検査・診断と症状・病態生理 (2 時間) 教科書：系統	1. 病歴聴取と身体所見を理解する。 2. 検査を理解する。 3. 症状とその病態生理を理解する。	1. 貧血 2. 発熱 3. リンパ節腫脹・脾腫 4. 出血傾向 5. 末梢血検査 ・血球計算 ・形態検査 6. 骨髓穿刺・生検 ・出血傾向の検査 ・リンパ節生検 ・細胞表面マーカー検査 ・染色体検査 ・遺伝子検査 7. 症候とその病態生理 ・貧血 ・白血球増加症 ・白血球減少症 ・脾腫 ・リンパ節腫脹 ・出血性素因	講義 担当： 杉田 純一

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
主な疾病と診療 (4 時間)	1. 赤血球系と白血球系の主な異常と特徴的な症状、診断基準と検査・治療を理解する。 2. 造血器腫瘍と出血性疾患の主な疾病ごとの特徴的な症状、診断基準と検査・治療を理解する。	<概要/病因/症状/検査・診断/治療> 1. 鉄欠乏性貧血 2. 鉄代謝異常によるその他の貧血 ・鉄芽球性貧血 ・鉄過剰症 3. 巨赤芽球性貧血 ・葉酸欠乏 ・胃切除後巨赤芽球性貧血 4. 再生不良性貧血 ・赤芽球癆 5. 溶血性貧血 6. 二次性貧血 7. 無顆粒球症 8. 顆粒球機能異常症 9. 伝染性単核球症 10. 造血器腫瘍とは 11. 造血器腫瘍の分類 12. 治療計画の立て方 ・標準治療 ・治療計画の説明 13. 造血器腫瘍治療の基本理念 ・化学療法 ・補助療法としての造血因子 ・造血幹細胞移植 ・分化誘導療法 ・分子標的療法 ・遺伝子治療 14. 造血器腫瘍治療における支持療法 ・感染症とその対策 ・出血とその対策 15. 急性白血病 16. 骨髄異形成症候群 17. 慢性骨髄性白血病 18. 成人T細胞白血病 19. 悪性リンパ腫 20. 骨髄腫および類縁疾患 ・多発性骨髄腫 ・原発性マクログロブリン血症 ・アミロイドーシス 21. 血球貪食症候群	講義 担当： 杉田 純一
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 第15版 (医学書院) 評価方法： 筆記試験 (100%)			

病態学Ⅲ

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名： 齋藤 健・寺島 嘉紀・高橋 輝一・岡部 洸 他
 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

脳神経系、運動器疾患、腎・泌尿器・男性生殖器の主な疾患の特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
＜脳神経系＞ 脳神経の構造と機能の異常 （ 2 時間 ）	1. 神経系の構造と働き の異常に伴う症状と病態の関連を理解する。 2. 脳・神経疾患患者の診察・検査・治療に関する概要と目的・適応を理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 ・意識障害 ・高次脳機能障害 ・運動機能障害 ・感覚機能障害 ・反射性運動の障害 ・頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 ・頭痛 3. 検査・診断と治療・処置 ・診断と診療の流れ ・神経学的診察・補助的検査法 ・外科的治療法 ・内科的治療法	講義 担当: 齋藤健
主な疾病と診療① （ 4 時間 ）	1. 脳血管障害の主要な疾患について学び、病変の特徴を理解する。 2. 多岐にわたる神経障害を、構造と機能に関連づけて理解する。 3. 神経性腫瘍、神経性感染症について、主要な病変を理解する。	＜概要/病因/症状/検査・診断/治療/ケア＞ 1. 脳血管障害 ・クモ膜下出血 ・脳内出血 ・脳梗塞 ・一過性脳虚血発作 ・高血圧性脳症 2. 脳腫瘍 ・グリオーマ・髄膜腫・下垂体腺腫 ・聴神経鞘腫 3. 脳・神経の感染症 ・脳膿瘍 ・静脈洞血栓症 ・脳炎 ・髄膜炎 ・その他の神経系感染症 4. 頭部外傷 5. 脳脊髄液の異常 水頭症・脳脊髄液減少症	講義 担当: 齋藤健
主な疾病と診療② （ 6 時間 ）	1. 脊髄疾患・末梢神経障害・神経・筋疾患を学び、病態を理解する。 2. 脱髄・変性疾患の病態を理解する。 3. 主な神経系の中毒疾患・てんかん・認知症の病態を理解する。	1. 脊髄疾患 ・脊髄血管障害 ・脊髄動静脈奇形 ・脊髄炎 脊髄腫瘍 2. 末梢神経障害 ・多発性ニューロパチー 3. 神経・筋疾患 ・重症筋無力症 ・進行性筋ジストロフィー ・筋萎縮性側索硬化症 4. 脱髄・変性疾患 ・多発性硬化症 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 5. 主な神経系の中毒性疾患	講義 担当: 齋藤健

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
	4. 内科疾患に伴う神経疾患について学び、病変の特徴を理解する。 5. 中毒性疾患や内科疾患に伴う神経障害の成り行きと症状を理解する。	6. てんかん 7. 認知症 ・アルツハイマー型認知症 ・脳血管型認知症 ・レビー小体型認知症 8. 内科疾患に伴う神経疾患 ・神経ベーチェット病 ・神経サルコイドーシス ・甲状腺機能低下症 9. 代謝性疾患 ・ビタミン欠乏疾患 10. その他の疾患 ・中毒性疾患 ・他の内科疾患に伴う神経障害	
<運動器系> 運動器官の構造と機能・主な疾病と診療 (8 時間)	1. 運動器官を学び、構造と機能を理解する。 2. 起こりうる症状とその病態生理を理解する。 3. 運動器における症状や疾患の診断・検査と治療・処置を理解する。 4. 外傷性と内因性がある運動器疾患の概要を学び、特徴的な症状・治療・経過を理解できる。	1. 運動器の構造と機能 (骨/関節/神経と筋肉/腱と靭帯) 2. 症状とその病態生理 (疼痛/形態の異常/関節運動の異常/神経障害/異常歩行または跛行/筋肉の障害/その他) 3. 診断・検査と治療・処置 ・診察、診断の流れ ・検査 (画像検査/骨密度測定/電気生理学的検査/関節鏡検査/その他) ・治療、処置 (保存方法/理学療法と作業療法/手術療法/義肢と装具) 4. 疾患の理解 1) 外傷性の運動器疾患 ・骨折 ・脱臼 ・捻挫及び打撲 ・神経の損傷 ・筋・腱・靭帯の損傷 2) 内因性の運動器疾患 ・先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍及び軟部腫瘍・代謝性骨疾患 ・筋及び腱の疾患 ・神経の疾患 ・上肢及び上肢帯の疾患・脊椎の疾患 ・下肢及び下肢帯の疾患 ・運動器不安定症	講義 担当： 高橋 輝一 寺島 嘉紀
<腎・泌尿器系・男性生殖器系> 腎・泌尿器系・男性生殖器系の構造と機能 (2 時間)	1. 腎臓・泌尿器系・男性生殖器の構造と機能を理解する。	1. 腎臓の構造と機能 ・腎臓の位置・構造 ・腎臓の機能 2. 尿管の構造と機能 3. 膀胱の構造と機能 ・膀胱の構造 ・膀胱の機能 4. 尿道の構造と機能 5. 男性生殖器の構造と機能 ・精巣 (睾丸) の構造と機能 ・精巣上体 (副睾丸) の構造と機能 ・精管の構造と機能 ・前立腺の構造と機能 ・陰茎の構造と機能 ・陰囊の構造と機能	講義 担当者： 岡部 洸 他

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
検査・診断と 症状・病態 生理 (4 時間)	1. 症状とその病態生理を理解する。 2. 診察、検査について理解する。	1. 尿の異常 2. 排尿に関連した症状 3. 水と電解質の異常 4. 循環器系の異常 5. 血液の異常 6. 尿毒症 7. 泌尿器系の症状 ・疼痛 ・腫脹・腫瘤・その他の症状 8. 診察 9. 検査 ・尿の検査・腎機能検査 ・X線撮影・超音波検査 ・核医学的診断法 ・CT・MRI ・内視鏡検査 ・その他の検査 10. 治療と処置 ・手術療法 ・がん治療 ・薬物療法・免疫療法 11. 排尿管理 12. 透析療法 13. 腎移植	講義： 岡部 洸 他
主な疾病と 診療 (2 時間)	1. 腎・泌尿器系・男性生殖器系疾患の主な疾病の特徴的な症状、診断基準と検査・治療を理解する。	1. 腎不全と慢性腎臓病 2. 全身性疾患による腎障害 3. 尿路・性器の感染症 4. 尿路通過障害と機能障害 5. 尿路・性器腫瘍 ・腎細胞がん ・腎う及び尿管がん ・膀胱がん ・前立腺がん ・精巣腫瘍 6. 男性生殖器疾患	講義： 岡部 洸 他
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書 系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 第15版 (医学書院) 評価方法： 筆記試験 (100%)			

病態学Ⅳ

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名：井川 裕之・牧野 雄太・水内 一臣・白崎 英明
北川 善政・倉 ありさ

[実務経験のある講師による科目]

ねらい

内分泌系・感覚器系、女性生殖器系の疾患の主な特徴と診断、治療を学び、疾患の起因や成り行きを理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
<内分泌・代謝系> 内分泌・代謝器官の構造と機能 (2 時間)	1. 内分泌・代謝器官の構造を理解する。 2. 内分泌・代謝器官の機能を理解する。	1. 内分泌器官の構造と機能 2. 内分泌器官とホルモンの機能 3. 代謝の概要と機能	講義 担当： 井川 裕之
症状とその病態生理と検査 (4 時間)	1. 症状と病態生理の概要を学び、病因、症状との関連を理解する。 2. 内分泌・代謝器官の検査、診断基準を理解する。	1. 全身・神経症状 循環器症状 消化器症状 局所症状 2. 一般診療で内分泌・代謝疾患を疑う症状 内分泌疾患の検査 代謝疾患の検査	講義 担当： 井川 裕之
主な疾病と診療 (4 時間)	1. 内分泌疾患の概要を学び、その疾患における影響と治療を理解する。 2. 代謝疾患の概要を学び、その疾患における影響と治療を理解する。	1. 内分泌疾患 視床下部一下垂体前葉系疾患 視床下部一下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 2. 代謝疾患 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常	講義 担当： 井川 裕之
<感覚器疾患> 皮膚 (2 時間)	1. 皮膚の構造と機能を学び、それぞれの疾患との関連を理解する。 2. 主要な皮膚疾患を学び、それぞれの概要を理解する。 3. 主要な皮膚疾患の検査・診断、治療を理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 ・発疹 ・掻痒 (かゆみ) ・皮膚の老化 3. 診断と検査 ・症状の捉え方 ・診断・検査の方法 4. 疾病と診察 ・湿疹 (皮膚炎群) ・接触皮膚炎 ・アトピー性皮膚炎 ・蕁麻疹 ・痒疹 ・紅斑症 ・薬疹 他	講義 担当： 牧野 雄太

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
眼 (4 時間)	1. 眼球の構造と機能、眼球付属器を学び、眼科疾患特有の症状とのつながりを理解する。 2. 眼科疾患の種類とその疾患の概要を学ぶ。 3. 主要な眼科疾患の基本検査と治療の概要を学ぶ。 4. 主要な眼科疾患の診断、治療を理解する。	1. 構造と機能 2. 症状と病態生理 ・視機能に関連した症状 ・視機能に関連しない症状 3. 検査と治療 4. 疾病の理解 ・機能の障害 ・部位別の疾患 ・外傷 ・全身疾患との関連	講義 担当: 水内 一臣
耳鼻咽喉 (4 時間)	1. 耳鼻咽喉・頸部の構造と働きと、主要な疾患について学び、症状の特徴を理解する。 2. 主要な検査・診断、治療を理解する。	1. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解	講義 担当: 白崎 英明
歯・口腔系 (4 時間)	1. 口腔・顎・顔面領域の構造と機能を理解し、病態との関連を学ぶ。 2. 口腔・顎・顔面領域の主要な疾患について学び、症状の特徴を理解する。 3. 主要な口腔疾患の検査と治療・処置を理解する。	1. 歯・口腔の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解	講義 担当: 北川 善政
＜女性生殖器系＞ 女性生殖器の構造と機能・主な疾病と診療 (4 時間)	1. 女性生殖器の構造と働きを学び、症状と病態の関連を理解する。 2. 代表的な婦人科疾患の病態を理解し、その疾患による影響を学ぶ。 3. 各疾患ごとの検査、診断基準を学び、治療とケアの方向性を学ぶ。	1. 構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 診察・検査と治療・処置 4. 疾患の理解 ・性分化疾患 ・臓器別疾患(外陰/膣/子宮/卵管/卵巣/骨盤内炎症性疾患/乳腺/発生・発育の異常/炎症) ・機能的疾患(月経異常・月経随伴症状/更年期障害/不妊症・不育症) ・感染症(梅毒/淋疾/尖圭コンジローマ/膣トリコモナス/クラミジア/HIV/単純ヘルペス/性器結核)	講義 担当: 倉 ありさ
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [12] 皮膚 第15版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [13] 眼 第14版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 第14版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [15] 歯・口腔 第14版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 第15版 (医学書院) 評価方法： 筆記試験 (100%)			

微生物学

1 単位 (30時間) : 1学年 後期

担当講師名： 續 佳代

ねらい

病原微生物の特徴を知り、感染症成立の要因、感染症の種類と症状を学び、感染症の発症と予防の概要を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
微生物学総論 (2 時間)	1. 微生物の種類と特徴を理解する。	1. 原核生物と真核生物の特徴 2. 常在細菌叢の種類	講義
感染と発症 (2 時間)	1. 感染成立の要因を理解する。	1. 感染症の主な分類 (感染症法) 2. 感染成立の3要因	講義
感染防御機構 (2 時間)	1. 免疫のしくみを理解する。	1. 自然免疫と獲得免疫 2. 細胞性免疫と体液性免疫 3. 抗原と抗体	講義
感染予防 (4 時間)	1. ワクチンの種類とその特徴を理解する。 2. 滅菌の方法を理解する。 3. 消毒薬の種類と対象微生物について理解する。	1. ワクチン接種と受動免疫 2. 滅菌と消毒	講義
感染症各論 (18 時間)	1. 感染症の種類とその原因微生物を理解する。	1. 日和見感染症 2. 院内感染症 3. 呼吸器感染症 4. 消化器感染症 5. ウイルス性肝炎 6. 後天性免疫不全症候群 (AIDS) 7. 針刺し感染症 8. 尿路感染症 9. 性感染症 10. 皮膚粘膜感染症 11. 発疹性感染症 12. 小児感染症 13. 母子感染症 14. 脳・神経系感染症 15. 高齢者の感染症	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 第3版 (メディカ出版) 第3版 第5刷 評価方法：筆記試験 (100%)			

栄養食事療法

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 池田 順子 ・ 松田 清美

ねらい

栄養学の概念や基礎知識を学び、人間にとっての栄養の意義を理解する。健康の保持増進に必要な栄養と食事療法の基本を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
栄養食事療法の意義 (4 時間)	1. 栄養食事療法の意義・目的を理解する。 2. 栄養食事療法と看護の関連を理解する。 3. 医療・福祉と栄養食事療法の関連を理解する。	1. 人間の食生活 2. 食生活と栄養食事療法 3. 栄養食事療法と看護の役割 4. 疾患と栄養 5. 主な栄養関連疾患と栄養食事療法 6. チーム医療と栄養食事療法 ・総合的マネジメントシステム ・NST ・クリティカルパス	講義 担当： 池田 順子
病人食の特徴と種類 (2 時間)	1. 病人食の形態的特徴と成分的特徴を理解する。 2. 病人食の種類と概要を理解する。	1. 病人食の特徴 ・病人食の形態的特徴 ・病人食の成分的特徴 2. 病人食の種類 ・肥満食、高脂血症 ・糖尿病食 ・妊娠高血圧症候群食 ・腎臓病食 ・胆嚢炎食、胆石症食	講義 担当： 松田 清美
主な疾患と栄養食事療法 (8 時間)	1. 各疾患を治療するための影響と食事療法の原則を理解する。 2. 各疾患の栄養食事療法における看護上の問題点を理解する。	各疾患の概要、栄養食事療法の原則、看護上の問題など 1. 循環器疾患患者の栄養食事療法 ・高血圧症・動脈硬化症・脳血管障害 ・虚血性心疾患 ・うっ血性心不全 2. 消化器疾患患者の栄養食事療法 ・胃炎 ・潰瘍 ・便秘 ・下痢 ・肝炎/肝硬変 ・胆石症/胆嚢炎 ・急性/慢性膵炎 3. 腎疾患患者の栄養食事療法 ・腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全 4. 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 ・肥満・エネルギー/タンパク質欠乏症 ・ビタミン/ミネラル欠乏症・糖尿病 ・高脂血症 ・高尿酸血症/痛風 5. 血液疾患患者の栄養食事療法 ・貧血 ・白血病 6. 精神/神経疾患患者の栄養食事療法 ・摂食障害・認知症・アルコール依存	講義 担当： 池田 順子

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
特殊なライフ ステージ と食事 (4 時間)	1. 妊産婦・小児疾患 患者の栄養食事療 法の特徴を理解す る。 2. 高齢者の栄養と食 事の特徴を理解す る。	1. 妊産婦の栄養と食事 2. 小児の栄養と食事 ・小児の栄養管理の基本 ・食物アレルギー ・アトピー性皮膚炎 3. 高齢者の栄養と食事 ・高齢者の栄養管理の基本 ・褥瘡 ・骨粗鬆症 ・摂食/嚥下障害	講義 担当： 池田 順子
医療保険制度・ 介護保険制度 と食事 (2 時間)	1. 制度と食事の仕組 みについて学ぶ。 2. 栄養に関連する加 算や指導量の概要 を理解する。	1. 診療報酬制度のしくみ 2. 入院時食事療養費制度 3. 栄養管理実施加算 4. 栄養食事指導料 5. 介護保険制度	講義 担当： 池田 順子
食事指導 の実際 (8 時間)	1. 演習をとおして、 食事指導を効果的 に行う技法を理解 する。 2. 一般食と治療食の 違いを実感し、看 護の役割を考え る。	1. 糖尿病患者の栄養食事療法の実際と 看護上の問題 (栄養/摂取状態の把握、食事指導上の ポイント、注意点) 2. 調理の実際(4時間) ・成人前期一般の食事 ・糖尿病治療食(カロリー、塩分制限) 3. まとめ ・調理の実際での学び ・効果的な食事指導と看護の役割に ついて	講義 演習 (調理の実際) 担当： 松田 清美
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験
教科書：系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第4版(医学書院) やさしい栄養学 2版(女子栄養大学出版部) 評価方法：筆記試験(100%)			

総合医療論

1単位（15時間）：1学年 後期

担当講師名： 森 満

ねらい

社会と共に医療のあり方が変貌しつつある今日の医療や看護の原点を考え、医療・看護の果たす役割と概念を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
医療の原点 (2 時間)	1. 医療現場におけるケアの原点について考えることができる。 2. 生命、健康、病、死に関する考察ができる。 3. 癒しの概念と意義を理解する。	1. 援助と共感 ・専門職として ・援助される者と援助する者 ・病める者の自立にむけての援助 2. 命と健康 ・躍動する生命と死 ・健康とは ・QOLについて 3. 病の体験 4. 癒しの行為と癒しの知	講義
医療の歩みと医療観の変遷 (2 時間)	1 現代医学の変遷と医療観の移り変わりを理解する。	1. 現代医学の起源 2. わが国に医療がたどってきた道 3. 20世紀の医療 4. 医療観のうつりかわり	講義
生活と健康 (2 時間)	1. わが国の医療体制のシステムを理解する。 2. 生活環境と保険、福祉行政の概要について理解する 3. 健康増進の考え方の重要性を理解する。 4. 少子高齢化社会における高齢者介護の問題点を理解する。 5. 障害者の社会生活と医療・福祉施策について理解する 7. 現代社会の心の問題を理解する。	1. けがや病気をした時 ・救急医療 ・診療所と病院 ・薬と安全性 ・医療保険のしくみ 2. 生活と環境衛生、保健、社会福祉行政 ・生活環境 ・保健所の役割 ・学校保健/母子保健 3. 疾病の一次予防と健康増進 ・急性期医療 ・予防医学の役割 ・生活習慣病 4. 少子高齢社会と世代間のきずな ・社会の動向と人口動態統計 ・高齢者介護の問題/基本/人材育成 5. 障害者のノーマライゼーションとインクルージョン 6. 心の健康と精神医療 ・現代社会と心の病/保健福祉/行政 ・精神医療の保険・福祉、行政の実際	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
現代医療の最前線と新たな課題 (2 時間)	1. 現代医学と先端医療の概要を理解する。 2. 先端医療がもたらす倫理について考える。 3. 医療に対する国民意識と医療水準の関連を理解する。 4. インフォームド・コンセントの意義と法理を理解する。 5. 医療訴訟と医療情報開示の関連を学び、医療者の責務を理解する。	1. 科学技術の進歩と社会・生活の変化 2. 現代医学と先端医療技術の最前線 3. 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 4. 産業社会の発展と地球環境問題 5. 医療不信から賢い患者へ ・日本の医療供給体制 ・医療不信の芽 ・医療への不満から自立した市民へ 6. インフォームド・コンセントと医療情報の開示 ・増え続ける医療訴訟 ・法律の目からみた医療 ・インフォームド・コンセントの法理 ・医療情報の開示と診療録	講義
医療を見つめなおす新しい視点 (4 時間)	1. 臨床疫学の概要と意義を理解する。 2. 医療現場に潜む危険を理解し、安全な医療について学ぶ。 3. 医療の管理と質の評価の重要性を理解する。 4. 医療における情報通信技術について理解する。	1. 臨床疫学 2. 患者の安全 3. 医療の管理と医療の評価 4. これからの先端医療開発 5. 情報化社会と医療 ・情報通信技術 (ICT) と医療 ・医療情報の管理システム	講義
保険・医療・福祉の潮流 (2 時間)	1. 近年の医療の変革と医療の動向を理解する。 2. これからの医療に求められている役割について理解する。 3. 医療におけるケアの場の変遷と意義を理解する。	1. 医療変革の波とともに始まった21世紀 2. 新時代の保健、医療の担い手について ・患者との関係の未来像 ・さまざまな看護職種 ・チーム医療・チームケア 3. プライマリケアの新たな展開 ・特徴と課題 4. 医療におけるケアの視点 ・在宅医療 ・緩和ケアとホスピス 5. 保健・医療の国際化 6. 地域包括医療システムの新しい展開 7. 保険・医療・福祉システムと地域住民の役割	講義
教科書：系統 単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 別巻 総合医療論 第4版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

看護学概論 I

1単位（30時間）：1学年 前期

担当講師名： 澤崎 恵美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. ナイチンゲールを基礎とした看護の概念について理解する。
2. 看護の対象である人間について関心を持ち、身体的・精神的・社会的側面を持つ生活者であることを理解する。
3. 人々の生活が環境と健康とのかかわりで成り立っていることを理解する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護とは何か （ 10 時間 ）	1. 看護とは何かをナイチンゲールに学ぶ。 2. 生活過程を整える看護を構成する要素について考える。 3. ナイチンゲールに見る看護の役割について学ぶ。	1. 看護とは何か 「対象の生命力の消耗を最小にすることに整えること」を理解する。 2. 「病気の本質」から生命の消耗を最小にするために生活過程を整えることについて考える。 3. 看護師とは何かを考える。 ①看護師の使命感 ②臨床で学ぶ看護の基本要素	講義・演習 グループワーク レポート
看護の 対象理解 （ 8 時間 ）	1. 看護の対象である人間について自分の言葉で考えを述べることができる。 2. 看護の対象である人間について身体的・精神的・社会的側面を持つ全体像として理解する。 3. 生活者としての人間について理解し、看護はどのような役割を果たすかについて考えることができる。	1. 私の考える人間とは 2. 看護の対象としての人間 ・人間の「こころ」と「からだ」 ・生涯発達しつづける存在 3. 人間の「暮らし」の理解 ・生活者としての人間 ・看護の対象としての家族・集団・地域	講義・演習 グループワーク

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
健康を考える （ 10 時間 ）	1. 健康とは何かを考え、自分の言葉で述べられる。 2. 健康と障害、生活の関係を考え述べることができる。 3. 主要な公的統計の結果から、国民全体の健康と生活の全体像を把握することができる。	1. 人間にとっての健康とは 2. 健康のとらえ方 ・健康とはなにか ・健康でない状態とはどのようなもの ・障害とはなにか ・生活と健康 ・健康の実現：ヘルスプロモーション 3. 国民の健康の全体像 4. 現代の日本人の健康と生活を考える	講義・演習 グループワーク
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学〔1〕 看護学概論（医学書院）第17版 フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」（現代社） 評価方法：筆記試験（80%） レポート（20%）			

看護学概論Ⅱ

1単位（30時間）：1学年 前期

担当講師名：澤崎 恵美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 近代看護が成立した背景を学び、看護の発展のプロセスから未来の看護を展望する。
2. 看護理論の意義と、看護実践に活用するヘンダーソンの理論を理解する。
3. これからの看護に期待される役割について理解する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護の歴史 （14 時間）	1. 看護の変遷を理解し、未来の看護を臨むことができる。 2. 各時代の暮らし（生活）と健康をつなぐことができる。 3. 各時代の暮らし（生活）と医療・看護の関係について考えることができる。	1. 導入 何故看護歴史を学ぶのか 2. 日本看護史の各時代の暮らしと健康（病気）をつなぐ 3. 各時代の医療・看護を暮らしとの関係について 4. 日本の看護師の歩みから、未来へつなぐものは何かを考える	講義・演習 グループワーク 予習シート 小テスト
看護理論 （8 時間）	1. 看護理論の発展と主な看護理論家の業績を概観し、看護実践に活用できることを理解する。	1. 看護理論とは 2. 看護理論の重要性 3. 看護の理論的業績の概観 4. 主要な概念と定義 5. ヘンダーソン看護理論の看護実践への活用例	講義・演習 グループワーク
看護サービス提供の場と保健医療福祉 （6 時間）	1. 看護サービスの担い手と場の広がり理解する。 2. 保健医療福祉活動が直面する課題を理解し、多職種との連携を考える。	1. 看護サービスの担い手とチーム医療 ・看護サービス提供の担い手 ・チーム医療とは何か 2. 看護サービス提供の場 ・医療施設における看護 ・地域における看護(学校/在宅/産業) ・継続看護(訪問看護ステーション/外来) 3. 保健医療福祉活動における看護職の役割 4. 保健医療福祉活動における課題	講義・演習
単位認定試験 （2 時間）	1. 既習の学習内容の自己知識の再確認		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学〔1〕 看護学概論 第17版（医学書院） 看護学生のための日本看護史（医学書院） ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）			
評価方法：筆記試験（60％） 課題（40％）			

看護の共通技術 I

1単位（30時間） ： 1学年 前・後期

担当講師名： 藪田 由美・石田 美香〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 看護技術の概念と、看護技術を実践するための要素を理解する。
2. 信頼関係構築の基本となるコミュニケーションの意義及び方法を理解し、実践できる能力を養うための基礎を学ぶ。
3. 看護記録の意義と実際の記録物について学ぶ。
4. 看護における学習支援の意義と実際について学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護の方法と技術 （ 2 時間 ）	1. 看護技術とは何か がわかる。 2. 看護技術の基本原則と構成がわかる。	1. 看護技術とは 2. 看護技術の特徴 3. 基礎看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素	講義 担当： 藪田 由美
コミュニケーションの基本 （ 4 時間 ）	1. 信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性がわかる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程がわかる。	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. ミスコミュニケーション 4. 医療におけるコミュニケーション	講義・演習 担当： 藪田 由美
関係構築のためのコミュニケーションの基本（2時間）	1. コミュニケーションの基本的な方法についてわかる。	1. コミュニケーションの基本的態度 （接近的行動と非接近的行動） 自己紹介・身だしなみ・表情・視線・距離・スキンシップなど	講義・演習 担当： 藪田 由美
効果的なコミュニケーションの実際 （ 10 時間 ）	1. コミュニケーション活動の基本である「聴く」について、理解できる。 2. 様々な看護場面にあるコミュニケーション方法が理解できる。 3. コミュニケーション障害がある人の特徴と対応がわかる。	1. 傾聴の技術 受容 共感的理解 同情との違い 承認 価値観の違い 自己開示 2. 情報収集の技術 質問の技術 面接の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス 5. コミュニケーションに障害がある人の特徴と対応	講義・演習 担当： 藪田 由美

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護記録 （ 4 時間 ）	1. 看護記録の法的規定目的・機能がわかる。 2. 看護記録の実際についてわかる。	1. 法的規定・目的・機能 2. 記録の種類・構成 基本情報 看護計画 経過記録 3. 記載・管理における留意点	講義・演習 担当： 石田 美香
学習支援 （ 6 時間 ）	1. 看護における学習支援の在り方を理解する。 2. 様々な対象に対する学習支援の実際について理解する。	1. 看護における「学習支援」の意義と目的 2. 健康にいきることを支える学習支援 3. 健康状態の変化に伴う学習支援	講義 担当： 石田 美香
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 19 版（医学書院） 評価方法：筆記試験 （ 100% ）			

看護の共通技術Ⅱ

1単位（30時間） ： 1学年 前・後期

担当講師名： 櫻井 葉子 他〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 対象の健康状態を観察、記録、評価する意義と方法を学ぶ。
2. フィジカルアセスメントを実施できる基礎的技術を習得し、対象の健康状態を把握する基礎を学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
ヘルスアセスメントの視点 （ 2 時間 ）	1. 人間を身体・心理的・社会的存在として捉え、ヘルスアセスメントの視点を述べることができる。 2 対象の健康状態を評価する意義と、視点を理解できる。	1. 観察とは 2. 観察の視点と留意点 3. ヘルスアセスメントの意義と目的 4. ヘルスアセスメントの視点	講義 担当： 櫻井 葉子
バイタルサイン （ 12 時間 ）	1. バイタルサイン測定の目的を理解し、正確な測定及び記録報告ができる。	1. バイタルサイン測定とは ①必要物品 ②基本原則 2. バイタルサインの測定方法と留意点 3. バイタルサイン測定の観察の視点と留意点	講義 演習 担当： 櫻井 葉子
フィジカルイグザミネーション （ 14 時間 ）	1. 生活状況を整える援助とアセスメントの結びつきが理解できる。 2. 胸部・腹部のフィジカルイグザミネーションが正確に実施できる。	1. 問診の技術 2. 健康歴聴取の実際 3. フィジカルアセスメントに必要な技術 ①視診 ②触診 ③打診 ④聴診 4. 胸部のフィジカルイグザミネーション 5. 腹部のフィジカルイグザミネーション 6. 神経系・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーション 7. 正確なバイタルサイン測定と、胸部・腹部のフィジカルイグザミネーション	講義 演習 担当： 宮川 直樹 技術チェック
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院） 評価方法：筆記試験（60%）、演習（40%）			

日常生活援助技術Ⅰ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 櫻井 葉子 ・ 桺本 真美 ・ 澤崎 恵美
「実務経験のある講師による科目」

ねらい

対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
環境調整 （ 12 時間 ）	1. 快適な療養環境を整える必要性和方法を理解する。 2. 療養環境を安全・安楽・快適に整えるために必要な看護技術を習得する。	1. 環境調整の意義と看護の役割 2. 療養生活の環境 医療環境の構造と機能 寝具・ベッドの種類と機能 3. 病院見学 病院の概要（機能・特徴） 病棟・病室の構造、設備、物品の配置及び管理、入院患者の特徴などの実際 4. 療養環境のアセスメント 換気・温度・湿度・彩光と照明・色彩 臭気・騒音・プライバシー・安全 5. 生活環境を整える援助の実際 ・ベッドメイキング ・環境整備 ・臥床患者のリネン交換	講義・演習 担当： 櫻井 葉子 病院見学
活動・移動・姿勢の保持 （ 10 時間 ）	1. 人間の活動・移動・姿勢の保持の意義を学び、必要な援助方法が理解できる。 2. 安全・安楽に対象の活動・移動・姿勢の保持を助けるために必要な看護技術がわかる。	1. 活動の意義と看護師の役割 2. 姿勢と体位 良肢位・基本体位 3. ボディメカニクスの概念・意義 4. 廃用症候群 5. 褥瘡発生のメカニズム 6. 体位変換の援助 ・ベッド上での水平移動 ・仰臥位→側臥位 ・仰臥位→端座位 ・端座位→立位 7. ポジショニング 8. 移動・移乗・移送の援助 ・歩行の介助 ・車いすでの移乗・移送の介助 ・ストレッチャーへの移乗・移送	講義・演習 担当： 柾本 真美
睡眠と休息 （ 2 時間 ）	1. 睡眠・休息の意義を学び、必要な援助方法がわかる。	1. 睡眠・休息の意義 ・睡眠のメカニズム ・サーカディアンリズム 2. 睡眠障害のアセスメント ・睡眠障害の種類とその要因 ・睡眠に関するアセスメントの留意点 3. 睡眠・休息への援助 ・環境調整 生活リズム 睡眠習慣	講義 担当： 柾本 真美

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
苦痛の緩和・ 安楽の援助 （4 時間）	1 苦痛を緩和し、安 楽を提供する援助 方法がわかる。	1. 罨法 2. ポジショニング	講義・演習 担当： 澤崎 恵美
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 第18版（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院） 評価方法：筆記試験 （100%）			

日常生活援助技術Ⅱ

1単位（30時間）： 1学年 前・後期

担当講師名： 榎本 真美・阿部 綾・石田 美香〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

対象を尊重し、安全・安楽・自立に留意しながら、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
清潔の保持と衣生活 （ 12 時間 ）	1. 疾病・療養生活が清潔行動に及ぼす影響を理解する。 2. 清潔保持の意義を理解する。 3. 清潔・衣生活へのアセスメントの視点を理解する。 4. 清潔・衣生活援助技術を習得する。	1. 療養生活を送る患者の清潔保持の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 清潔援助方法の選択と援助の実際 4. 入浴・シャワー浴の意義 5. 清拭（全身清拭・部分清拭） 6. 洗髪 整容 手浴 足浴 陰部洗浄 7. 療養生活に適切な衣類の選択と条件 8. 衣生活の意義と援助 9. 臥床患者の寝衣交換 10. 清潔・衣生活における看護の役割	講義・演習 担当： 阿部 綾
食事 （ 8 時間 ）	1. 食事・栄養の意義を理解する。 2. 栄養状態および摂食能力のアセスメントの視点を理解する。 3. 状況に合わせた安全・安楽な援助方法を理解する。	1. 人間にとっての食事・栄養の意義と看護の役割 2. 摂食・嚥下・消化吸収の機能 3. 栄養状態・摂食能力のアセスメント 4. 食事援助の実際 ・療養における食事内容の調整 ・食事環境の調整 ・食事の準備/食事介助/食後のケア 5. 非経口的栄養摂取の援助 ・経管栄養法 ・経静脈栄養法（中心静脈栄養法）	講義・演習 担当： 榎本 真美
排泄 （ 8 時間 ）	1. 排泄の意義を理解する。 2. 排泄のメカニズムとアセスメントの視点を学ぶ 3. 排泄援助の基本的姿勢を学び、援助方法がわかる。	1. 排泄の意義と看護の役割 2. 排尿・排便のメカニズムと排泄物の正常・異常 3. 排泄に影響を及ぼす因子 4. 排泄および排泄行動のアセスメント 5. 対象に応じた排泄介助の実際 ・トイレにおける排泄援助 ・床上排泄援助（おむつ交換・尿器） ・排泄用具を用いた排泄援助 6. 排便障害時の援助 ①自然排便を促す援助 ②摘便 ③浣腸：グリセリン浣腸	講義・演習 担当： 石田 美香

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 第18版（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院） 評価方法：筆記試験 100%			

診療の補助技術 I

1 単位 (30時間) : 1学年 前・後期

担当講師名 : 堀川 亜希・石田 美香・三上 剛人
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

対象を尊重し、看護実践の基礎となる様々な看護活動に共通する看護技術、日常生活行動を整える看護技術を習得する。

単元 (時間数)	目 標	内 容	方 法
感染防止 (8 時間)	1. 感染予防の重要性を学ぶ。 2. 感染防止の基本的な技術を習得する。	1. 感染防止の基礎知識・感染の成立 2. 感染防止対策の基本 ①基本的な考え方 ②標準予防策 ・衛生学的手洗い・手指消毒 ・個人防護用具 ③洗浄・消毒・滅菌 3. 感染経路別予防策 4. 感染拡大防止の対応 5. 無菌操作 ・基礎知識 ・無菌操作の実際 ・鉗子・鑷子の取り扱い ・滅菌手袋の着用 6. 感染性廃棄物の取り扱い	講義・演習 担当 : 堀川 亜希
検査・処置時の 看護師の役割 (6 時間)	1. 検査・処置の意義および治療・処置における看護師の役割を理解する。 2. 検査介助の基礎知識を学び、検査の種類と実施時の注意点を理解する。	1. 症状・生体機能管理の目的と看護師の役割 2. 検体検査の基礎知識 ①血液検査 ②尿検査 ③便検査 3. 生体情報のモニタリング ①心電図検査 4. 穿刺 (胸腔・腹腔・腰椎・骨髄) 5. 検査・処置の介助 ①X線撮影 ②CT ③MRI 6. 輸液・輸血の種類と取り扱い方法	講義・演習 担当 : 石田 美香
呼吸・循環・体温を整える技術 (8 時間)	1. 呼吸管理に必要な看護技術を理解する。 2. 吸引の目的と実施方法を理解する。 3 血流・血圧を保つ	1. 酸素療法 ・酸素の供給方法 ・酸素吸入方法 2. 排痰ケア 3. 吸引 一時的吸引(口腔/鼻腔/気管内吸引) 4. 吸入 5. 末梢循環促進ケア 6. 体温管理の技術	講義・演習 担当 : 石田 美香

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
救命救急処置 （ 6 時間 ）	1. 患者の生命に直結する一次救命処置技術を習得する。 2. 創傷を管理する保護技術を習得する。	1. 一次救命処置 ①一次救命処置の基礎知識 ②急変時における初期対応 ③一次救命の実際 2. 止血法 3. 創傷の管理と包帯法	講義・演習 担当： 三上 剛人
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 第18版（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版（医学書院） 評価方法：筆記試験 （100%）			

看護過程Ⅰ

2単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名：池田 緑 他〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

看護過程の意義を理解し、対象にとって必要な援助を見極め、実践するための考え方について学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護過程の展開に必要な思考の訓練 （ 8 時間 ）	1. 「考える」経験を通して、自分の思考に気づくことができる。	1. 「考える」とは 2. 問題解決思考 3. クリティカルシンキング 4. 倫理的配慮と価値判断 5. リフレクション	講義 演習
看護過程の概要 （ 2 時間 ）	1. 看護実践における看護過程の意義・目的が理解できる。 2. 看護過程の構成要素について述べることができる。	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 3. 情報収集の枠組みと理論家 （ヘンダーソンの基本的欲求と日常生活）	講義 演習
看護過程の実際 （ 18 時間 ）	1. 必要な情報収集ができる。 2. 情報の持つ意味を考える事ができる。 3. 患者に必要な看護を考える事ができる。 4. 援助した結果を評価できる。	事例を用いて看護過程の展開を行う。 1. アセスメントとは（情報収集、解釈・分析・問題の推論） 2. 常在条件・病理的状态 3. 全体像 4. 看護上の問題の特定 5. 看護計画の立案 6. 評価の意義と方法	講義 演習・レポート
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護学技術Ⅰ 第19版（医学書院） 評価方法：筆記試験（50%） レポート（50%）			

地域で生活する人々の理解

1単位（15時間）：1学年 後期

担当講師名： 柁本 真美〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 人々が地域で暮らす、支え合い生きることを学ぶ。
2. 地域の生活環境が健康に与える影響を学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
人々の暮らしと健康 （ 4 時間 ）	1. 人々の暮らしを理解する。 2. 暮らしと健康との関係について考えることができる。	1. 暮らしとは ・暮らしを構成するもの ・1人ひとり異なる暮らし 2. 暮らしと健康の関係 ・暮らしのなかで生じる健康問題とその影響 ・家族の暮らしと健康 3. 暮らしのなかで健康をとらえる ・健康の多様性 ・健康をとらえる看護の視点	講義
暮らしの基盤としての地域の理解 （ 6 時間 ）	1. 地域のとらえ方を理解する。 2. 地域包括ケアシステムについて理解する。	1. 地域・在宅看護の役割 ・地域・在宅看護とは ・「健康な暮らし」の支援 ・予防とヘルスリテラシーの向上 2. 暮らしと地域 ・地域の定義 ・人々の暮らす地域の多様性 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・地域包括ケアシステムとは ・地域包括ケアシステムの構成要素 ・自助・互助・共助・公助とは ・地域包括ケアシステムの推進 ・地域共生社会とは ・従来の看護をこえた新たな取り組み	講義

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
地域・在宅看護の対象 （ 4 時間 ）	1. 地域・在宅看護の対象を述べられる。 2. 地域に暮らすあらゆる健康課題やライフステージの人々を知る。 3. 家族とは何か述べられる。	1. 地域・在宅看護の対象 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性 2. 家族の理解 ・わが国における家族の現状 ・家族の発達と課題解決の機能 ・家族と意思決定支援 ・家族発達理論、家族システム理論	講義
単位認定試験 （ 1 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版（医学書院） 評価：筆記試験（100%）			

成人看護学概論

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名：堀川 亜希〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

成人期にある対象の特徴と対象を取り巻く環境について学び、成人の成長・発達と健康の水準に応じた健康問題や成人の特徴をとらえた看護の基本となる考え方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
成人の特徴と成人を取り巻く環境 (4 時間)	1. 成人期にある対象の特徴を理解する。 2. 健康問題に関する社会の動向をとらえる。	1. 生涯発達の概念 2. 成人の発達段階、発達課題 3. 成人の身体的・精神的・社会的な特徴 4. 成人期の生活と取り巻く環境 ・社会状況の変化 ・産業構造・労働環境の変化 ・就労条件・環境と疾病の関係 ・ストレスと健康 ・ストレスと対処法 5. 成人のライフスタイルの特徴 6. ストレスに関連する健康課題 ・ストレスと健康 ・ストレスと対処法 7. 家族形態の変化、家族システムの機能	講義 グループ ワーク
成人の生活と健康 (2 時間)	1. 成人の健康を生活と社会環境から多角的に捉える。	1. 成人の健康状況 ・生活習慣病の要因 ・健康問題の現状と推移 2. 生活と健康を守り、育むシステム 3. ヘルスプロモーション	講義
成人への看護アプローチの基本 (8 時間)	1. 看護におけるマネジメントの役割・機能について、看護ケアの質保証の観点から理解する。 2. 患者の意思決定を支える看護師の役割について理解する。 3. 効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチを学ぶ。 4. 患者と看護師との人間関係の構築とそのプロセスについて理解する。 5. 看護における多職種連携の重要性について理解する。	1. 看護におけるマネジメント 2. 医療の場における倫理的課題、倫理的判断の基盤 3. 意思決定支援の概念 4. 意思決定プロセスにおける看護師の役割 5. 成人の健康行動の概念 ・健康行動、保健行動 6. 行動変容を促進するアプローチ 7. 症状マネジメント 8. 健康問題をもつ成人と看護師の人間関係 9. 看護における集団へのアプローチ 10. 多職種連携、チームアプローチ	講義 グループ ワーク

成人の健康水準に対応した看護 (12 時間)	1. 成人の健康水準の特徴と対応する看護を理解する。	1. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ・急性期にある人の特徴 ・急性期にある人の看護 2. 回復期にある人・障害がある人の生活を支援する看護 ・回復期にある患者の特徴と看護 ・リハビリテーションにおける看護の役割（廃用症候群の予防） ・障害の受容過程とその支援 3. 慢性的な経過をたどる健康障害の特徴と慢性疾患を有する人の看護 ・慢性疾患とともにある生活の理解 ・セルフケア・セルフマネジメントへの支援 ・行動変容を促進するアプローチ 4. 人生の最期のときを支える看護 全人的苦痛と死の受容過程	講義 グループ ワーク
退院支援・家族支援に関わる看護活動 (2 時間)	1. 退院支援における看護師の役割を理解する。 2. 家族の機能と家族支援に向けた看護の役割を理解する。	1. 退院支援の必要性和プロセス 2. 家族機能 3. 家族支援のアプローチ 4. 社会資源の活用	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書： 系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 第7版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 第16版 (医学書院) 国民衛生の動向 2021/2022 (厚生労働統計協会) 評価方法：筆記試験 (70%)、授業への参加状況と演習評価 (30%)			

老年看護学概論

1単位（30時間）：1学年 後期

担当講師名： 藪田 由美 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 老年看護の対象となる高齢者の概念を学び、ライフサイクルにおける老年期の発達課題がわかる。
2. 高齢化の状況と高齢者を取り巻く生活環境の現状・動向を知る。
3. 加齢・老化に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴とアセスメントの視点を学び、生命や健康への影響を及ぼすことに気付く。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
老いを生きる (8 時間)	1. 老年期の定義と発達課題がわかる。 2. 老年看護の変遷と役割についてわかる 3. 老化の特徴と考え方がわかる。 4. 高齢者疑似体験を通し、加齢・老化による身体的・心理的機能の変化に気づく。	1. 老年とは 2. 老年看護とは 3. 老年看護学の変遷 4. 高齢者のイメージ 高齢者疑似体験（演習） 5. 老年期の発達課題 ・エリクソン ・ハヴィガースト 6. 加齢と老化 ・加齢と老化の関係 ・身体的、心理的、社会的側面の変化 身体的側面：恒常性と4つの力の変化 心理的側面：知能とパーソナリティ 社会的側面：社会参加や人間関係の構築 7. 高齢者の生きてきた時代、多様な生活史	講義・演習 グループワーク レポート ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護 病態・疾患論
高齢化の状況 (8 時間)	1. 高齢化の過程と超高齢社会の現状を理解する。 2. 高齢者の暮らしや生活環境、役割と社会活動を理解する。 3. 高齢者の権利擁護の視点から、高齢者ケアの場における現状や課題を考える。	1. 高齢化とは 2. わが国の高齢化 ・高齢化の状況 ・これまでの高齢化の推移 ・これからの高齢化 3. 高齢化の国際的動向 4. 地域別にみた高齢化 5. 高齢者のいる世帯 6. 高齢者の暮らし ・経済状況 ・住まい ・就業 7. 高齢者の生活とQOL ・高齢者の望む生活とは ・高齢者のQOLを支えることとは ・社会活動、社会参加	講義 DVD ※教科書 ・老年看護学 ・国民衛生の動向

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
	4. 超高齢社会における保健医療福祉の動向を理解する。	8. 高齢社会における権利擁護 ・社会におけるスティグマと差別 ・高齢者虐待（ビデオ） ・身体への拘束 ・権利擁護のための制度 8. 高齢者の保健医療福祉の動向 ・保健医療福祉制度の変遷 ・介護保険 ・高齢者医療	
高齢者の生理的特徴 (12 時間)	1. 加齢変化による特徴を理解する。	1. 身体的加齢変化 ・外皮系 ・循環系 ・消化吸收系 ・運動系 ・脳、感覚系 ・呼吸系 ・免疫 ・泌尿器系	講義 グループワーク ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護病態・疾患論
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 老年看護学 第9版（医学書院） 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版（医学書院） 国民衛生の動向 2021/2022（厚生労働統計協会） 評価方法：筆記試験（100%）			

令和 5 年度

14 期生

講 義 概 要

シラバス : Syllabus

学校法人 美専学園

北海道医薬専門学校

看 護 学 科

単位認定試験 配点表

2年生

分野	教科目名	単位数	時間数	試験時間	講師名	配点	試験方法
基礎	倫理学Ⅱ	1	6	45分	相澤 加奈	40	筆記試験
			8		石井 奈奈	60	
	英語Ⅰ	1	15	45分	宮崎 昭人	100	筆記試験
	プロフェッショナルスキル	1	4	総合評価	太田 雅子	100	レポート評価100%
			6		池田 緑		
			2		内田 智子		
			2		武田 美智子		
専門基礎	薬理学の基礎	1	15	45分	藤村 秀樹	100	筆記試験
	臨床薬理学	1	15	45分	藤村 秀樹	100	筆記試験
	公衆衛生学	1	30	60分	森 満	100	筆記試験
	社会福祉Ⅰ	1	15	45分	森下 義亜	100	平常点40% 筆記試験60%
専門分野	日常生活援助技術Ⅲ	1	30	60分	櫻井 葉子・堀川 亜希	100	筆記試験50% 演習評価50%
	地域で生活する人を支える基盤Ⅰ	1	14	60分	榎本 真美	50	筆記試験
			14		服部 裕子	50	
	地域で生活する人を支える基盤Ⅱ	1	8	45分	榎本 真美	60	筆記試験
			6		服部 裕子	40	
	地域・在宅看護に必要な技術	1	14	45分	榎本 真美・車谷 香織・吉村 祥子	100	筆記試験
	地域・在宅での終末期看護	1	6	45分	榎本 真美	40	筆記試験
			8		浅野知海・小谷地恵理	60	
	地域・在宅の看護を考える	1	30	60分	榎本 真美	100	レポート100%
	急性期・救急の患者を支える看護	1	2	60分	堀川 亜希	15	筆記試験
			2		倉本 朗	15	
			10		齋藤 健	70	
	周術期の患者を支える看護	1	6	60分	堀川 亜希	20	筆記試験
			6		曾根 鉄矢	20	
			6		久保 真樹	20	
			6		長谷部 尚子	20	
			4		太田 直子	20	
	慢性期・回復期の患者を支える看護	1	4	60分	堀川 亜希	30	筆記試験
			4		若林 マリア	30	
			6		森山 由希子	40	
	終末期の患者を支える看護	1	4	60分	藤原 大地	15	筆記試験
			10		二井矢 ひとみ	35	
			8		北出 弘美	30	
			6		田邊 真知子	20	
	がん患者を支える看護	1	6	60分	藤原 大地	40	筆記試験
			4		岩村 千晴	30	
			4		河村 清美	30	
	看護過程Ⅱ	1	30	レポート	堀川 亜希・阿部 綾	100	筆記試験20% 演習評価80%
	成人期の看護の実際	1	30	レポート	堀川 亜希・櫻井 葉子	100	筆記試験50% 演習評価50%
	老年期の特徴をふまえた看護	1	12	60分	藪田 由美	40	筆記試験
			4		田中 彩葉	20	
			12		専任教員	40	
	老年期の疾患と看護	1	4	45分	新野 有美	30	筆記試験
			10		石田 美香	70	
	認知症患者の看護	1	16	45分	藪田 由美	60	筆記試験40% レポート60%
			12		瀬藤 真理子・白川由美	40	
	小児看護学概論	1	30	60分	池田 緑	100	筆記試験
	子どもの病気・障がいと生活支援	1	10	60分	加藤 静恵	35	筆記試験
			8		岩崎 美樹	30	
			10		眞保 隆	35	
	病気をもつ子どもの療養と看護	1	4	60分	吉本 康子	15	筆記試験50% レポート50%
			18		池田 緑	65	
			6		押切 美佐・坂上 倫子	20	
	子どもに必要な看護技術	1	10	45分	池田 緑	70	筆記試験
			4		吉本 康子	30	
	母性看護学概論	1	20	60分	櫻井 葉子	70	筆記試験
			8		堀江 里江	30	
	マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	1	8	60分	中谷 智子	30	筆記試験
			10		森川 苑美	35	
			10		小野 りえ子	35	
	マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	1	14	60分	海老名 由紀子	50	筆記試験
			8		小野 りえ子	25	
			4		河野 麻実	15	
			2		吉田 まゆみ	10	
	ウィメンズヘルスと看護	1	8	45分	中畑 夕美子	60	筆記試験
			6		櫻井 葉子	40	
	精神看護学概論	1	18	60分	鵜飼 渉	70	筆記試験
			10		那須 典政	30	
	精神疾患を持つ人の理解	1	6	60分	小林 清樹	15	筆記試験
			14		那須 典政	65	
			8		村本 好孝	20	
	精神看護に必要な技術	1	6	60分	三浦 由佳	20	筆記試験
			4		谷藤 伸恵	15	
			14		村本 好孝	50	
			4		清永 久子	15	
	ケーススタディ	1	30	レポート	澤崎 恵美	100	ケーススタディレポート・プレゼンテーション

実務経験のある教員による授業科目の単位数（時間数）

◆看護学科 2年次

	教員名	教科目	時間	実務経験に係る内容	その他
1	池田 緑	小児看護学概論	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、小児各期の成長や発達、子どもと家族を取り巻く環境の理解などを踏まえた看護の役割についての授業を担当する。	
		病気をもつ子どもの療養と看護	18	看護師として臨床で実務経験のある教員が、小児の発達や成長を踏まえた小児看護についての授業を担当する。	
		子どもに必要な看護技術	10	看護師として臨床で実務経験のある教員が、小児看護に必要な看護技術についての授業を担当する。	
2	澤崎 恵美	ケーススタディ	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、看護研究の基礎知識やケーススタディについての授業を担当する。	
3	櫻井 葉子	成人期の看護の実際	16	看護師として臨床で実務経験のある教員が、成人期の慢性期・回復期看護の実際についての授業を担当する。	
		日常生活援助技術Ⅲ	15	看護師として病院で実務経験のある教員が、臨床判断に必要な考え方についての授業を担当する。	
		母性看護学概論	20	看護師として臨床で実務経験のある教員が、母性看護の考え方や役割についての授業を担当する。	
		ウィメンズヘルスと看護	6	看護師として臨床で実務経験のある教員が、新生児に必要な看護技術についての授業を担当する。	
4	堀川 亜希	日常生活援助技術Ⅲ	15	看護師として病院で実務経験のある教員が、臨床判断に必要な考え方についての授業を担当する。	
		急性期・救急の患者を支える看護	2	看護師として臨床で実務経験のある教員が、救急看護についての授業を担当する。	
		周術期の患者を支える看護	6	看護師として臨床で実務経験のある教員が、周手術期にある患者の特徴と看護についての授業を担当する。	
		慢性期・回復期の患者を支える看護	4	看護師として臨床で実務経験のある教員が、慢性期にある患者の特徴と看護の役割についての授業を担当する。	
		成人期の看護の実際	14	看護師として臨床で実務経験のある教員が、成人期の急性期看護の実際についての授業を担当する。	
		看護過程Ⅱ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、事例を用いた看護過程の展開についての授業を担当する。	

5	薮田 由美	老年期の特徴をふまえた看護	12	看護師として臨床で実務経験のある教員が、老年期にある患者の特徴と看護の役割についての授業を担当する。	
		認知症患者の看護	16	看護師として臨床で実務経験のある教員が、認知症患者の特徴と看護の役割についての授業を担当する。	
6	柁本 真美	地域で生活する人々を支える基盤Ⅰ	14	看護師として臨床で実務経験のある教員が、地域における健康と暮らしを支える看護についての授業を担当する。	
		地域で生活する人々を支える基盤Ⅱ	8	看護師として臨床で実務経験のある教員が、在宅療養者の支援のためのマネジメントや看護師の役割についての授業を担当する。	
		地域・在宅看護に必要な技術	8	看護師として実務経験のある教員が、暮らしの場で行われる治療と看護に必要な技術についての授業を担当する。	
		地域・在宅での終末期看護	6	看護師として臨床で実務経験のある教員が、終末期の在宅療養者と家族の支援に必要な看護についての授業を担当する。	
		地域・在宅での看護を考える	30	看護師として臨床で実務経験のある教員が、在宅療養者と家族の支援に必要な看護について事例を通して看護過程を展開する授業を担当する。	
7	石田 美香	老年期の疾患と看護	10	看護師として臨床で実務経験のある教員が、高齢者に多い疾患と看護についての授業を担当する。	
8	専任教員	老年期の特徴をふまえた看護	12	看護師として臨床で実務経験のある教員が、老年期にある患者の生活・療養の場での看護や検査・治療の際の看護についての授業を担当する。	
9	阿部 綾	看護過程Ⅱ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、事例を用いた看護過程の展開についての授業を担当する。	
10	齋藤 健	急性期・救急の患者を支える看護	10	臨床で活躍する看護師が、急性期看護や脳神経機能障害の患者の看護についての授業を担当する。	
11	車谷 香織	地域・在宅看護に必要な技術	4	訪問看護で活躍する看護師が、在宅看護の実際についての授業を担当する。	
12	吉村 祥子	地域・在宅看護に必要な技術	2	訪問看護で活躍する看護師が、在宅看護の実際についての授業を担当する。	
13	倉本 朗	急性期・救急の患者を支える看護	2	現役の感染管理認定看護師として臨床で活躍する看護師が、感染のある患者の看護についての授業を担当する。	
14	太田 直子	周術期の患者を支える看護	4	現役の皮膚・排泄ケア認定看護師として臨床で活躍する看護師が、大腸がん・胃がんの術後の看護について授業を担当する。	
15	曾根 鉄矢	周術期の患者を支える看護	6	脳神経疾患専門病院で活躍する看護師が、手術前患者の看護について授業を担当する。	
16	久保 真樹	周術期の患者を支える看護	6	脳神経疾患専門病院で活躍する看護師が、手術中の患者の看護について授業を担当する。	
17	長谷部 尚子	周術期の患者を支える看護	6	脳神経疾患専門病院で活躍する看護師が、手術後の患者の看護についての授業を担当する。	

18	河村 清美	がん患者を支える看護	4	乳がん看護認定看護師とし活躍する看護師が、外来や在宅で治療を継続する患者の看護についての授業を担当する。	
19	森山 由希子	慢性期・回復期の患者を支える看護	6	臨床で活躍する看護師が、代謝障害をもつ患者への看護についての授業を担当する。	
20	若林 マリア	慢性期・回復期の患者を支える看護	4	透析看護認定看護師として活躍する看護師が、慢性腎不全を持つ患者への看護についての授業を担当する。	
21	岩村 千晴	がん患者を支える看護	4	がん化学療法認定看護師として活躍する看護師が、がんの手術療法・薬物療法・放射線療法における看護についての授業を担当する。	
22	二井矢 ひとみ	終末期の患者を支える看護	10	がん看護専門看護師として活躍する看護師が、終末期看護についての授業を担当する。	
23	北出 弘美	終末期の患者を支える看護	8	緩和ケア認定看護師として活躍する看護師が、緩和ケアにおける倫理的問題についての授業を担当する。	
24	田邊 真知子	終末期の患者を支える看護	6	緩和ケア認定看護師として活躍する看護師が、緩和ケアにおけるコミュニケーションや日常生活を支える看護についての授業を担当する。	
25	藤原 大地	がん患者を支える看護	6	緩和ケア認定看護師として活躍する看護師が、がん医療における課題や看護の役割についての授業を担当する。	
		終末期の患者を支える看護	4	緩和ケア認定看護師として活躍する看護師が、終末期にある患者の理解や看護の役割についての授業を担当する。	
26	田中 彩菜	老年期の特徴をふまえた看護	4	臨床で活躍する言語聴覚士が、高齢者の嚥下機能の低下に応じた看護についての授業を担当する。	
27	瀬藤 真理子	認知症患者の看護	6	認知症看護認定看護師として活躍する看護師が、認知症高齢者の看護についての授業を担当する。	
28	白川 由美	認知症患者の看護	6	認知症看護認定看護師として活躍する看護師が、認知症高齢者の看護についての授業を担当する。	
29	加藤 静恵	子どもの病気・障がいと生活支援	10	小児医療に携わる現役医師が、小児の疾患・看護についての授業を担当する。	
30	吉本 康子	病気をもつ子どもの療養と看護	4	小児看護専門看護師として活躍する看護師が、終末期にある子どもの看護についての授業を担当する。	
		子どもに必要な看護技術	4	小児看護専門看護師として活躍する看護師が、子どもに必要な看護技術についての授業を担当する。	
31	岩崎 美樹	子どもの病気・障がいと生活支援	8	臨床で活躍する看護師が、外来・入院中・在宅療養中などの子どもの状況により特徴づけられる看護について授業を担当する。	
32	眞保 隆	子どもの病気・障がいと生活支援	10	重症心身障害児施設で活躍する看護師が、障がいのある子どもの看護についての授業を担当する。	
33	新野 有美	老年期の疾患と看護	4	高齢者を対象とした臨床で活躍する看護師が、高齢者に起こりやすい症状・状況と看護についての授業を担当する。	

34	藤村 秀樹	薬理学の基礎	15	薬局を運営する薬剤師が、看護に必要な薬理作用の基礎的知識についての授業を担当する。	
		臨床薬理学	15	薬局を運営する薬剤師が、薬物の特徴・管理についての授業を担当する。	
35	中畑 夕美子	ウィメンズヘルスと看護	8	臨床で活躍する助産師が、女性のライフステージ各期の看護についての授業を担当する。	
36	堀江 里江	母性看護学概論	8	臨床で活躍する助産師が、子どもと女性に対する支援についての授業を担当する。	
37	中谷 智子	マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	8	臨床で活躍する助産師が、妊娠期における看護についての授業を担当する。	
38	森川 苑美	マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	10	臨床で活躍する助産師が、分娩期や異常のある産婦の看護についての授業を担当する。	
39	小野 りえ子	マタニティサイクルにおける看護Ⅰ	10	臨床で活躍する助産師が、遺伝相談・不妊治療、妊娠期の異常、異常分娩についての授業を担当する。	
		マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	8	臨床で活躍する助産師が、産褥期におこる健康障害についての授業を担当する。	
40	海老名 由紀子	マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	14	助産院を運営する助産師が、産褥期の看護や母児の愛着形成についての授業を担当する。	
41	吉田 まゆみ	マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	2	臨床で活躍する助産師が、災害時の妊産婦と児に対する支援についての授業を担当する。	
42	河野 麻実	マタニティサイクルにおける看護Ⅱ	4	産科で活躍する看護師が、新生児の看護についての授業を担当する。	
43	那須 典政	精神疾患を持つ人の理解	14	精神看護専門看護師として臨床で活躍する看護師が、精神を病むということや、精神科におけるケアについての授業を担当する。	
44	小林 清樹	精神疾患を持つ人の理解	6	精神科医療に携わる医師が、精神科における治療についての授業を担当する。	
45	村本 好孝	精神疾患を持つ人の理解	8	精神看護に携わる看護師が、精神看護についての授業を担当する。	
		精神看護に必要な技術	14	精神看護に携わる看護師が、入院や患者の安全を守る看護についての授業を担当する。	
46	清永 久子	精神看護に必要な技術	4	精神看護専門看護師として臨床で活躍する看護師が、身体疾患をもつ患者のメンタルヘルスやリエゾン精神看護についての授業を担当する。	
47	谷藤 伸恵	精神看護に必要な技術	4	看護師・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士の資格をもつ訪問看護ステーションの所長が、地域におけるケアと支援についての講義を担当する。	
48	三浦 由佳	精神看護に必要な技術	6	臨床で活躍する精神保健福祉士が、当事者研究としてゲストスピーカーを招いた授業を担当する。	
		地域で生活する人を支える基盤Ⅰ	14	臨床での実務経験をもつ看護師・介護支援専門員が、多様な場での看護の実践についての授業を担当する。	

49	服部 裕子	地域で生活する人を支える基盤Ⅱ	6	臨床での実務経験をもつ看護師・介護支援専門員が、地域・在宅看護に関連する法・制度・施策についての授業を担当する。	
50	浅野 知海	地域・在宅での終末期看護	4	訪問看護ステーションで活躍する看護師が、終末期の在宅療養者の看護についての授業を担当する。	
51	小谷地 恵理	地域・在宅での終末期看護	4	訪問看護ステーションで活躍する看護師が、終末期の在宅療養者の看護についての授業を担当する。	
52	押切 美佳	病気をもつ子どもの療養と看護	2	小児看護専門看護師として活躍する看護師が、急性期の子ども看護についての授業を担当する。	
53	坂上 倫子	病気をもつ子どもの療養と看護	4	小児救急看護認定看護師として活躍する看護師が、周術期の子どもの看護についての授業を担当する。	

倫理学Ⅱ

1単位（15時間）：2 学年前期

担当講師名：相澤 加奈・石井 奈奈 ほか

医療現場の倫理問題と生命の尊さを考え、感受性と思考力を身につけ、看護の実践の基盤にする。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
医療(看護) 倫理の キーワード (2 時間)	1. 医療者として基本的な倫理の概要を理解する。	1. 信頼関係と責任 2. QOLとSOL 3. 自由と自己決定 4. 最善の利益 5. 倫理要項/マニュアル/法 6. 倫理と倫理学 7. 看護倫理	講義 相澤 加奈
医療(看護) 倫理学の 基本問題 (4 時間)	1. 医療(看護)の中で必要な倫理内容を理解する。 2. 患者の立場で考えることの大切さを理解する。	1. プライバシーと守秘義務 ・守秘義務以前のデリカシー ・秘密のまもり方 ・全人的医療とプライバシー ・プライバシー権とは何か ・守秘義務はなぜ大切か ・守秘義務の条件 2. インフォームド・コンセント ・成り立ち ・中身 ・展開 ・必要性 ・根底にあるもの ・前提と除外条件 ・さまざまな見解 3. 医療情報の開示と説明 ・開示、説明の範囲と深さの基準 ・実質的基準と形式的基準 ・知りたいことの汲みとり方の工夫 ・カルテ開示のあり方 4. 本当のことの告知 ・真実告知の流れ ・ウソとごまかし ・知らされない権利 ・真実告知の問題のひろがり 5. パターナリズム ・概念、理由、問題点 ・弱いパターナリズム ・医療者がやきもきするとき	講義 相澤 加奈

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
医療(看護)倫理の応用問題 (4 時間)	1. 様々な問題に対して倫理的観点から捉えることができる。 2. 医療(看護)倫理が患者に及ぼす影響を理解し、医療(看護)倫理の重要性と意味を理解する。	1. 治療拒否 ・深夜の病棟巡回で ・ダックス・ケース ・ジャボット・ケース ・できることはしたくなる 2. 患者の弱さと自律の尊重 ・自律的な個人としての患者 ・自律的な患者という想定のかかわり ・二種のアドボカシー ・アドボカシーの困難さ ・より高い健康と実現 3. ケア倫理 ・ケアとは ・ケアという行為 ・ケアの前提と恒久化 ・患者の権利と看護者の責任 ・看護ケアにおけるインフォームド・コンセント 4. 患者と医療者の意見の対立 ・サービスとしての医療 ・患者の求めに応じること ・病気と治療 ・患者の求めない治療 5. 家族と「その他の関係」 ・家族の実際 ・家族主義 ・移り変わり 6. 限られた医療資源の配分 ・医療資源は有限 ・治療の優先順位	講義 石井 奈奈
ケーススタディ (4 時間)	1. 自分自身が遭遇する看護倫理の重要性を理解した上で考察することができる。	1. 看護師らしさと信頼関係 Nさん 22歳 この春に国家試験に合格し、病院へ勤務し始めた新人看護師である。患者や先輩達より服装や身なり、態度について幾度か注意を受ける。同年代と話している中では考えたことのない注意を受け、何が看護師らしいのか考え始める。 『看護師らしさ』とは何かグループで考える。(8名/G) ・看護師のイメージ ・望ましい看護師の姿について ・発表	グループワーク 石井 奈奈
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：見ているものが違うから起きること(医学書院) 新版 看護者の基本的責務(日本看護協会) 評価方法：筆記試験(100%)			

英語 I

1単位（15時間）：2 学年 前期

担当講師名： 宮崎 昭人

医療や看護、福祉の現場で英語を必要とする場面を想定し、実際に使えるための基礎力を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
看護師に必要な英単語と語彙 (8 時間)	1. 言語の仕組みを理解する 2. 品詞の重要事項を理解する	1. 外国語習得のための単語と文法 ・単語の意味と品詞の理解 ・語順 2. ・名詞・冠詞・代名詞 3. ・動詞・助動詞・接続詞 4. ・形容詞・副詞・前置詞	講義 ・語法解説 ・演習
看護師に必要な表現 (6 時間)	1. 自分の言いたいことを表現する 2. 述語動詞のニュアンスを理解する 3. 大まかに英文を捉える	1. 英作文と英会話 2. 述語動詞部分のアレンジ 3. 文型的に考える単語のかたまり（パターン句と節	講義 ・語法解説 ・演習
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の知識を再確認する		試験
教科書： 評価方法：筆記試験（100%）			

プロフェッショナルスキル

1単位（15時間）： 2 学年 後期

担当講師名： 武田 美智子・太田 雅子・安田 格司・内田 智子・池田 緑

ねらい

自分の目指す職業に対する期待を持ち続け、社会人として専門職業人としての教養を身に着け、自律した大人として社会へ出る準備を行う。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
社会人基礎力を磨く (6時間)	1. 専門職業人として必要な社会人基礎力を磨くことができる	1. 自己の傾向を知る・自己認識について 2. 自分のキャリアについて目的を明確にする 3. ケースから学ぶ社会人基礎力	講義 内田 智子 (2時間) 講義・演習 安田 格司 池田 緑 (4時間)
専門職業人としての接遇マナー (4時間)	2. 専門職業人としての接遇マナーを身に着けることができる	1. 社会人として医療職に求められる接遇マナー（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、表情、態度）接遇の5原則	講義 演習 太田 雅子 (4時間)
キャリアデザインを考える (4時間)	3. キャリアデザインを考えることができる。 4. プロになるという自覚を深めることができる	1. なりたい姿を実践するために自己の職業人生を主体的に設計してみる。 2. プロになる者としての心構え	講義・演習 池田 緑 (2時間) 講義 武田 美智子 (2時間)
単位認定試験 (1時間)			
教科書：なし 評価方法：レポート評価（100%）			

薬理学の基礎

1 単位（15時間）： 2学年 前期

担当講師名： 藤村 秀樹

[実務経験のある講師による科目]

薬理学総論 （ 12 時間 ）	1. 薬物治療の目的と基本的性質を学び、看護師の役割を理解する。 2. 薬の作用機序を学び、薬効に影響する因子を理解する。 3. 薬物中毒の発生と背景、有害性を学ぶと共に実例から考える。 4. 薬の管理と新薬の誕生を知り、管理に注意を要する医薬品を理解する。	1. 薬物治療の目ざすもの ・薬による病気の治療 ・薬としての基本的性質 ・薬の使用目的 ・薬物療法に重要な看護師の役割 2. 薬はどのように作用するのか ・薬理作用の基本形式 ・薬の治療域と作用点、投与経路 3. 薬効に影響する因子 ・年齢からみた薬効 ・薬効に関係する薬理遺伝的形質 ・薬物アレルギーの原因と対策 ・反復投与による薬効への影響 ・薬物相互作用 4. 薬物中毒はなぜおこるのか ・過量の起こる背景 ・薬物使用の有益性と有害性 ・ある臓器に特有の有害作用をおこす薬 ・実例にみる薬物中毒 5. 薬の管理と新薬の誕生 ・管理に注意を要する医薬品 ・新薬の開発 ・医薬品情報の入手 6. 添付文書について	講義
漢方薬と消毒薬 （ 2 時間 ）	1. 漢方薬の使用方法和有効性を学ぶ。 2. 消毒薬の概要と適応を理解する。	1. 西洋薬と漢方薬相違、使用方法 2. 漢方薬の副作用と有効性 3. 消毒薬の概念、種類、応用 4. 消毒薬の適用	
単位認定試験 （ 1 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 第15版（医学書院）			
評価方法：筆記試験（100%）			

臨床薬理学

1 単位 (15時間) : 2学年 前期

担当講師名 : 藤村 秀樹

[実務経験のある講師による科目]

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
抗感染症薬 (2 時間)	1. 病原微生物に有効な薬物の基礎知識を学び、作用機序を理解する。	1. 感染症治療に関する基礎 2. 抗菌薬各論 3. 特殊な感染症の治療薬 4. 感染症の治療における問題点	講義
抗悪性腫瘍薬 (2 時間)	1. 抗悪性腫瘍薬の基礎知識を学び作用機序を理解する。	1. がん治療に関する基礎 ・抗がん作用のしくみ ・薬剤耐性 2. 抗がん薬各論(アルキル化薬/代謝拮抗薬/抗生物質/植物アロカロイド/性ホルモン及び性ホルモン拮抗薬/その他)	講義
免疫治療薬、 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (2 時間)	1. 免疫治療薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。 2. 抗アレルギー薬、抗炎症薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。	1. 免疫反応のしくみ 2. 免疫抑制薬 3. 免疫増強薬 4. 予防接種薬 5. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 6. 炎症と抗炎症薬 7. 関節リウマチ治療薬 8. 痛風治療薬	講義
末梢神経、 中枢神経系に作用する薬物 (2 時間)	1. 末梢神経への有効な薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。 2. 中枢神経への有効な薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。	1. 神経による情報伝達 2. 自律神経系と薬の作用 3. 交感神経作用薬 4. 副交感神経作用薬 5. 筋弛緩薬・局所麻酔薬 6. 中枢神経系の働きと薬物 7. 全身麻酔薬 8. 催眠薬・抗不安薬 9. 抗精神病薬・抗うつ薬 10. パーキンソン症候群治療薬 11. 抗てんかん薬 12. 麻薬性鎮痛薬	講義
心臓・血管系に作用する薬物 (2 時間)	1. 心臓・血管系への有効な薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。	1. 抗高血圧薬 2. 狭心症治療薬 3. うっ血性心不全治療薬 4. 抗不整脈薬 5. 利尿薬 6. 高脂血症治療薬 7. 血液に作用する薬物	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 (2 時間)	1. 呼吸器系、消化器系に有効な薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。 2. 生殖器系に有効な薬の基礎知識を学び、作用機序を理解する。	1. 呼吸器系に作用する薬物 ・気管支喘息治療薬 ・鎮咳薬 ・去たん薬 ・呼吸促進薬 2. 消化器系に作用する薬物 ・消化性潰瘍治療薬 ・健胃、消化薬と消化管運動促進薬 ・制吐薬 ・下痢と止痢薬 ・潰瘍性大腸炎治療薬 ・クローン病治療薬 ・駆虫薬 3. 生殖器系に作用する薬物 ・性ホルモン ・子宮収縮薬 ・生活改善薬	講義
物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬 救急の際に使用される薬物 (2 時間)	1. 薬の作用・役割を理解し、各疾患の治療薬の作用機序、有用性、副作用を学ぶ。 2. 急変時に用いられる治療薬の作用機序、有用性、副作用を理解する。	1. ホルモンおよびホルモン拮抗薬 2. 治療薬としてのビタミン 3. 皮膚に使用する薬物 4. 眼科外用薬 5. 救急蘇生時に用いられる主な薬物 6. 救急・急変時の症候に用いられる薬物 7. 急性中毒に対する薬物治療	講義 講義
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 第15版 (医学書院)			
評価方法：筆記試験 (100%)			

公衆衛生学

1単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名： 森 満

ねらい

公衆衛生の基本内容・生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
公衆衛生 の理念 (4 時間)	1. 公衆衛生の目的と 方法を理解する。 2. 健康の概念とプライ マリー・ヘルス ケアについて理解 する。	1. 公衆衛生の目的と方法 ・公衆衛生とは・公衆衛生の始まり ・医療の役割と環境整備 ・ヘルスプロモーション ・わが国の歴史と新しい健康対策 2. 健康の概念と主観的健康感 ・新しい健康のとらえ方 ・主観的健康感と一病息災 3. 権利とプライマリー・ヘルスケア ・プライマリー・ヘルスケアの理念 ・プライマリー・ヘルスケアの原則など	講義
公衆衛生 の技術 (4 時間)	1. 健康づくりを支援 する新しい健康教 育の考え方を学 ぶ。 2. 健康をまもる責任 と役割について学 ぶ。	1. 疫学と健康指標 ・疫学の定義 ・健康指標 ・死亡率 ・有病率 ・罹患率 2. 健康づくりを支援する新しい健康教育 ・健康教育の理念と方法 ・日常生活習慣と健康支援の環境整備 ・健康志向行動 3. 集団とコミュニティを対象とした政策 立案 ・自助/公助/共助 ・国、都道府県、市町村の役割 ・行政のはたらき ・地域での看護 4. 活動計画と実践評価のプロセス ・活動計画 ・保健計画の策定と評価 ・公衆衛生活動における評価 ・看護師の役割	講義
医療の動向 と国際化 (4 時間)	1. わが国の医療制度 の特徴を理解す る。 2. 患者中心の倫理に ついて考えるこ とができる。	1. 医療の動向 2. 医療保障制度と医療経済 3. 公衆衛生と国際化 4. 国際協力 5. 情報公開と生命倫理 ・情報公開（個人情報保護） ・診療情報の提供(看護記録/患者の権利) ・生命倫理（バイオエシックス）	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
公衆衛生と 地域保健 (8 時間)	1. 地域保健の特性と展開方法を理解する。 2. 地域保健の各種活動と考え方について学び、特徴を理解する。	1. 地域保健 ・地域と健康 ・地域保健 2. 母子保健 ・健やか親子21 ・子育てと家族 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・ジェンダー 3. 学校保健 ・理念と目的 ・しくみと制度 ・健康課題 ・養護教諭と保健室 4. 成人・老人保健 ・背景 ・各種対策と制度 ・生活機能と保健活動 5. 精神保健 ・精神保健福祉法と障害者プラン ・精神保健福祉の概念と施策の現状 ・セルフヘルプ・グループ 6. 難病保健 ・歴史と現在 ・難病保健システム	講義
公衆衛生と 環境保健 (4 時間)	1. 環境要因と環境問題について理解する。 2. 産業保健の概要と労働衛生対策の意義を理解する。	1. 生活環境 ・環境要因 ・公害からの教訓 ・地球環境問題 ・身のまわりの環境問題 ・環境保全 2. 産業保健 ・労働者を取り巻く状況、健康状態 ・労働衛生対策 ・期待される活動	講義
感染症と 危機管理 (4 時間) 教科書：系統	1. 感染症と感染症対策の基本について理解する。 2. 危機管理を迅速かつ的確に行う探知について理解する。 3. 災害に対応する保健活動と看護を理解する。	1. 感染症 ・感染症の発症 ・結核 ・今日の感染症 ・HIV感染症 2. 危機管理 ・健康危機の探知 ・危機への対応 ・原子力災害 3. 災害保健 ・災害と災害保健・看護 ・災害時と保健医療活動 ・対策期と保健医療活動 ・制度とシステム	講義
定期試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 第14版 (医学書院) 国民衛生の動向 (2021/2022) (厚生労働統計協会) 評価方法：筆記試験 (100%)			

社会福祉Ⅰ

1単位（15時間）：2学年 前期

担当講師名：森下 義亜

ねらい

社会福祉について制度の基本を学び、社会環境の変化と生活支援のあり方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
社会保障制度と社会福祉 (2 時間)	1. 社会保障としての社会福祉の考え方と制度について理解する。 2. 社会福祉の法制度を歴史的に理解する。 3. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を理解する。	1. 社会保障の概念 2. 社会保障の目的 3. 社会保障の機能 4. 社会保障の体系 5. 社会保障の概要 6. 社会福祉制度の歴史的展開 7. 社会保障の動向 8. 社会福祉における住民参加と社会福祉運動 9. 社会福祉と看護との関連	講義 担当： 森下 義亜
社会保障制度と社会保険制度 (4 時間)	1. わが国の社会保障制度の概要と機能について理解する。 2. 私達の生活と社会保障の関連を理解する。 3. 我が国が抱えている課題への対応と社会福祉。	1. 社会保障制度 (沿革/構造/体系/内容/課題) 2. 介護保障制度 (歴史/概要/財政/課題と展望) 3. 所得保障 ①所得補償制度の仕組み ②年金保険制度 4. 公的扶助 ①貧困・低所得問題と公的扶助制度 ②生活保障制度のしくみ ③低所得層対策 ④近年の動向	講義 担当： 森下 義亜
社会福祉の分野とサービス (4 時間)	1. 我が国の高齢者福祉に対する基本的な考え方と施策を学ぶ。 2. 障がい者福祉の概念を理解し、障がい者福祉の施策を理解する。 3. 児童家庭福祉の動向と施策について理解する。	1. 高齢者の状況 ・長寿化・健康・高齢者世帯・所得 2. 高齢者福祉の施策 ・基本方向・住宅福祉事業 ・高齢者の健康増進と社会参加促進対策 3. 障がい者福祉 ・障がい者の定義 ・障がい者福祉の理念 ・障がい者制度の変遷 ・関連施策と新たな法体系の整備	講義 担当： 森下 義亜

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
		4. 児童家庭福祉 ・ 児童の特徴 ・ 児童家庭福祉の仕組み ・ 児童福祉法 ・ 母子保健法 ・ 少子化対策 ・ 保育施策 ・ 児童虐待防止施策 ・ DV対策 ・ 母子家庭など施策	
社会福祉実践 と医療・看護 (4 時間)	1. 社会福祉援助とは何か、概念を理解する。 2. 社会福祉援助の検討課題を理解する。 3. 社会福祉実践と医療・看護との連携の実際を理解する。 4. 連携の場面での実際について理解する。	1. 社会福祉の歴史的特質 2. 社会福祉援助の検討課題 ・ 倫理上のジレンマ ・ エンパワーメント・アボガドジー 3. 連携の重要性 ・ 医療を取り巻く変化と社会福祉との関係、連携の課題 4. 社会福祉実践と医療看護との連携 ・ 医療・看護・福祉の連携の実際 ・ 連携の場～職種間連携・他機関との連携	講義 担当： 森下 義亜
単位認定試験 (1 時間)	1. 学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障 社会福祉 第24版 (医学書院) 評価方法：平常点 (40%)、筆記試験 (60%)			

日常生活援助技術Ⅲ

1単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名：堀川 亜希・櫻井 葉子
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

臨床判断するために必要な力を知り、事例演習を繰り返すことで臨床判断をしていくための基礎的な能力を養う。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
総合演習 （ 28 時間 ）	1. 対象理解のために必要な知識を学習し、習得できる。 2. 臨床判断を体験し、臨床判断能力を身につける。 3. 患者の安全・安楽・自立度に配慮し、必要とする援助の方法を創意工夫することができる。	1. 事例 肺炎による急性期の症状を抱え入院したI氏の事例 2. グループワーク・個人ワーク ①対象理解 ・観察された情報 ・不足と考える情報 ・現れている症状の機序 ・予測されるなりゆき ②臨床判断による援助の実践 ・発熱 ・消化器症状 ・胸部症状 3. グループ発表 4. グループ発表のリフレクション	講義 個人ワーク グループワーク
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 第6版(医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第18版（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 第15版（医学書院） 系統看護学講座 病態生理学 第3版（医学書院） 評価方法：筆記試験 知識確認テスト（50%）、演習評価（50%）			

地域で生活する人々を支える基盤 I

1単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名：服部 裕子 ・ 榎本 真美
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

1. 地域における健康と暮らしを支える看護を理解する。
2. 地域で看護が提供される多様な場と提供方法を理解する。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
暮らしを支える看護 （ 14 時間 ）	1. 健康と暮らしを支える看護の役割を述べられる。 2. 家族に関するアセスメントを理解する。 3. 健康の保持・増進 疾病の予防に関わる看護の必要性を学ぶ。	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 ・暮らしを支える看護とは ・暮らしの環境を整える看護 ・暮らしの場で看護する基本姿勢 ・パートナーシップ 2. 在宅療養者の自立支援 ・価値観の尊重と意思決定支援 ・QOLの維持・向上 ・自立支援とセルフケア ・社会参加への援助 ・閉じこもりの予防 3. 地域・在宅における家族を支える看護 ・地域における家族への看護とは ・家族のアセスメントのポイント ・家族支援 4. 地域におけるライフステージに応じた看護 ・ライフステージによる健康課題と予防 ・疾病とライフステージ 5. 地域における健康の保持・増進、疾病の予防 ・ヘルスプロモーション ・ハイリスクアプローチ ・生活習慣の予防 ・保健行動理論の活用 6. 地域・在宅における安全をまもる看護 ・療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 ・地域・在宅看護の場面でおこりうる事故の種類と特徴 ・地域での暮らしにおける災害対策	講義： 榎本 真美
単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
看護が提供される多様な場と提供方法 （ 14 時間 ）	1. 多様な場での看護の実際を学ぶ。 2. 訪問看護におけるサービス提供方法を知る。	1. 地域・在宅看護実践の場 ・住まいで提供される看護 ・通所サービスの場で提供される看護 ・短期入所サービスの場で提供される看護 ・通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護 ・施設サービスの場で提供される看護 ・医療機関で提供される看護 ・地域のなかで提供される看護 2. 地域・在宅療養を支える訪問看護 ・訪問看護とは ・訪問看護の制度と現状 ・訪問看護サービスの特徴 ・訪問看護の対象 ・訪問看護のサービス内容 ・訪問看護サービスの展開 ・訪問看護の記録	講義： 服部 裕子
単位認定試験 （ 2 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版（医学書院） 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版（医学書院）			
評価：筆記試験（100%）			

地域で生活する人々を支える基盤Ⅱ

1単位（15時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 服部 裕子・柁本 真美
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

1. 地域で生活する人々を支える法と制度の施策を学ぶ。
2. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント、多職種との連携・協働について学ぶ。

単元（時間数）	目 標	内 容	方 法
地域・在宅看護に関連する法と制度と施策 （ 6 時間）	1. 地域・在宅看護に必要な法・制度・施策を述べられる。	1. 地域・在宅看護にかかわる制度と活用 ・介護保険・医療保険制度 ・地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 ・地域保健に関わる法制度 ・高齢者に関する法制度 ・障害者・難病に関する法制度 ・公費負担医療に関する法制度 ・権利保障に関する制度	講義 服部 裕子
生活支援のためのマネジメント （ 8 時間）	1. 地域で生活し続けることを支援するためのマネジメントがわかる。 2. 地域・在宅における多職種連携・協働のなかでの看護師の役割を理解する。	1. 地域・在宅看護マネジメント ・マネジメントの考え方 ・ケアマネジメントの考え方 ・地域・在宅看護マネジメントのとらえ方 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント ・退院支援 ・外来におけるマネジメント ・介護保険制度上のマネジメント ・地域住民とともに行うマネジメント 3. 地域・在宅看護における多職種連携・チームでの協働 ・医療・福祉・介護関係者との連携 ・専門職以外との連携・協働 ・行政との連携・協働 ・地域包括支援センターとの連携 ・居宅介護支援事業所との連携・協働 ・社会資源・地域資源の活用	講義 柁本 真美
単位認定試験 （ 1 時間 ）	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 第6版 系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版			
評価：筆記試験（100%）			

地域・在宅看護に必要な技術

1単位（15時間）：2学年 後期

担当講師名： 柁本 真美・車谷 香織・吉村 祥子
 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

- 暮らしの場で行われる治療と看護を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
暮らしの場で行われる治療と看護 (14 時間)	1. 暮らしの場で行われる治療、医療機器の管理方法がわかる。 2. 暮らしにおける日常生活支援の方法がわかる。	1. 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 ・療養環境のアセスメント ・療養環境調整の実際 2. 活動・休息に関する地域・在宅看護技術 ・暮らしにおける活動・休息・移動能力のアセスメント ・暮らしにおける活動・休息の援助 ・ノーリフトケア ・移動補助用具の種類の選択と使用 3. 食生活・嚥下に関する地域・在宅技術 ・暮らしにおける「食」の意義 ・食生活・食事摂取能力のアセスメント ・食事内容の選択 ・栄養を補う食品の種類と選択方法 ・嚥下を促すケア ・口腔ケア ・経管栄養法を受ける療養者および家族への援助 ・在宅中心静脈栄養法（HPN）を受ける療養者および家族への援助 4. 排泄に関する地域・在宅看護技術 ・暮らしにおける排泄のアセスメント ・暮らしにおける排泄の援助の実際 ・排泄補助具の種類の選択と使用 ・ストーマケア用品の種類と使用 ・尿道カテーテルの管理 5. 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 ・清潔・衣生活の援助における文化・習慣の尊重 ・清潔・衣生活に関するアセスメント ・暮らしにおける清潔・衣生活の援助の実際 6. 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 ・暮らしにおける呼吸・循環のアセスメント ・暮らしにおける呼吸・循環の援助の実際 ・呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者および家族への援助	講義： 柁本 真美 (8 時間) 車谷 香織 ・ 吉村 祥子 (6 時間)
単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
		7. 創傷管理に関する地域・在宅看護技術 ・創傷のアセスメント ・暮らしにおける褥瘡の予防とケア 8. 与薬に関する地域・在宅看護技術 ・服薬のアセスメント ・暮らしにおける与薬 9. コミュニケーション障害と支援 ・コミュニケーション能力のアセスメント ・コミュニケーション能力に応じた対応 ・補助機器の種類と選択	
単位認定試験 (1 時間)	1. 既習の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版 (医学書院)			
評価方法：筆記試験 (100%)			

地域・在宅での終末期看護

1単位（15時間）： 2学年 後期

担当講師名： 浅野 知海 小谷地 恵理 柎本 真美
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

1. 地域・在宅における健康レベルに応じた継続看護を学ぶ。
2. 終末期にある療養者および家族への看護を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
地域・在宅における介入時期と看護の継続 (8 時間)	1. 健康レベルに応じた看護や場の移行に伴う看護を述べられる。 2. 継続看護の意義や方法について述べられる。	1. 健康レベルに応じた看護や場の移行に伴う看護 ・健康的な時期の看護 ・外来受診時期における看護 ・入院時の看護 ・在宅療養準備時期（退院前）の看護 ・在宅療養移行期の看護 ・在宅療養安定期の看護 ・急性憎悪期の看護 ・在宅療養終了期の看護 2. 継続看護の意義と方法 ・入退院支援や地域連携 ・退院前カンファレンス ・意思決定支援 ・医療施設と介護施設との連携	講義： 1. 浅野知海 2. 小谷地恵理
地域・在宅で死を迎える療養者の看護 (6 時間)	1. 終末期ケアの実際と、療養者及び家族への援助について述べられる。 2. 終末期ケアについて自分の考えを述べられる。	1. 地域・在宅における終末期ケア ・地域・在宅における終末期ケアとは ・対象、家族のアセスメント ・病状変化の予測と対応 ・暮らしにおける苦痛の緩和と安楽 2. 終末期におけるチーム医療と連携 3. 終末期における家族ケア 4. 看取り 5. 遺族ケア・グリーフケア	講義 柎本 真美
単位認定試験 (1 時間)	1. 既習の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 第6版（医学書院）			
評価方法：筆記試験（100％）			

地域・在宅の看護を考える

1単位（30時間） ： 2学年 後期

担当講師名： 柁本 真美〔実務経験のある講師による授業科目〕

ねらい

1. 地域で療養生活を送る人と家族を健康レベルと生活から包括的にとらえ、看護を実践するための看護過程の展開を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
地域・在宅看護過程の展開 (30 時間)	1. 地域・在宅看護過程の特徴が理解できる。 2. 地域・在宅看護過程の展開ができる。	1. 地域・在宅看護過程の意義・基本 ・対象や看護のかかわり方の多様性 ・生活環境や家族の視点 ・時間的な広がりとストレングスへの着眼 ・多様な生活と支える制度・支援体制とケアマネジメント 2. 地域・在宅看護過程の展開 ・看護過程の展開に必要な枠組み ・アセスメントの視点 3. 地域・在宅看護過程の展開方法 ・地域・在宅看護過程の特徴 ・情報収集とアセスメント ・目標の設定・計画 ・地域・在宅看護の実施と評価 ・地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点 4. 事例を通しての看護過程 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 ・筋委縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開 ・脊髄損傷の療養者の事例展開	講義 個人ワーク グループワーク
教科書：系統看護学講座 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 第6版（医学書院）			
評価方法：レポート100 %（グループワーク含む）			

急性期・救急の患者を支える看護

1単位（15時間）：2学年 前期

担当講師名： 齋藤 健・倉本 朗・堀川亜希〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

成人期の急激な健康障害と急性疾患をもつ対象や、救急救命処置が必要な対象の特徴を理解し、主な急性疾患や救急救命処置における看護について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
急性期看護の特徴と看護援助 (4 時間)	1. 急性期の特徴を理解する。 2. 急性期における看護のニーズを理解する。 3. 急性期にある患者への看護援助について理解する。	1. 急性期とは 2. 急性期治療の特徴 3. 急性期にある患者・家族のニーズ ・心理・社会的/身体的/家族のニーズ 4. 急性期にある患者への看護援助 ・適切な観察・判断・対応による生命の維持 ・安楽の提供 ・患者、家族への支援 ・セルフケアへの支援・早期リハビリテーション 5. 急性期にある患者の看護援助を考える ・事例を用いて基礎知識、アセスメントの視点、看護援助を考える	講義 担当： 齋藤 健
脳神経障害のある患者の看護 (6 時間)	1. 主な脳血管疾患について学び、その特徴・症状・治療・処置や看護援助について理解する。	1. 脳・神経機能障害の基礎知識 2. 代表的な脳・神経機能障害のある患者の看護（基礎知識/アセスメントの視点/看護援助） ・脳梗塞、脳出血 ＊事例を通して看護の視点について学習する	講義 担当： 齋藤 健
内部環境調節 (2時間)	1. 感染症にみられる代表的な疾患について学び、その特徴・関連する症状とその看護援助を理解する。	1. 生体防御機能障害、感染の基礎知識 2. 代表的な生態防御機能障害、感染のある患者の看護 （基礎知識/アセスメントの視点/看護援助） ・敗血症	講義 担当： 倉本 朗 ※教科書 成人11： アレルギー・ 膠原病・感染 症
救急医療・集中治療を必要とする患者の看護 (2 時間)	1. 救急医療・集中治療の特徴を理解する。 2. 救急医療・集中治療を必要とする患者への看護援助を理解する。	1. 救急医療における救急看護 ・救急医療、救急看護とは ・わが国の救急医療施設 2. 救急看護の特徴と実際 3. 集中治療とは ・集中治療室の特徴と環境 ・集中治療室で行われる治療・処置・検査の特徴 4. 集中治療を受ける対象者とその家族の特徴と援助 ・集中治療を受ける対象者の特徴 ・対象者の家族の特徴 ・生命の危機に対する援助 ・日常生活行動への援助 ・コミュニケーションへの支援 ・環境への配慮 ・家族への援助	講義 担当： 堀川 亜希
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 第7版（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 第16版（医学書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

周術期の患者を支える看護

1単位（30時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 曾根 鉄矢・久保 真樹・長谷部 尚子・太田 直子
・堀川 亜希 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

周手術期にある成人期の患者や家族の危機的状況を理解し、手術によって起こる生体への侵襲を最小限に留め、患者の持つ自然治癒力を発揮できるための援助を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
今日の外科看護の特徴と課題 外科患者の病態の基礎 (2 時間)	1. 手術の概念と原則を学び、周術期にある患者と家族の心理を理解する。 2. 周手術期看護の理念と専門性を理解し、役割と課題を考察する。	1. 外科看護とは 2. 外科看護の役割と課題 3. 外科的治療の近年の傾向と看護の流れ 4. 外科患者のアセスメント 5. 手術侵襲と生体の反応	講義 担当： 堀川 亜希 ※教科書 臨床外科看護 総論
周手術期看護の概論 手術前患者の看護 (6 時間)	1. 術前における身体面の準備や心理面に対する援助について理解する。	1. 手術を受ける患者の状況 2. チーム医療と看護師の役割 3. インフォームドコンセント 4. 輸血の必要性和実施時の留意点 5. 「外来」における手術前の患者の看護 6. 手術前の具体的援助 7. 術後ベッドの準備と必要物品の意味 8. 日帰り手術を受ける患者の看護	講義 担当： 曾根 鉄矢 DVD ※教科書 臨床外科看護 総論
手術中患者の看護 (6 時間)	1. 手術室の環境と他部署および他職種との連携がわかる。 2. 麻酔導入援助が分かり、術中の看護師の役割を理解する。 3. 術中に必要な援助技術を習得する。	1. 手術室入室前の看護 ・術前訪問 ・手術室内の準備 2. 手術室入室時の看護 ・麻酔と麻酔導入時の注意点 ・手術体位 3. 手術中の看護 ・手術室の看護師の役割 4. 手術終了時の看護 5. 手術室の環境管理	講義 担当： 久保 真樹 DVD ※教科書 臨床外科看護 総論 成人5：消化器

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
手術後患者の看護 (6 時間)	1. 手術および麻酔侵襲による生体反応と術後の回復過程を理解する。 2. 術後の身体面や心理面が分かり、回復過程の援助について理解する。	1. 手術後の回復を促進するための看護 2. 術後合併症の発生機序 3. おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 4. 創傷治癒の看護 5. 自己管理に向けた援助 6. 排液（ドレナージ）の管理	講義 担当： 長谷部 尚子 DVD ※教科書 臨床外科看護総論 初めてのドレナージ管理
手術時の処置 (4 時間)	1. 手術時に行われる処置を理解する。	1. 演習 ・手術手袋の装着 ・手術用ガウンテクニック ・膀胱留置カテーテルの挿入、導尿 ・胃管の挿入（講義、演習）	担当： 堀川 亜希
術式による特徴的な看護 (4 時間)	1. 適応された術式が患者に与える影響を理解する。 2. 各術式に必要な特徴的な看護を理解する。	1. 大腸がん・胃がん ・術式による疾患の理解 ・手術が患者に与える侵襲と回復過程 ・ストーマ管理	講義 担当： 太田 直子 ※教科書 臨床看護総論 成人5：消化器
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版（医学書院） はじめてのドレナージ管理（メディカ出版） 評価方法：筆記試験（100%）			

慢性期・回復期の患者を支える看護

1単位（15時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 若林 マリア ・ 森山 由希子 ・ 堀川 亜希

[実務経験のある講師による科目]

ねらい

慢性的な健康障害と慢性疾患を持つ対象の特徴を理解し、慢性疾患と共に生活する患者と家族への看護を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
慢性期看護の特徴と看護援助 (8 時間)	1. 慢性期の概念について理解し、慢性期にある人の特徴と動向を理解する。 2. 慢性期にある人の心理・社会的特徴を学び、看護者のサポートの意味を理解する。 3. 慢性疾患患者のQOLを左右する状況を理解し、高める看護援助を理解する。	1. 慢性疾患の治療の特徴 2. 慢性期の経過の特徴をとらえる視点 3. 慢性期の患者のニーズ ・セルフケアをすること ・健康障害を受容すること ・自分らしく生きること 4. 教育的なかかわり 指導的アプローチと学習援助アプローチ 5. セルフケア継続に向けた患者－医療者関係 6. 教育的なかかわりとセルフケアを支援するサポートの活用を学ぶ ・糖尿病をもつ人への看護	講義 グループワーク 担当： 堀川 亜希 (2 時間) 森山 由紀子 (6 時間) ※森山先生教科書：成人看護学 6 内分泌・代謝
回復期・リハビリテーション期における看護 (2 時間)	1. 回復期・リハビリテーション看護を必要とする人の特徴を理解し、援助の実際を理解する。	1. 回復期・リハビリテーション期にあるへの看護 ・事例を用いて基礎知識、アセスメントの視点、看護援助を考える	講義 担当： 堀川 亜希
内部環境調節障害、排泄機能 障害のある人の看護 (4 時間)	1. 各障害の基礎知識と疾患の関連を理解する。 2. 各疾患の看護援助の実際を学ぶ。	1. 慢性腎不全をもつ人への看護 ・透析療法 ・腎移植 ・透析療法を受ける人への看護	講義 担当： 若林 マリア ※教科書 成人看護学8： 腎・泌尿器
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 第7版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 第16版 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 第15版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

終末期の患者を支える看護

1単位（30時間）： 2学年 後期

担当講師名： 北出 弘美 ・ 田邊 真知子 ・ 藤原 大地 ・ 二井矢 ひとみ

[実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 終末期にあり全人的苦痛をかかえた患者とその家族を理解し、QOLの維持をはかりながらその人らしく生き抜くための看護を学ぶ。
2. 終末期を生きる人に向き合うために自己の死生観を養う。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
終末期に生きる人の理解と終末期看護の役割 (4 時間)	1. 終末期の概念を学び、終末期に生きる人を支える看護の役割を理解する。	1. 終末期とは 2. 人生最後の時を生きる人の理解 3. 緩和ケアの歴史と理念 4. 医療者としての死生観の形成 5. 終末期看護の役割	講義 担当： 藤原 大地
日本における緩和ケアの現状とチーム医療体制 (4 時間)	1. 緩和ケアが行われる場、対象、取り組みを知り、緩和ケアにおけるチームアプローチについて理解する。	1. 日本の緩和ケアの現状 2. 緩和ケアの対象となる人 3. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	講義 担当： 北出 弘美 ※教科書 緩和ケア
緩和ケアにおける倫理的課題 (4 時間)	1. 生命倫理のとらえ方を学び、緩和ケアにおける倫理的課題を考える。 2. 緩和ケアの臨床における意思決定支援について理解する。	1. 生命倫理とは何か 2. 意思決定支援 ・インフォームド・コンセント ・アドバンス・ケア・プランニング 3. 緩和ケアをめぐる倫理的課題 ・安楽死・尊厳死 ・延命治療の差し替えと中止 ・苦痛緩和のための鎮静 ・倫理問題への対応	講義 担当： 北出 弘美 ※教科書 緩和ケア
緩和ケアにおけるコミュニケーション (4 時間)	1. 看護師のコミュニケーション意義と緩和ケアにおけるコミュニケーションのあり方を学ぶ。	1. コミュニケーションの基本スキル 2. 看護師のコミュニケーションの意義 3. わるい知らせを伝えられる際の患者が望むコミュニケーション 4. コミュニケーションを支えるスキルとプログラム 5. むずかしい場面でのコミュニケーション	講義 担当： 田邊 真知子 ※教科書 緩和ケア

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
緩和ケアにおける日常生活を支える援助 (2 時間)	1. 緩和ケアにおける日常生活を支える援助について理解する。	1. 日常生活を支える援助 ・自尊心を尊重したかかわり ・食事 ・排泄 ・睡眠 ・清潔、整容 ・移動、移乗 ・ポジショニング	講義 担当： 田邊 真知子 ※教科書 緩和ケア
全人的ケアの実際 (8 時間)	1. がん患者の身体症状の特徴を理解しケアについて学ぶ。 2. がん患者の精神的ケアを全人的苦痛の理解と関連させて学ぶ。 3. 患者と家族が経験する社会的苦痛を理解し、そのアプローチと療養生活を支える社会資源について学ぶ。 4. 緩和ケアを必要とする患者の家族に対する看護師の役割と看護について学ぶ。	1. 主要な身体症状のマネジメントとケア ・がん疼痛の病態とアセスメント ・がん疼痛の薬物療法 ・オピオイドの特徴 ・その他の主要症状とケア ・緩和ケアにおける放射線療法 2. 主要な精神症状のマネジメントとケア ・全人的苦痛と精神的苦痛 ・ケアリングと日常生活ケア ・療養に伴う喪失と患者の反応 ・適応障害・うつ病・せん妄・不眠 3. 社会的ケア ・社会的苦痛 ・心理社会的側面を意識したアセスメント ・社会的苦痛へのアプローチ ・社会資源の活用 4. スピリチュアルケア ・スピリチュアルケアとは ・スピリチュアルペインの把握 ・スピリチュアルケアの実践 5. 家族・遺族ケア ・家族ケアのアセスメントとあり方 ・予期的悲嘆と悲嘆に対するケア	講義 担当： 二井矢 ひとみ ※教科書 緩和ケア
死亡時の看護 (2 時間)	1. 危篤の徴候とケアについて理解する。 2. 死亡時の身体的変化を理解する。 3. 死後の処置の意義・目的を理解する。	1. 危篤時の看護 ・危篤の徴候 ・危篤時のケア 2. 死亡時の看護 ・死亡の確認とそれに伴う身体的変化 ・死後の処置の意義・目的と方法 ・患者の意思、家族の意向 ・最後の看護ケア ・退院時の見送り・死後の手続き	講義 担当： 二井矢 ひとみ ※教科書 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第3版(医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 第16版(医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 第7版(医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版(医学書院)			
評価方法：筆記試験 (100%)			

がん患者を支える看護

1単位（15時間）： 2学年 後期

担当講師名： 藤原 大地 ・ 岩村 千晴 ・ 河村 清美
 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

がんの病態や診断・治療、がん患者の身体的・精神的・社会的苦痛を総合的に理解し、がんと共に生活する患者と家族への看護を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
がん医療の現在と看護 （ 6 時間 ）	1. がん医療における課題や施策を学び、がん医療を取り巻く状況を理解する。	1. がんを取り巻く環境 ・ がん対策推進基本計画 ・ がん登録の必要性 ・ がんサバイバーシップケア ・ がん医療における地域方包括ケア 2. がん治療における看護の重要性 ・ 治療完遂の重要性 ・ 患者の主体的な治療参加 ・ 治療継続のための管理 ・ がんリハビリテーションの支援 ・ チームアプローチの調整	講義 担当： 藤原 大地
がんの治療と看護 （ 4 時間 ）	1. がん治療における手術療法・薬物療法・放射線療法の基本的な知識と、集学治療の考え方について理解する。 2. がん治療の効果を促進し、合併症や副作用対策を効果的に実施するための看護を理解する。	1. がん手術療法 ・ 手術療法と集学的治療 ・ 手術前後に行われる診察 ・ 治療方針の決定とインフォームドコンセント ・ 手術の種類 2. がん手術療法における看護 ・ アセスメント ・ 手術療法に対する準備教育 ・ ケアプランと意思決定支援 ・ 術後の機能障害・機能消失・後遺症とセルフケア ・ がんに特徴的な手術をケア ・ 術後の継続支援	講義 担当： 岩村 千晴

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
		3. 薬物療法 ・薬物療法の流れ ・抗悪性腫瘍薬の種類と特徴 ・薬物療法の治療計画 ・薬物療法の実際 4. 薬物療法における看護 ・治療計画の理解と意思決定支援 ・アセスメント ・薬物療法に対する準備教育 ・副作用と合併症、暴露対策 ・治療継続と生活調整に向けたセルフケア ・ケアの実際と治療の移行・終了に対するケア 5. 放射線療法 ・放射線療法の特徴と流れ ・放射線療法の実際 ・有害事象対策 6. 放射線療法における看護 ・アセスメント ・放射線療法に対する準備教育 ・効果的な治療を行うためのケア ・治療継続と生活調整に向けたケア ・放射線療法における看護の実際 ・放射線防護	
がん治療の場と看護 (4 時間)	1. がん療養過程を入院や外来、在宅で継続していくための支援について学ぶ。	1. がんの予防と早期発見 2. 外来がん看護 ・外来がん看護を取り巻く状況 ・外来におけるがん看護と看護師の役割 3. がん患者の療養支援 ・療養の場の選択肢と特徴 ・医療連携・療養調整の実際 ・治療費や療養費の支援 ・地域で生活する患者・家族を支えるシステム	講義 担当： 河村 清美
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 別巻 がん看護学 第2版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

看護過程Ⅱ

1単位（30時間）：2学年 前・後期

担当講師名：阿部 綾・堀川 亜希

[実務経験のある講師による科目]

ねらい

成人の看護領域における患者の健康問題をアセスメントし、科学的根拠に基づいた看護過程展開を行う。

< 紙面上演習 >

*紙面上で看護過程の展開を行う。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
*回復期・慢性期看護の 実践-事例 (14 時間)	1. 疾患が患者に与える影響を理解し、事例を通して、健康上の課題をアセスメントする。 2. アセスメントをもとに全体像を把握し、回復過程に合わせた問題点を抽出することができる。 3. 各看護問題に対する達成可能な目標が立案できる。 4. 看護問題が解決されるための具体的な計画が立案できる。	1. 事例を通して看護過程を展開する。 ①情報収集・アセスメント・全体像・看護計画を立案する。 ②課題の提出は個人提出とする。	講義 個人ワーク
*急性期看護 の実践-事例 (14 時間)	1. 疾患が患者に与える影響を理解し、事例を通して、急性期の視点で健康上の課題をアセスメントする。 2. アセスメントをもとに全体像を把握し、急性期の視点で問題点を抽出することができる。 3. 各看護問題に対する達成可能な目標が立案できる。 4. 看護問題が解決されるための具体的な計画が立案できる。	1. 事例を通して看護過程を展開する。 ①情報収集・アセスメント・全体像・看護計画を立案する。 ②課題の提出は個人提出とする。	講義 個人ワーク
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。	1. 演習ファイル、レポートの提出 2. 知識確認テスト	試験 成果物提出
教科書：系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 第16版(医学書院) 系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 第7版(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版 (医学書院)			
評価方法：筆記試験 (20%) 演習評価 (80%)			

成人期の看護の実際

1単位（30時間）： 2学年 後期

担当講師名： 櫻井 葉子 ・ 堀川 亜希
 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

成人の急性期、周術期、慢性期・回復期に応じた患者の健康問題を、病態や治療をふまえて包括的に理解し、患者に必要な観察や看護援助がわかる。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
急性期の患者を支える看護 (14 時間)	1. 急性期の患者状態、観察の視点、療養環境がわかる。 2. 術後の患者および家族の心理的状态を配慮した援助がわかる。 3. アセスメントの視点を持ち患者に合った援助がわかる。 4. 実践した看護援助の評価・修正ができる。	看護過程Ⅱの事例の患者の看護を考える 1. 急性期の患者理解 2. 回復過程の観察点 3. 患者や家族の思いや心理的状态の理解 4. 病態をふまえ、治療・処置を必要とする患者にあった日常生活援助を考える 5. 考えた援助を実施し、評価・修正する	講義 演習 グループワーク 知識確認テスト
慢性期・回復期の患者を支える看護 (16 時間)	1. 慢性期の患者状態がわかる。 2. アセスメントの視点を持ち患者に合った援助がわかる。 3. 生活指導を計画し、実施できる。	看護過程Ⅱの事例の患者看護を考える 1. 慢性期・回復期の患者理解 2. 慢性期・回復期の患者に必要な看護援助を考える ・慢性期における看護理論と患者教育 ・面接指導技術 ・教育的かわりを通して、生活に必要な自立への援助を考える ・必要な生活指導を考え、実施する 3. 考えた援助を実施し、振り返る	講義 演習 グループワーク 知識確認テスト 演習後レポート
教科書：系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 第7版 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版 (医学書院) 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第3版 (医学書院) 評価方法：知識確認テスト (50%) 演習評価 (50%)			

老年期の特徴をふまえた看護

1単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名： 田中 彩菜 ・ 藪田 由美 他
 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

高齢者の健康障害の特徴および、加齢・老化からの生活機能への影響が分かり、その人らしい生活を営むことを考慮した支援を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
高齢者の生活機能を整える看護 (12 時間)	1. 加齢・老化による身体的・心理的・社会的機能の変化が、生活に影響することがわかる。 2. 高齢者の持てる力（強み）と課題を考慮し、その人らしさを大事にしたケアを考えることができる。 3. 転倒・転落のリスクマネジメントが分かる。 4. 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションを考えることができる。	1. 姿勢/移動 ・ 基本動作 ・ 姿勢 ・ 移動援助（補助具：杖歩行）（演習） 2. 安全/快適な環境 ・ 転倒、転落の要因と予防 ・ 安全な環境整備を考える 3. 高齢者の栄養と摂取方法 ・ 高齢者の栄養状態の特徴 ・ さまざまな食事形態や栄養の摂取方法 4. 排泄（排尿/排便） ・ 排泄の意義 ・ 排泄障害と特徴 ・ 排泄のアセスメントとケア ・ オムツ体験 5. 清潔 ・ 皮膚粘膜の保護 ・ 清潔/整容の意義 ・ 高齢者の特徴的変調 ・ 清潔のアセスメントとケア 6. 生活リズム（睡眠/休息/活動） ・ 睡眠と覚醒の変化 ・ 生活リズムを整えるアセスメントとケア 7. コミュニケーション ・ 高齢者のコミュニケーションの特性 ・ 特徴的なコミュニケーション 老人性難聴/失語症/構音障害 ・ アセスメントと看護ケア 事例からコミュニケーションを実践し振り返る 8. セクシャリティ ・ 高齢者におけるセクシャリティ ・ 高齢者ケアの場における性に関する問題 ・ セクシャリティのアセスメントと看護	講義・演習 グループワーク 担当： 藪田 由美 ※教科書 ・ 老年看護学 ・ 老年看護病態・疾患論 ・ 老年看護技術 ＊演習は2名以上のフォローが必要

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
嚥下障害と食事介助の実際 (4 時間)	1. 加齢や疾患による嚥下機能の低下への看護援助が理解できる。	1. 高齢者の食事の特徴 ・栄養状態 ・歯、口腔の特徴 ・摂食嚥下機能のアセスメントとケア ・口腔のリハビリテーション 摂食嚥下障害がある高齢者の食事場面の検討 (演習)	講義・演習 グループワーク 担当： 田中 彩菜 ※教科書 ・老年看護技術
生活・療養の場における看護 (6 時間)	1. 多様な老年看護の場と特徴がわかる。 2. 高齢者の健康レベルや回復過程により変化する生活・療養の場の看護がわかる。 3. 介護する家族への影響と援助方法がわかる。	1. 保健医療福祉施設における高齢者看護 ・療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 (高齢者レクリエーション 演習) 2. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護	講義・演習 担当： ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護病態・疾患論 ・老年看護技術
検査・治療を受ける高齢者への看護 (4 時間)	1. 診断に必要な検査の種類と目的・方法・援助がわかる。 2. 治療の特性と治療中の高齢者の回復過程と援助がわかる。 3. 検査や手術の身体侵襲に伴う生理的反応・心理的反応がわかる。	1. 検査を受ける高齢者への看護ケア ・高齢者が受けることが多い検査 ・検査を受ける高齢者へのケア 2. 薬物療法と看護ケア ・加齢に伴う薬物動態の変化 ・有害反応 ・服薬管理能力アセスメントと管理の支援 3. 手術療法と看護ケア ・手術を受ける高齢者の特徴 ・術前、術当日の看護 ・術後の看護 ・高齢者に特徴的な手術 (前立腺、胃瘻)	講義・演習 担当： ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護病態・疾患論 ・老年看護技術
高齢者の終末期を支える看護 (2 時間)	4. 高齢者の死の考え方や、死生観について考えることができる。(エンドオブライフケア)	4. 終末期における看護ケア ・高齢者の死の捉え方、死生観 ・死因、死亡場所、家族への援助 ・事前指示、リビングウィル	担当：
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第2、4、5、6、8章 第9版 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第2章 第5版 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版 (医学書院) 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

1単位（15時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 新野 有美 ・ 石田 美香
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

高齢者の健康障害から発症する疾患と看護について学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
高齢者の健康障害の特徴 (4 時間)	1. 加齢変化により起こりやすい症状・状況がわかる。	1. 加齢変化により起こりやすい症状・状況とアセスメントの視点 ・発熱・脱水・疼痛・倦怠感 老年症候群とは ・急性疾患に付随する症候 ・慢性疾患に付随する症候 ・ADL低下に合併する症候	講義・演習 グループワーク 担当： 新野 有美 ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護病態・疾患論
高齢者に多い疾患に対する看護 (10 時間)	1. 高齢者に多く見られる疾患の特徴から、高齢者への看護の要点がわかる。	1. 代表的な疾患の病態・症状・治療と看護 ・心不全 ・脳血管疾患 ・神経難病 ・肺炎、閉塞性肺疾患 ・内分泌疾患 糖尿病	講義 担当： 石田 美香 ※教科書 ・老年看護学 ・老年看護病態・疾患論
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		
教科書：系統的看護学講座 老年看護学 第9版（医学書院） 系統的看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版（医学書院） 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版（医学書院） 評価方法：筆記試験（100％）			

認知症患者の看護

1単位（30時間）： 2学年 後期

担当講師名： 瀬藤 真理子 ・ 白川 由美 ・ 藪田 由美
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

高齢者の特徴と健康障害を踏まえ、生活機能の観点からアセスメントし高齢者がその人らしく生活ができることを重視した看護過程を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
認知症高齢者の看護 (12 時間)	1. 認知症高齢者の概念や倫理を学び、全人的に捉えることができる。 2. 認知症高齢者のコミュニケーションの特性がわかる。 3. 認知症高齢者の能力を最大限に活かし、安全で快適な援助方法がわかる。	1. 認知症とは ・ 定義 ・ 原因 ・ 症状（基本構造） ・ 診断 ・ 治療と予防 2. 認知症高齢者における倫理 3. 認知症の評価 4. 認知症高齢者のコミュニケーション 5. 認知症高齢者の援助の実際	講義 担当： 瀬藤 真理子 白川 由美 ※教科書 ・ 老年看護学
紙面上演習による看護展開 (16 時間)	1. 健康障害と高齢者の特徴を復習し事例の高齢者理解を深める。 2. 健康障害と高齢者の特徴が生活にどのように影響するか考えることができる。 3. 生活機能の観点から持てる力を考えアセスメントし、看護展開する。 4. 高齢者やその家族を尊重し、目標志向型思考である看護の焦点を考えることができる。 5. 生活に及ぼす影響の大きさから優先順位を決定できる。	1. アルツハイマー型認知症/誤嚥性肺炎 80代前半、女性 夫と2人暮らし 誤嚥性肺炎と脱水で入院 介護保険 要介護3 デイサービス利用中 ※上記事例による看護過程展開 老年看護過程用紙を用いて看護過程 常在条件・病理的状态 全体像 アセスメント 看護計画 ※老年看護学実習時に用いる 記録用紙を使用	講義・グループワーク レポート課題 担当： 藪田 由美

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
	6. 事例の高齢者に あつた援助計画を 具体的に考えるこ とができる。 7. 決められた方法で レポート提出がで きる。		
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験 看護過程
教科書：系統看護学講座 老年看護学 第9版（医学書院） 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 第5版（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版（医学書院） 評価方法：試験（40％）紙面上演習レポート（60％）			

小 児 看 護 学 概 論

1単位（30時間） ： 2学年 前期

担当講師名： 池田 緑〔実務経験のある講師による授業科目〕

ねらい

小児各期の成長発達の特徴、子どもの権利、小児看護の役割を理解する。また、子どもと家族を取り巻く社会について考え、子どもへの関心を深める。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
小児看護の特徴と理念 (6 時間)	1. 小児看護の対象と目標役割を理解する。 2. 小児と家族の諸統計からみた現代社会の特徴・人々の価値観の多様性を理解し、小児看護の課題を理解する。 3. 子どもの権利と医療現場におこりやすい問題の特徴を理解し、小児看護における倫理を考える。	1. 小児看護の対象 ・ 諸外国・わが国の児童観とその変遷 ・ わが国の小児看護の変遷 ・ 小児看護の目標と役割 2. 小児と家族の諸統計 ・ わが国の人口構造・出生と家族 ・ 子どもの死亡 ・ 少子化と小児医療の変遷 ・ 少子化の現代に求められる小児看護 3. 小児看護における倫理 ・ 小児医療における子どもの権利の変遷 ・ 子どもの権利と権利擁護（アドボカシー） ・ 医療現場でおこりやすい問題点と看護	講義
子どもの成長発達 (8 時間)	1. 小児各期の成長発達の特徴を身体機能精神機能社会機能から理解する。 2. 小児各期の特徴に応じた基本的生活習慣獲得に向けた養育および看護を理解する。	1. 子どもの成長発達 ・ 成長発達の原則 ・ 成長発達に影響する因子 ・ 成長発達の評価 2. 乳児期、幼児期、学童期、思春期青年期の特徴と養育および看護 ・ 発達課題と発達理論 ・ 乳児 ・ 幼児・学童 ・ 思春期・青年期	講義 視聴覚教材
家族の特徴とアセスメント (4 時間)	1. 子どもにとっての家族の意義を考え、現代社会の家族の特徴を理解する。 2. 家族アセスメントの目的と、家族をアセスメントする視点としての機能や役割を理解する。	1. 子どもにとって家族とは ・ 家族とは ・ 現代家族の特徴 2. 家族アセスメント ・ 家族アセスメントの目的と家族にとっての意義 ・ 子どもを持つ家族のアセスメントの留意点	講義
子どもの栄養 (4 時間)	1. 子どもにとっての栄養の意義を考え、発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護を理解する。	1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 子どもと食育 3. 食事摂取基準 4. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 5. 調乳・授乳方法と離乳食の特徴	講義・演習 担当： 池田 緑

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
子どもの事故 外傷と看護 (2 時間)	1. 子どもの事故外傷の原因と特徴および看護を理解する。	1. 子どもの事故・外傷と看護 ・ 子どもの事故の特徴とその要因 ・ 事故防止と安全教育 2. 主な事故・外傷 ・ 頭部外傷・誤飲・誤嚥 ・ 溺水・熱傷・熱中症 ・ スポーツ外傷の予防	講義
子どもの虐待 と看護 (2 時間)	1. 子どもの虐待の現状と援助のあり方を理解する。	1. 子どもの虐待と看護 子どもの虐待の現状 子どもの虐待の特徴 求められるケア	講義
子どもの健康 の保持増進に 関わる法律と 政策 (4 時間)	1. 子どもをめぐる法律と政策を理解する。 2. 予防接種と学校保健の実際を理解する。	1. 児童福祉 2. 医療費の支援 3. 予防接種 4. 学校保健	講義
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第14版 (医学書院)			
評価方法：筆記試験 (100%)			

子どもの病気・障がいと生活支援

1 単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名： 加藤 静恵 ・ 岩崎 美樹 ・ 眞保 隆
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

子どもに特有な疾患を病態・症状・診断・治療の視点から概観し、疾患や障害のある子どもの特徴を理解する。また、子どもの健康状態をアセスメントでき、疾患の予防や健康の保持・増進に対する援助について考え、基礎知識を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
疾患の病態・ 症状・診断・ 治療 (10 時間)	1. 看護に必要な疾患 の病態・症状・診 断・治療を理解す る。	1. 染色体異常・先天異常 ターナー症候群・クラインフェルター 症候群・ダウン症候群 2. 内分泌疾患・代謝性疾患と治療 新生児マススクリーニング検査について I型糖尿病 3. 免疫疾患・アレルギー性疾患と治療 気管支喘息 4. 感染症と治療 麻疹 風疹 伝染性紅斑 突発性発疹 水痘 手足口病 咽頭結膜熱 流行性耳下腺炎 ポリオ ロタウィルス感染症 溶連菌感染症 百日咳 ジフテリア 破傷風 細菌性髄膜炎 5. 循環器疾患と治療 ファロー四徴症・川崎病・SIDS 6. 消化器疾患と治療 口蓋裂・肥厚性幽門狭窄症・イレウス ・鎖肛 7. 血液・造血器疾患と治療 ITP・血友病 8. 悪性新生物と治療 白血病・ウィルムス腫瘍 9. 腎・泌尿器疾患と治療 ネフローゼ 10. 神経疾患と治療 てんかん・熱性けいれん 筋ジストロフィー 脳性まひ 重症心身障害児 11. 精神疾患と治療 発達障害	講義 担当： 加藤 静恵

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
子どもの状況 (環境)に特徴づけられる 看護 (8 時間)	1. 外来を受診する子ども・家族の特徴と看護を理解する。 2. 入院中の子ども・家族の特徴と看護を理解する。 3. 在宅療養中の子ども・家族の特徴と看護を理解する。 4. 災害時の子ども・家族の特徴と看護を理解する。	1. 外来における子どもと家族の看護 ・子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 ・外来の環境と感染症対策 ・外来を受診する子どもと家族の特徴 ・外来における子どもと家族の看護 2. 入院環境と看護の役割 入院中の子どもと家族の特徴 入院中の子どもと家族の看護 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 ・医療的ケア児と家族の特徴 ・日常生活と成長・発達を支える看護 ・地域・社会生活への支援 4. 災害時の子どもと家族の看護 ・被災地の環境と看護の役割 ・災害時の子どもと看護の特徴 ・災害時の子どもと家族の看護	講義 担当： 岩崎 美樹
障害のある子どもと家族の 看護 (10 時間)	1. 障害のある子どもと家族の特徴および支援を理解する。 2. 重症心身障害児の看護について理解する。 3. 発達障害児とその家族への看護	1. 障害のある子どもと家族の看護 ・障害の原因 ・障害のある子どもと家族のニーズ ・在宅療養・医療的ケアを必要とする子どもと家族への支援 ・障害のある子どもと家族への社会的支援 2. 重症心身障害児への看護 ・重症心身障害児の特徴 ・発達を促す関りとチームアプローチ ・重症心身障害児施設 3. 発達障害を持つ子どもへの看護 ・家族への看護 ・学習支援 ・医療と教育の連携（療育）	講義 担当： 眞保 隆
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院） 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第14版（医学書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

病気をもつ子どもの療養と看護

1単位（30時間）：2学年 後期

担当講師名： 押切 美佳・ 坂上 倫子 ・吉本 康子 ・ 池田 緑
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

子どもの成長・発達と生活を考慮し、さまざまな健康レベルにある子どもと家族の健康の維持・促進・回復するための知識と看護過程を通して子どもへの看護の考え方を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
急性期にある子どもと家族の看護	1. 急性期にある子どもと家族の苦痛や不安を軽減し、健康回復のための必要な看護を理解する。	1. 急性期にある子どもと家族の看護 - 急性期の特徴 - 子どもと家族の看護	講義 担当： 押切 美佳
周手術期の子どもと家族の看護 (6 時間)	2. 手術を受ける子どもと家族の反応と、周手術期に必要な看護を理解する。	2. 周手術期の子どもと家族の看護 - 周手術期にある子どもの特徴 - 子どもと家族の看護 3. 事例による看護 - 川崎病を発症した幼児期にある子どもと家族への看護 - 先天性心疾患のため手術を受ける乳児期にある子どもの看護	担当： 坂上 倫子
慢性期にある子どもと家族の看護 (4 時間)	1. 慢性状態のなかで健康な成長・発達を維持するために必要な子どもと家族の看護を理解する。	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 - 慢性期の特徴 - 子どもと家族の看護 - 子どもと家族のセルフケア・セルフマネジメント・QOLへの支援 - 成人診療科への移行支援（トランジション） 2. 事例による看護 - ネフローゼ症候群を発症した幼児期にある子どもと家族への看護	講義 担当： 池田 緑
エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護 (4 時間)	1. 終末期にある子どもと家族の苦痛や不安を理解し、その子どもらしさやその家族らしさが尊重されるための看護を考える。	1. エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の看護 - エンド・オブ・ライフにある子どもと家族の特徴 - 子どもの生命・死についてのとらえ方 - 子どもと家族の看護 - 子どもを亡くした家族の看護 2. 事例による看護 - 悪性腫瘍によるエンド・オブ・ライフにある学童期の子どもと家族への看護 - 子どもの痛みの受け止め方・表現方法 - 痛みの客観的評価と緩和に向けた援助	講義 担当： 吉本 康子

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
看護過程 (14 時間)	1. 疾患を抱える子どもとその家族の特徴を踏まえ、看護実践につながるアセスメントができる。 2. 看護問題を明確にし、優先度を表現できる。 3. 看護計画を立案できる。	1. 病態の理解 2. 療養生活と成長・発達を支える看護 3. 情報の整理とアセスメント 4. 看護問題の明確化 5. 看護計画立案	講義 担当： 池田 緑 個人ワーク
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 (医学書院) 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第14版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (50%) レポート (50%)			

子どもに必要な看護技術

1単位（15時間）：2学年 後期

担当講師名： 池田 緑・吉本 康子・牧野 真奈美
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

子どもの特徴を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
小児看護に必要な看護技術 (14 時間)	1. 子どもの身体的アセスメントの視点と方法を理解する。 2. 子どもと家族が検査・処置を安全・安楽に受けるための看護を理解し、実践を通してその方法を考える。 3. 子どもの検査・処置に対して安全・安楽な介助方法を理解する。	1. アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション ・バイタルサイン ・身体測定 1. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護 ・説明と同意 ・プレパレーション ・ディストラクション 3. 検査・処置の介助に必要な技術 ・与薬 ・輸液管理 ・抑制 ・検体採取 ・吸引 ・吸入 ・救命処置 他	講義・演習 池田 緑 (10時間) 吉本 康子 (4時間) 牧野 真奈美 (ファシリテーター)
単位認定試験 (1 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス（インターメディカ） 系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版（医学書院） 評価方法：筆記試験（100%）			

母 性 看 護 学 概 論

1単位（30時間）：2学年 前期

担当講師名： 堀江 里江 ・ 櫻井 葉子
[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

女性の生涯を通しての健康問題と取り巻く環境を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づく看護のあり方を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
母性看護の基盤となる概念 (8 時間)	1. 母性の定義・特性を理解する。 2. 母子・父子関係と家族の発達課題を理解する。 3. リプロダクティブヘルス/ライツの概念と課題を理解する。 4. ウェルネスの考え方を知る。 5. 母性看護のあり方と役割について考える。	1. 母性とは ・母性・父性・親性とは ・母性の発達・成熟・継承 2. 母子・父子関係と家族発達 ・愛着形成 ・相互作用と関係形成 ・家族の機能と発達課題 3. セクシュアリティ ・セクシュアリティ（人間の性）とは ・セクシュアリティの発達と課題 4. リプロダクティブヘルス/ライツ ・リプロダクティブヘルス/ライツとは ・女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 5. ヘルスプロモーション ・女性の意思決定を支える技術 ・健康教育、保健指導 6. 性差医療 7. ウェルネスの考え方 8. 母性看護のあり方 ・母性看護の理念 ・母性看護の課題と展望	講義 担当： 櫻井 葉子
母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (6 時間)	1. 母性看護の歴史的変遷と現状を理解する。 2. 母性看護の対象を取り巻く環境を理解する。	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 ・母性看護の変遷 ・母子保健統計の動向 ・母性看護に関する組織と法律、施策 ・子育て支援、次世代育成支援 2. 母子保健施策における看護の役割 ・母性看護にかかわる機関と職種	講義 担当： 櫻井 葉子

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
母性看護 の対象理解 (4 時間)	1. 生殖器の形態・機能 変化を理解する 2. 女性の生涯発達と 役割の変化につい て理解する。 3. 女性・家族のライ フサイクルを理解 する。	1. ライフサイクルにおける形態・機能の 変化 ・生殖器の形態と機能の変化 2. 現代女性のライフサイクルと家族 ・女性のライフサイクルと生涯発達 ・家族の発達段階と家族看護 3. マタニティサイクルにある対象の 理解 4. 母性看護の対象を取り巻く環境 ・家族 ・地域社会 ・生物学的環境 ・社会文化的環境	講義 担当： 櫻井 葉子
リプロダクティブ ヘルスケア (6 時間)	1. 家族計画の必要性和 看護を学ぶ。 2. 性感染症や喫煙が女 性の身体に与える影 響を理解し、看護を 学ぶ。 3. DV・性暴力を受けた 女性の心理を理解 し、支援のあり方を 学ぶ。 4. 子供の虐待の予防と 早期発見について、 母性看護学の視点か ら理解する。	1. 家族計画指導 ・受胎調節 ・人工妊娠中絶と看護 2. 性感染症予防 3. 女性と喫煙、飲酒 4. DV・性暴力を受けた女性に対する 看護 5. 母性看護学からみた児童虐待と看護	講義 担当： 堀江 里江
国際化社会と 看護 (2 時間)	1. 国際化社会における 母性看護のあり方を 理解する。	1. 国際化社会と看護 ・母子保健の国際化 ・在日外国人の母子保健	講義 担当： 堀江 里江
母性看護にお ける倫理 (2 時間)	1. 母性看護における倫 理について考える。 2. 女性の意思決定を支 援する看護のあり方 を理解する。	1. 母性看護における倫理 ・生命倫理と看護倫理 2. 母性看護における倫理的意思決定	講義 グループワーク 担当： 櫻井 葉子
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自 己知識を再確認す る。		試験
教科書：系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 第14版 (医学書院)			
評価方法：筆記試験 (100%)			

マタニティサイクルにおける看護 I

1単位（30時間）：2学年 前期 ・ 後期

担当講師名： 中谷 智子 ・ 森川 苑美 ・ 小野りえ子

[実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

正常な経過および正常を逸脱した妊婦、産婦及び胎児について理解し、妊産婦と家族を含めた看護の基本を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
妊娠期におけるアセスメントと看護 (6 時間)	1. 妊娠期の身体・心理・社会的変化を理解する。 2. 妊娠経過と胎児の発育のアセスメントの視点を理解する。 3. 保健指導の意義・目的を学び、留意点を理解する。 4. 親になるための準備教育の必要性和概要を理解する。	1. 妊娠の定義 ・ 妊娠の定義、妊娠の成立 ・ 胎児の性分化 2. 妊娠による生理的变化と心理、社会的特性の理解 3. 妊娠経過のアセスメント 4. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント ・ 妊婦の日常生活のアセスメントと保健指導 5. 親になるための準備教育 6. 妊婦健診の技術 7. バースプラン	講義 担当： 中谷 智子
遺伝相談・不妊治療の看護 (2 時間)	1. 遺伝相談・不妊治療について理解し、受胎指導のあり方を学ぶ。	1. 遺伝相談 2. 不妊治療 3. 受胎指導	講義 担当： 小野りえ子
妊娠期の異常 (4 時間)	1. 妊娠期に起こる健康障害について理解する。 2. 妊娠期に起こる健康障害の検査・治療について理解する。 3. 妊娠期に起こる健康障害についての看護を考える。	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患（妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、血液型不適合妊娠） 4. 多胎妊娠（分類・診断・合併症・対策） 5. 妊娠持続期間の異常 6. 子宮外妊娠	講義 担当： 小野りえ子

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
異常のある妊婦の看護 (2 時間)	1. 妊娠の異常を早期発見するための観察の視点がわかる。	1. ハイリスク妊婦の看護 2. 妊娠期の感染症の看護 3. 妊娠疾患の看護 4. 妊娠持続期間の異常	講義 担当： 中谷 智子
分娩経過の理解と産婦の変化 (2 時間)	1. 分娩の3要素を学び、機序を理解する。 2. 分娩各期の特徴及び産婦の身体・心理・社会的変化を理解する。	1. 分娩の要素の理解 2. 分娩進行と産婦の身体的変化 3. 産婦の心理・社会的変化	講義 担当： 森川 苑美
分娩期にある産婦・家族の看護 (6 時間)	1. 分娩各期のアセスメントの視点を理解する。 2. 分娩期の看護目標と産婦のニーズを学び、援助の重要性を理解する。	1. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2. 産婦と家族の心理、社会面のアセスメント 3. 産婦・家族における看護上の問題の明確化 4. 産婦と家族の看護 ・看護目標と産婦のニーズ ・安全・安楽な分娩への看護 ・出産体験が肯定的になるための看護 ・家族発達を促す看護 5. 分娩各期（第1～4期）の看護の実際	講義 担当： 森川 苑美
分娩の異常 (4 時間)	1. 分娩期に起こる健康障害について理解する。 2. 分娩期に起こる健康障害について理解する。 3. 産科処置と産科手術の概要を学ぶ。	1. 産道・娩出力の異常 2. 胎児の異常 3. 胎児の付属物の異常 4. 分娩時の損傷・異常出血 5. 産科処置と産科手術	講義 担当： 小野りえ子
異常のある産婦の看護 (2 時間)	1. 分娩異常を早期発見する観察の視点がわかる。 2. 異常分娩時の産婦と家族の心理状況を理解する。 3. 異常分娩時の産婦及び家族への安全・安楽な看護を考える。	1. 破水が生じた産婦の看護 2. 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3. 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 4. 急速遂娩を受ける産婦の看護 5. 分娩時異常出血のある産婦の看護 6. 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義 担当： 森川 苑美
単位認定試験 (2 時間)	既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 第14版 (医学書院) ナーシンググラフィカ 母性看護学 (3) 母性看護技術 第4版 評価方法：筆記試験 (100%)			

マタニティサイクルにおける看護Ⅱ

1単位（30時間）：2学年 後期

担当講師名： 海老名 由紀子・小野りえ子・河野 麻実・吉田 まゆみ
 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

正常な経過および正常を逸脱した褥婦と新生児について理解し、褥婦と家族および新生児を含めた看護の基本を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
産褥期における看護 (8 時間)	1. 産褥期の身体・心理・社会的変化を理解する。 2. 産褥経過を学び、褥婦の健康状態をアセスメントする視点がわかる。 3. 退行性・進行性変化に対する看護を理解する。 4. 褥婦のセルフケア能力を高めるための看護を理解する。	1. 産褥経過の理解 ・産褥期の身体的変化 ・産褥期の心理・社会的変化 2. 産褥経過の診断 ・進行性変化・退行性変化のアセスメントと看護 ・褥婦の健康状態のアセスメント ・バースレビュー 3. 褥婦の日常生活とセルフケア能力向上への看護	講義 担当： 海老名由紀子
褥婦と家族の看護 (6 時間)	1. 母児の愛着形成を促す看護について理解する。 2. 育児技術獲得への援助を理解する。 3. 家族関係の再構築への関わりの必要性がわかる。 4. 地域で生活する母子への育児支援の必要性を理解する。	1. 児との関係確立への看護 2. 育児技術に関わる援助 (授乳・排気、清潔、健康管理) 3. 家族関係再構築への看護 4. 施設退院後の看護 ・育児不安と育児支援・職場復帰	講義 担当： 海老名由紀子
産褥期に起こる健康障害と看護 (8 時間)	1. 産褥期に起こる健康障害について理解し、看護を考える。	1. 子宮復古不全 2. 乳房トラブルに対する看護 ・乳房の腫脹 ・乳首のトラブル 3. 産褥期の発熱 4. 産後うつとマタニティブルーズ 5. 児を亡くした褥婦・家族の看護	講義 担当： 小野 りえ子

新生児のアセスメントと看護 (2 時間)	1. 新生児の生理を理解し、アセスメントの視点を持つことができる。 2. アセスメントを踏まえ適切な看護を考えることができる。	1. 新生児の生理と機能 ・新生児とは ・新生児の機能 2. 新生児の健康状態のアセスメント 3. 新生児の看護 ・出生直後の看護 ・出生後から退院までの看護	講義 担当： 河野 麻実
単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
新生児の異常と看護 (2 時間)	1. 新生児の異常を早期発見するための観察の視点がわかる。 2. 異常な状況を考え、安全・安楽な看護を理解する。	1. 新生児仮死 2. 分娩外傷 3. 低出生体重児の看護 4. 高ビリルビン血症児の看護 ・黄疸のリスク因子・検査・治療 5. 新生児出血性疾患	講義 担当： 河野 麻実
災害時の妊産褥婦と児に対する支援 (2 時間)	1. 災害時の医療体制と、妊産婦・児への支援を学ぶ	1. 災害時の妊産婦への支援 ・災害対策と医療支援の実際 ・災害発生時の対応 ・災害に向けた活動と日ごろの備え	講義 担当： 吉田 まゆみ
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 第13版 (医学書院) ナースングラフィカ 母性看護学 (3) 母性看護技術 第4版 評価方法：筆記試験 (100%)			

ウ ィ メ ン ズ ヘ ル ス と 看 護

1 単位（15時間）：2学年 後期

担当講師名： 中畑 夕美子 ・ 櫻井 葉子

〔実務経験のある講師による授業科目〕

ねらい

1. 女性の健康（ウィメンズヘルス）の視点から、女性のライフサイクル各期の特徴を捉え、健康の回復や健康生活を支えるための看護実践に必要な考え方を学ぶ。
2. 新生児に対し、安全・安楽に援助するために必要な看護技術を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
女性のライフ ステージ各期 における看護 (8 時間)	1. 女性のライフサイ クルと発達課題を 踏まえた対象理解 ができる。 2. 健康生活を支える ための看護が理解 できる。	1. 思春期の健康と看護 ・ 思春期女性の特徴 ・ 月経異常 ・ 性教育 2. 成熟期の健康と看護 ・ 不妊症 ・ 月経随伴症状 ・ 生殖器疾患（良性、悪性腫瘍） 3. 更年期の健康と看護 ・ 加齢とホルモン ・ 更年期障害 4. 老年期の健康と看護 ・ 加齢に伴う身体的特徴	講義 担当： 中畑夕美子
新生児に必要 な看護技術を 習得する。 (6 時間)	1. 新生児の観察・ケ アに対する安全・ 安楽な看護技術を 習得する。	1. 新生児に必要な看護技術 ・ 新生児の観察の視点 ・ バイタルサインの測定 ・ 身体測定 ・ 沐浴 ・ おむつ交換、寝衣交換 ・ 抱き方	講義・演習 担当： 櫻井葉子
単位認定試験 (1 時間)	既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験
教科書：系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 第14版（医学書院） 系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 第13版（医学書院） 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 第15版（医学書院） ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 第4版（メディカ出版） 評価方法：筆記試験 100%			

精神看護学概論

1単位（30時間） ： 2学年 前期

担当講師名： 鵜飼 渉 ・ 那須 典政

ねらい

1. 人間の心の健康を成長、発達、社会適応の側面から学び、精神保健の考え方がわかる。
2. 精神障がいのある人の社会における処遇を歴史的に概観し、人権擁護やこれからの精神看護を考える。
3. 精神保健医療福祉をめぐる法制度を学び、患者の生活支援や医療サービスの仕組みを知り、看護を幅広く考える。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
精神の健康と障害 (8 時間)	1. 精神の健康を社会との関連で考える。 2. 精神保健の考え方が理解できる。 3. 精神看護のイメージができる。	1. 精神看護学で何を学ぶか 2. 精神の健康とは 3. 精神保健の考え方 ・ ストレスと健康の危機 ・ 精神保健における「危機」というとらえ方 ・ 精神保健における3つの予防概念 ・ 危機への対処（コーピング） ・ 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 ・ 回復（リカバリー）を支える力 ・ レジリエンス・ストレングス 4. 精神障がいのとらえ方 ・ 国際生活機能分類（ICF） 5. 精神看護とは	講義 グループワーク 「精神看護の基礎」 第1章 第2章 担当： 鵜飼 渉
人間の心のはたらきと人格の形成 (6 時間)	1. 心の仕組みと人格の発達を理解する。 2. 自我の防衛機制を理解できる。	1. 心のはたらき ・ 意識と認知機能 ・ 感情 ・ 学習と行動 ・ 知能 ・ 心の理論 心理検査 2. 心のしくみと人格の発達 ・ ライフサイクルとアイデンティティ ・ 自我の構造 不安と防衛 ・ エリクソンの発達理論 ・ フロイト力動理論 ・ 「甘え」の理論	講義 「精神看護の基礎」 第3章 担当： 鵜飼 渉
関係のなかの人間 (4 時間)	1. 家族内コミュニケーションについて考えることができる。	1. システムとしての人間関係 2. 全体としての家族 ・ 家族と精神の健康 ・ 家族の関係性とコミュニケーション ・ 家族システム ・ 家族のストレスと感情表出 3. 人間と集団	講義 「精神看護の基礎」 第4章 担当： 鵜飼 渉

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
社会のなかの 精神障がい (10 時間)	1. 精神医療の変遷を 学び、精神に障が いのある対象の処 遇を理解する。 2. 精神科看護の基本 となる法律が理解 できる。	1. 精神障がいと治療の歴史 2. 日本における精神医学・精神医療の 流れ 3. 精神障がいと文化-多様性と普遍性 4. 精神障がいと社会学 ・スティグマ 5. 精神障がいと法制度 ・精神科看護と法律 ・精神科領域で必要な法律と制度 ・精神保健福祉法 ・障害者総合支援法 ・法律制度における課題 6. おもな精神保健医療福祉対策とその 動向	講義 「精神看護の基 礎」 第7章 担当： 那須 典政
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の 自己知識を再確認 する。		試験
教科書：系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

精神疾患をもつ人の理解

1単位（30時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 小林 清樹 ・ 那須 典政 ・ 村本 好孝
 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

1. 患者が示すさまざまな症状・病態を学び、対象の個別性に合わせた看護を実践する基礎的知識・態度・技術を学ぶ。
2. 精神科治療や疾患の特徴から生じやすい問題状況の把握のしかたと看護師の役割を学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
精神疾患のあらわれ方 (8 時間)	1. 精神を病むとはどういうことか理解できる。 2. 精神機能の障害による精神症状が理解できる。	1. 精神を病むことと生きること 2. 精神症状論と状態像 3. 精神障がい診断と分類	講義 「精神看護の基礎」 第5章 担当：那須 典政
精神科での治療 (6 時間)	1. さまざまな精神障害の治療が理解できる。	1. 精神科における治療 2. 精神療法 3. 薬物療法 4. 電気けいれん療法その他 5. 環境療法・社会療法	講義 「精神看護の基礎」 第6章 担当：小林 清樹
身体をケアする (6 時間)	1. 身体と心は密接なつながりを持つことが理解できる。 2. 身体のケアが心のケアにもなるが理解できる。 3. 抗精神病薬の作用・副作用が理解できる。 4. 精神科に多い身体合併症とその看護が理解できる。	1. 精神科における身体のケア 2. 精神科における身体を通した看護ケアの実際 3. 精神科の治療に伴う身体のケア 抗精神病薬の有害反応 電気けいれん療法の看護 4. 身体合併症のアセスメントとケア 5. 精神科における終末期ケア	講義 「精神看護の展開」 第12章 担当：那須 典政
ケアの人間関係 (8 時間)	1. 自分と相手を理解することがケアの人間関係の前提であることが理解できる。	1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法 4. 関係をアセスメントする ・プロセスレコード	講義 「精神看護の展開」 第8章 担当：村本 好孝

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
	2. 患者との関係をアセスメントする意味と方法が理解できる。	5. 患者—看護師関係におこる感情体験 6. 対処のむずかしい場面 7. 医療の場のダイナミクス	
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

精神看護に必要な技術

1単位（30時間）：2学年 後期

担当講師名：村本 好孝・谷藤 伸恵・三浦 由佳・清永 久子

〔実務経験のある講師による授業科目〕

ねらい

1. 患者にとっての入院体験の意味を考え、入院の仕方、患者のアセスメントの仕方を学ぶ。
2. 患者の回復に繋がる治療的環境をどのようにつくるか、そのために看護師に必要なことは何かを学ぶ。
3. 地域で生活している患者のサポートについて理解する。
4. 当事者研究の方法を学び、他者理解、自己理解の必要性を理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
入院治療の意味 安全をまもる (12 時間)	1. 精神科における入院治療の「意味」が理解できる。 2. 治療的環境を作るために必要なことが理解できる。 3. 患者の安全を守るためのリスクマネジメントが理解できる。 4. 緊急事態にどう対処すべきか、予防に重点をおいて理解できる。	1. 精神科を受診すること 2. 治療の器としての病院・病棟 3. 入院中の観察とアセスメント 4. ケアの方向性を考える 5. 退院に向けての支援とその実際 6. リスクマネジメントの考え方と方法 7. 緊急事態に対処する 8. 緊急事態とスタッフの支援	講義 「精神看護の展開」 第11章 第13章 担当： 村本 好孝
回復を支援する (4 時間)	1. 患者の回復を支える方法が理解できる。	1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン 3. 治療の場におけるリカバリーの試みと看護 4. さまざまな回復のためのプログラム ・ソーシャルスキルトレーニング (SST) ・認知行動療法 ・浦河べてるの家の当事者研究 など	講義・演習 「精神看護の展開」 第9章 担当： 村本 好孝 三浦 由佳
地域におけるケアと支援 (4 時間)	1. 精神障害者の地域生活が実際にどのように支えられ、どのような看護が行われているか理解できる。	1. 器としての地域 2. 地域における生活支援の方法 3. 地域におけるケアの方法と実際 4. 学校におけるメンタルヘルスと看護 5. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 6. 災害時のメンタルヘルスと看護	講義 「精神看護の展開」 第10章, 15章 担当： 谷藤 伸恵

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
医療の場におけるメンタルヘルスと看護 (4 時間)	1. 身体疾患と精神症状の関係が理解できる。 2. リエゾン精神看護の役割が理解できる。	1. 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス 2. リエゾン精神看護とその活動 3. リエゾンナースの活動の実際 4. 看護師のメンタルヘルスへの支援	講義 「精神看護の展開」 第14章 終章 担当： 清永 久子
当事者研究の実際 (4 時間)	1. 当事者活動や当事者の思いを聞き、必要としていることの理解を深める。 2. 自分をケアする方法を学ぶ	1. 「精神障害をもつ当事者の話」 ・地域で生活している患者の「生きづらさ」（病気をした体験、精神障害者の社会参加のあり方などについて感じていること、困っていることなど） 2. 他者のケアの前に自分のケア 当事者研究を体験する	当事者研究 市内のクリニックの方々 担当： 三浦 由佳 (PSW)
単位認定試験 (2 時間)	1 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

精神疾患をもつ人の生活と看護

1単位（30時間）：2学年 前・後期

担当講師名： 薮田 由美 ・ 阿部 綾

ねらい

事例を通して精神疾患や障がいのある対象とその家族に必要な看護を考えることができる。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
紙面上演習による看護過程 (15 時間)	1. 精神疾患や障がいのある対象のアセスメントや必要な看護の考え方を理解できる。 2. 精神疾患や障がいのある対象のアセスメントを行い、個別性・もてる力を活かした看護の方向性を考えることができる。 3. 患者－看護師関係の実際を理解し、振り返ることができる。	1. 精神疾患や障がいのある対象の看護 2. 紙面上演習 ・ 事例：統合失調症患者 ・ ペーパーペーシェントより看護過程を展開する。 ・ アセスメント、看護の方向性、看護計画立案を実施する。 3. 患者－看護師関係の実際 ・ ロールプレイ ・ 自己のコミュニケーションを振り返りプロセスレコードを記載する まとめ	講義 演習 グループワーク
教科書：系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版（医学書院） 評価方法：演習60％・レポート25％・筆記試験15％			

ケーススタディ

1単位（30時間）： 2学年 前・後期

担当講師名： 澤崎 恵美 [実務経験のある講師による授業科目]

ねらい

ケーススタディを通して看護にとって研究のもつ意味を理解し、研究の基礎的知識と進め方を実践的に学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
ケーススタディとは (4 時間)	1. 看護研究の目的・意義・方法がわかる 2. ケーススタディとは何かわかる 3. 看護研究・ケーススタディの倫理的配慮がわかる 4. ケーススタディをまとめるための取り組み方についてイメージできる	1. 看護研究の目的・意義・方法 ・研究ってどんなもの？ ・理論と研究の関係 2. ケーススタディとは ・ケーススタディのいろいろな定義 ・何のためにケーススタディをする？ 3. 看護研究・ケーススタディにおける倫理的配慮 ・自己決定権、プライバシー等 4. ケーススタディを論文化するプロセス ・臨地実習と実習記録、テーマの設定、計画書作成、レポートの書き方の流れ	講義
文献検索 (2 時間)	1. 文献検索・文献検討の必要性がわかる 2. 文献検索の方法がわかる	1. 研究と文献 ・文献で何がわかるのか？ ・一次文献と二次文献 2. 文献検索の方法 ・インターネットによる文献検索 ・オンライン文献の検索先 ・シソーラス	講義 演習
テーマの絞り込み (2 時間)	1. 研究疑問から研究テーマへのプロセスがわかる 2. 自己のテーマを絞り込むことができる	1. 研究テーマの絞り込み ・テーマの選び方 ・テーマの妥当性の検討 2. 自己のケーススタディのテーマの検討 ・研究疑問からテーマへのプロセス ・文献検討をを生かしたテーマの検討 ・わかりやすいタイトル	講義 演習
研究計画書作成 (2 時間)	1. 研究計画書が作成できる	1. 研究計画書の作成 ・研究計画書がなぜ必要なのか？ ・テーマ、テーマの設定理由、研究の目的、用語の定義、参考文献の記載	講義 演習
論文作成 (8時間)	1. 事例をケーススタディとしてレポートにまとめることができる	1. 論文作成 ・はじめに ・事例紹介 ・考察 ・謝辞 ・研究目的 ・看護の実際 ・結論 ・引用・参考文献	講義 演習
単元(時間数)	目 標	内 容	方 法

抄録作成 (2 時間)	1. 抄録を作成できる	1. 抄録の書き方 ・抄録とは ・抄録作成	講義 演習
発表資料作成 (2 時間)	1. 効果的なプレゼンテーションのために資料を作成できる	1. 効果的なプレゼンテーション ・発表原稿 ・補助資料	講義 演習
事例報告会 (8時間)	1. わかりやすいプレゼンテーションができる 2. 報告会参加者としての役割を果たすことができる	1. 事例報告会 ・ケーススタディ発表 2. 座長、書記、タイムキーパー、講評者等	演習
教科書：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社） 評価方法：論文、プレゼンテーション、事例報告会での参加態度を授業内で提示した評価表により評価する。			

令和 5 年度

13 期生

講 義 概 要

シラバス : Syllabus

学校法人 美専学園

北海道医薬専門学校

看 護 学 科

分野	教科目名	単位数	時間数	試験時間	単元または講師名	配点	試験方法
専門基礎	関係法規	1	4	60分	澤崎 恵美	15	筆記試験
			24		鈴木 繁元	85	
	社会福祉Ⅱ	1	15	45分	木川 幸一	100	筆記試験
専門Ⅱ	母性看護学方法論Ⅲ	1	15	45分	櫻井 葉子	100	筆記試験50% レポート50%
	精神看護学方法論Ⅲ	1	30	60分	藪田 由美・阿部 綾	100	レポート50% 演習評価50%
統合	看護の統合Ⅲ	1	15	45分	池田 緑	100	レポート
	看護の統合Ⅳ	1	6	60分	小池 真理子	20	筆記試験
			4		松山 尚子	10	
			18		三上 剛人	70	

【注釈】

- ① レポート¹⁾看護過程 紙面上演習展開
- ② ①以外のレポート評価の内容の詳細は、各科目において確認すること
- ③ 演習評価の内容については、各科目において確認すること

実務経験のある教員による授業科目の単位数（時間数）

◆看護学科 3年次

	教員名	教科目	時間	実務経験に係る内容	その他
1	池田 緑	看護の統合Ⅲ	15	看護師として臨床で実務経験のある教員が、複数患者を受け持つ看護実践場面についての授業を担当する。	
2	三上 剛人	看護の統合Ⅳ	18	実務経験をもつ救命救急士が災害看護の実際についての授業を担当する。	
3	松山 尚子	看護の統合Ⅳ	4	臨床で活躍する看護師が、国際看護について講義を担当する。	
4	小池 真理子	看護の統合Ⅳ	6	海外青年協力隊などで活動した看護師が国際協力について講義を担当する。	
専任教員		成人看護学実習Ⅲ	90	学内で学んだ知識・技術・態度を統合し、あらゆる発達段階・健康水準の対象に対して科学的根拠をもって看護を実践できる基礎的能力を養うための指導を行う。	
		老年看護学実習Ⅰ	90		
		老年看護学実習Ⅱ	90		
		母性看護学実習	90		
		小児看護学実習	90		
		精神看護学実習	90		
		在宅看護論実習	90		
		看護の統合と実践実習	90		
合計 763 時間					

関 係 法 規

1単位（30時間）： 3学年 前期

担当講師名： 鈴木 繁元 ・ 澤崎 恵美

ねらい

法の基本的知識を学び、看護の専門性やその活動にかかわる法的諸問題を保健師助産師看護師法、各種関連法規の学習を通して理解し、看護職が果たしえる法的責任について学ぶ。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
法の概念 と看護法 (4 時間)	1. 法の概念を学び、 医事法の中で保健 師助産師看護師法 がどのような地位 を占めているのか 理解する。	1. 法の概念 2. 衛生法の意義、沿革、分類 3. 厚生行政のしくみ 4. 看護法 ・保健師助産師看護師法 ・看護師等の人材確保に関する法律	講義 担当： 澤崎 恵美
医事法 (6 時間)	1. 医療に関する法の しくみ基本原理を 理解する。 2. 医療者が業務に関 してどのような義 務を持っているの か理解する。 3. 医療の柱となる法 律を学び倫理的な 概念を理解する。 4. 医療関係者の名称 独占と業務独占に ついて理解する。 5. 医療関係者の免許 資格及び職務内容 を理解する。	1. 医師法・医療法 ・医師法 ・医療法 2. 関係資格法 ・診療放射線技師法 ・臨床検査技師業に関する法律 ・理学療法士及び作業療法士 ・視能訓練士法 ・言語聴覚士法 ・臨床工学技士法 ・義肢装具士法 ・救命救急士法 ・柔道整復師法 ・あん摩マッサージ指圧師、はり師、 きゅう師業に関する法律 ・歯科医師/歯科衛生士/歯科技工士法 3. 医療を支える法律 ・臓器の移植に関する法律 ・死体解剖保存法 ・死産の届出に関する規程 ・医学及び歯学の教育のための献体に 関する法律	講義 担当： 鈴木 繁元
保健衛生法 (4 時間)	1. 保健衛生に関する 基本理念と体系を 理解する。 2. 衛生法の分類と 考え方を理解 する。 3. 感染症の予防、蔓 延防止の為に講じ られている措置を 理解する。	1. 地域保健法 2. 精神保健/精神障害者福祉に関する法律 3. 精神保健福祉士法 4. 母体保護法、母子保健法 5. 学校保健法 6. 健康増進法 7. 栄養士法、調理師法 8. 原子爆弾被爆者の援護に関する法律 9. 感染症予防及び感染者に対する医療の 法律 10. 予防接種法、検疫法	講義 担当： 鈴木 繁元

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
薬務法 (4 時間)	1. 薬事法制度の概要を学び、基本原則を理解する。 2. 薬剤の取り扱い及び留意点を理解する。	1. 薬事法（目的/定義/薬局/医薬品製造取り扱い/広告/等） 2. 薬剤師法（任務/免許/試験/業務） 3. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 4. 毒物及び劇物取締法 5. 麻薬及び向精神薬取締法 6. 大麻取締法、あへん法、覚せい剤法 7. 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律	講義 担当： 鈴木 繁元
環境衛生法と環境法 (4 時間)	1. 健康な暮らしを守る法律の種類と概要、目的を理解する。 2. 自然環境を保全する為の法律の種類と概要、目的を理解する。 3. 生活環境の衛生を維持するための法規の意義を理解する。 4. 廃棄物の処理問題、地球環境問題へ視野を広げ、課題と対策を理解する。	1. 食品安全基本法、食品衛生法 2. 製菓衛生師法 3. 水道法、下水道法 4. 理容師法・美容師法、クリーニング法 5. 旅館業法、公衆浴場法、興行場法 6. 生活衛生関係及び振興に関する法律 7. と畜場法、化製場等に関する法律 8. 狂犬病予防法 9. 墓地、埋葬等に関する法律 10. 環境基本法、大気汚染/水質汚濁防止法 11. 騒音規制法、振動規制法 12. 悪臭防止法、土壌汚染対策法 13. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 14. 公害健康被害の補償等に関する法律 15. 公害紛争処理法 16. 自然環境保全法、自然公園法	講義 担当： 鈴木 繁元
社会保障法 (4 時間)	1. 社会保障法の概要を学び、目的と仕組みを理解する。 2. 医療と社会保険との関係性と意義を理解する。 3. 社会保障制度が現在抱えている課題を理解する。	1. 社会保障のしくみ(社会保険/社会福祉) 2. 健康保険法、国民健康保険法 3. 老人保健法 4. 船員保険法 5. 国家公務員共済組合法、各種の共済組合法規 6. 社会福祉法、生活保護法、児童福祉法 7. 老人福祉法、介護保険法 8. 障害者基本法、障害者自立支援法 9. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法 10. 母子及び寡婦福祉法 11. 社会福祉士及び介護福祉士法 12. 各手当法、各年金法	講義 担当： 鈴木 繁元
労働法と社会基盤整備 (2 時間)	1. 労働をめぐる基本的権利と対処の仕組みを理解する。 2. 労働者の健康を守る為に看護師に与えられている役割を理解する。	1. 労働基準法、労働者安全衛生法 2. 労働者災害補償保健法、雇用保険法 3. 育児休業・介護休業等に関する法律 4. 男女均等及び待遇の確保に関する法律 5. 次世代育成支援、少子化社会対策 6. 高齢社会対策 7. 教育職員免許法 8. 個人情報保護に関する法律	講義 担当： 鈴木 繁元
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 第54版（医学書院） 新版 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 評価方法：筆記試験（100%）			

社 会 福 祉 II

1単位（15時間） ： 3学年 前期

担当講師名： 木川 幸一

ねらい

社会福祉について、そのサービス運用主体などを学習し、人々のニーズに応える生活支援のあり方について理解する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
ひとり親家庭福祉と児童福祉 (4 時間)	- ひとり親の概念及び課題と福祉施策の種類と概要について理解する。 - 児童福祉の定義と現状を学び、少子・高齢化の影響を理解する。 - 子育て支援、児童虐待に関する政策の背景と内容を理解する。	- ひとり親家庭福祉 - 現代における母子家庭の課題 - 母子及びひとり親家庭の福祉施策(母子福祉の理念/母子及び寡婦福祉法による施策/未婚の母の問題/父子家庭の福祉施策) - 児童福祉 - 少子・高齢化と児童福祉 - 児童福祉の理念と定義、変遷、サービス提供機関 - 児童福祉施策の現状 - 児童の福祉施策(保育/保護)	講義
母子保健と生活保護制度 (2 時間)	- 母子保健施策の動向と内容を理解する。 - 生活保護制度の概要と決定、実施に対する規定を学び、現状と課題を理解する。 - 低所得対策や婦人保護事業の概要を理解する。	- 母子保健 - 母子保健施策の動向と内容 - 生活保護制度 - 生活保護制度の歴史/目的/基本原理・原則/種類/生活保護の基準と決定/実施 - 生活保護における権利、義務関係 - 生活保護の基準現状と課題 - その他の福祉 - 低所得対策 ・ 婦人保護事業	講義
社会福祉実践の共通基盤 (2 時間)	- 社会福祉の実践の特質と基本的な枠組み、基底となる要素を理解する。 - 社会福祉実践の展開過程と基本的な技法を理解する。	- 社会福祉の実践の特質 - 社会福祉の実践の基本的枠組み - 基底となる要素(焦点/知識/価値と倫理要項) - 実践の展開過程 - フローチャート - 展開過程の進め方 - 基本的技能(関係/面接/訪問/記録) - 社会福祉実践の検討課題 - エンパワーメント - アドボカシー - セルフヘルプグループ	講義

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
社会福祉と医療・看護 (6 時間)	1. 行政等で行われる社会福祉の看護援助の視点を理解する。 2. 行政で行われる社会福祉の中で看護の質向上のために必要な要素を理解する。 3. 高齢者以外にある医療福祉問題の概要と活動状況を学ぶ。 4. 看護活動は健康と生活の視点で福祉活動と連携していることを理解する。 5. 連携における課題点を学び、これからの展望を理解する。	1. 連携の重要性 ・高齢社会を迎えての医療福祉問題の増大 ・社会全体の対応 ・要介護高齢者の増大と介護問題 ・認知症高齢者の増大と介護問題 ・ひとり暮らし高齢者の増大と生活維持問題 ・慢性疾患の増大 2. 高齢者以外の一般的な医療福祉問題 ・植物状態の患者と神経系難病患者のケア ・リハビリテーションの発達と福祉分野の協働 ・公害・労働災害・薬害被害 ・ターミナルケア ・ホームレス患者 3. 医療システム変化 4. 連携をめぐる課題 5. 医療ソーシャルワーク業務 6. 社会福祉と医療・看護 ・院内における連携 ・病院と地域保健・社会福祉との連携 ・在宅ケアの現場における連携	講義
単位認定試験 (1 時間)	1. 既習内容の自己知識を再確する。		試験
教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 第23版 (医学書院) 評価方法：筆記試験 (100%)			

母 性 看 護 学 方 法 論 III

1 単位（15時間）：3学年 前期

担当講師名： 櫻井 葉子 [実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. 女性のライフサイクル各期についてアセスメントし、健康の回復や健康生活を支えるための看護実践に必要な考え方を学ぶ。
2. 新生児に対し、安全・安楽に援助するために必要な看護技術を習得する。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
母性看護の看護過程の実際 (10 時間)	1. 女性のライフサイクルと発達課題を踏まえた対象理解ができる。 2. 健康生活を支えるための看護計画が立案できる。 3. 母性看護の看護過程の特徴が理解できる。	1. 女性のライフサイクル・発達課題をふまえた対象の身体的・精神的・社会的側面の理解 2. 事例を通してアセスメント 3. 事例を通して看護計画の立案 ※グループで取り組み、発表を通して学びを共有し、自己の理解や考えを発展させる。 ※事例は、妊娠期・産褥期・子育て期・更年期にある対象等	講義・演習 グループワーク
新生児に必要な看護技術を習得する。 (4 時間)	1. 新生児の観察・ケアに対する安全・安楽な看護技術を習得する。	1. 新生児に必要な看護技術演習 ・ 児の観察の視点 ・ バイタルサインの測定 ・ 着替え ・ 抱っこ ・ おむつ交換 ・ 寝かせ方 ・ 沐浴	講義・演習
単位認定試験 (1 時間)	既存の学習内容の自己知識を再確認する。		筆記試験
教科書：系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 第13版 (医学書院) ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 第4版 (メディカ出版) 評価方法：筆記試験 50% レポート50%			

精神看護学方法論Ⅲ

1単位（30時間）：3学年 前期

担当講師名： 薮田 由美・阿部 綾

ねらい

事例を通して精神疾患や障がいのある対象とその家族に必要な看護を考えることができる。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
紙面上演習による看護過程 (30 時間)	1. 精神疾患や障がいのある対象のアセスメントや必要な看護の考え方を理解できる。 2. 精神疾患や障がいのある対象のアセスメントを行い、個別性・もてる力を活かした看護の方向性を考えることができる。 3. 患者－看護師関係の実際を理解し、振り返ることができる。	1. 精神疾患や障がいのある対象の看護 2. 紙面上演習 ・事例：統合失調症患者 ・ペーパーペーシェントより看護過程を展開する。 ・アセスメント、全体像、看護の方向性、看護計画立案を実施する。 3. 患者－看護師関係の実際 ・ロールプレイ 振り返り ・自己のコミュニケーションを振り返りプロセスレコードを記載する まとめ	講義 演習 グループワーク
教科書：系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 第6版（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 第6版（医学書院） 評価方法：演習50％・レポート50％			

看護の統合Ⅲ

1単位（15時間）：3学年 前期

担当講師名：池田 緑〔実務経験のある講師による科目〕

ねらい

1. 複数患者を受け持つ看護の実践場面の状況を理解し、チームアプローチとしての対応を学ぶ。
2. チームの一員として看護実践を遂行するために必要な基礎的な能力について、その考え方を知り、自己の課題を考える。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
状況設定による知識・技術・態度の統合演習 (15 時間)	1. 複数患者を受け持つ看護実践場面において、看護の優先度を判断するための、基本的な考え方を理解する。 2. チームワークで行う看護実践に必要な考え方を理解する。 3. 多重課題に対応するために必要な、考え方を理解する。 4. 看護実践における自己課題を意識し、目標を述べられる。	1. 導入:チームで行う臨床看護の実践 ・複数患者受け持ちによる多重課題 ・優先度を考える必要性 ・アサーティブな考え方の必要性 ・ラウンド計画(ワークシート)の必要性 2. 事例(複数患者)に対する事前学習 ・病態の復習と複数患者への優先度を ・考慮した行動計画の立案 3. 行動計画に基づいたグループワーク ・優先度の根拠 4. 事例の状況場面から、多重課題のなかでの看護を考える ・ディスカッション・グループワーク 5. まとめ ・複数患者のアセスメント ・チームワークの意義 ・新人看護師が陥りやすい状況と解決の方向性	講義 個人ワーク グループワーク 演習 グループワーク
教科書：看護の統合と実践1 看護実践マネジメント医療安全（メヂカルフレンド社）第2版			
評価方法：レポート評価（100%）			

看護の統合Ⅳ (国際看護学・災害看護学)

1単位 (30時間) : 3学年 前期

担当講師名: 三上 剛人・松山 尚子・小池 真理子
[実務経験のある講師による科目]

ねらい

1. グローバルヘルスの現状と課題について理解する。
2. 国際看護の必要性を理解し、日本の国際看護活動の現状を理解する。
3. 災害看護の考え方を理解し、適切な災害看護活動を実践する基礎的知識を学ぶ。
4. 災害看護の基本をシミュレーションを通してイメージできる。

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
＜国際看護学＞ 国際看護理解 (2 時間)	1. 国際看護とは何かを理解する。 2. グローバルヘルスの現状と課題を知る。	1. 国際看護の定義 2. 国際看護に関する基礎的知識 3. 保健医療分野の開発理念の変遷 4. 世界の健康課題の現状	講義 担当: 小池 真理子
日本における文化の特徴と在日外国人への看護実践 (2 時間)	1. 日本における「多文化共生社会」の特徴を理解し、看護活動の実際を学ぶ。～T病院の実践を通じて～	1. 日本の文化の特徴と異文化 2. 在日外国人の医療の現状 3. 在日外国人の受療と医療者の対応 4. 事例: T病院の医療・看護実践	講義 担当: 松山 尚子
国際的支援活動の実際 (2 時間)	1. 国際的支援活動の実際と諸外国での看護師の役割を学ぶ。	1. 国際支援活動の実際 ～T病院の実践を通じて～	講義 担当: 松山 尚子
国際協力と国際協力活動 (2 時間)	1. 国際協力機関と協力の仕組みを学ぶ。	1. 国際協力機関①国連機関②政府機関 ③国際NGO④国際救援の調整 2. 開発協力 ①ODA②JICA③国際協力とNGO	講義と講話 担当: 小池 真理子
これからの国際看護 (2 時間)	1. メディア・リテラシー 2. 進化する国際看護を展望する。	1. 情報をどう判断するか 2. 10年後の看護の姿について	講義 担当: 小池 真理子
＜災害看護学＞ 災害医療と災害看護 (4 時間)	1. 近年の災害状況から災害医療・災害看護とは何か考え他者に伝えることができる。	1. 災害看護を理解するための知識 ①災害とは 災害の定義、種類、サイクル 他 ②災害看護とは 災害看護に必要な視点、能力 他	講義・演習 担当: 三上 剛人

単元(時間数)	目 標	内 容	方 法
	2. 災害の定義と種類を列挙できる。 3. 災害医療と災害医療の基礎知識が付き、相違点と共通点が分かる。	③災害関連死 ④災害に関する法律、制度 ⑤災害時の支援体制、医療体制 ⑥要配慮者と支援被災者特性に応じた災害看護 ⑦救急医療との違い 救急医療体制	
災害時に特有の技術と実際 (10 時間)	1. 災害サイクル毎の特徴が説明できる。 2. 災害のフェーズに応じた看護活動の特徴を説明できる。 3. 被災者特性に応じた看護活動が説明できる。 4. 災害にかかわる人々の心理とその援助を説明できる。	1. 安全対策 ①組織レベル ②個人レベル 2. 情報収集と発信 3. トリアージ ①トリアージのポイント ②トリアージタグ 他 4. 応急処置の原則 ①けがの対応 (演習) ②重症外傷の基本対応 5. 搬送 6. 心のケア 7. CBRNE ①NBCE災害 ②E災害とマスキング 8. 災害サイクル各期の看護 9. 災害の備え 10. 災害への備え 11. 被災者特性に応じた災害看護 小児/母性/高齢者/障害者 精神障害/慢性疾患患者 12. 災害とこころのケア 被災者/家族/遺族/被災救援者	講義・グループワーク 演習 担当： 三上 剛人
災害看護の実 (4 時間)	1. 災害現場の具体的なイメージができる。 2. シミュレーションを通し、看護活動を考えることができる。 3. 救護チームとの共同の重要部分を列挙できる。	1. 机上訓練 2. 緊急度判断シミュレーション	講義・演習 グループワーク 担当： 三上 剛人
単位認定試験 (2 時間)	1. 既存の学習内容の自己知識を再確認する。		試験
教科書：看護学テキスト 統合と実践～災害看護 寄り添う、つながる、備える 学研メディカル秀潤社 知って考えて実践する国際看護 (第2版) 医学書院 評価方法：筆記試験 (100%)			